

金沢大学

FD 活動報告書



令和7年度

<目次>

1	令和7年度 全学FD活動概要	1
1-1	本学FD活動の概要	2
1-2	各部局等からの回答をもとにした点検	4
1-3	FD委員会の活動	14
1-4	<ピックアップ>特色あるFD活動	21
1-5	教学マネジメントセンターの活動	36
2	各部局等のFD活動	43
3	各部局等のBSD活動	122
4	資料編	141
4-1	令和7年度授業評価アンケート	142
4-2	令和7年度卒業・修了者アンケート	144
4-3	令和7年度卒業・修了後アンケート	146
4-4	金沢大学FD委員会規程	149
4-5	金沢大学におけるFD活動指針	151
4-6	金沢大学における教育の内部質保証に関する指針	154
4-7	金沢大学履修規程	157
4-8	金沢大学シラバス様式	163
4-9	令和7年度金沢大学FD委員会名簿	164

1 令和 7 年度 全学 FD 活動概要

1-1 本学 FD 活動の概要

本学では平成 20 年度、「金沢大学 FD 委員会規程」（後掲：4 資料編）に基づき，教育企画会議に全学の FD 委員会を設置した。

FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、

授業の内容・方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための教員及び部局等の研究，研修等の自発的取り組みをいう。（金沢大学における FD 活動指針第 2）

FD 委員会は，平成 20 年度に「金沢大学における FD 活動指針」（後掲：4 資料編）をまとめた。同指針は FD 活動が継続的かつ実質的に改善するために，FD 活動をいわゆる PDCA サイクルの中に位置づけている（図 1）。その一環として FD 委員会は各部局等が毎年度作成する報告書に基づき，当該年度の全学における FD 活動に関する報告書（「年度報告書」）を作成することとした。この規定に基づいて作成したものが本報告書である。

本報告書では，各部局等が令和 7 年度の活動に対して行った自己評価のみならず，令和 8 年度における改善に向けての取り組み予定についてもまとめている。これらの点について他部局等の状況を相互に確認し，FD 活動を相互に促進しあうことで，本学全体の FD 活動が継続的かつ実質的に改善することが期待できる。

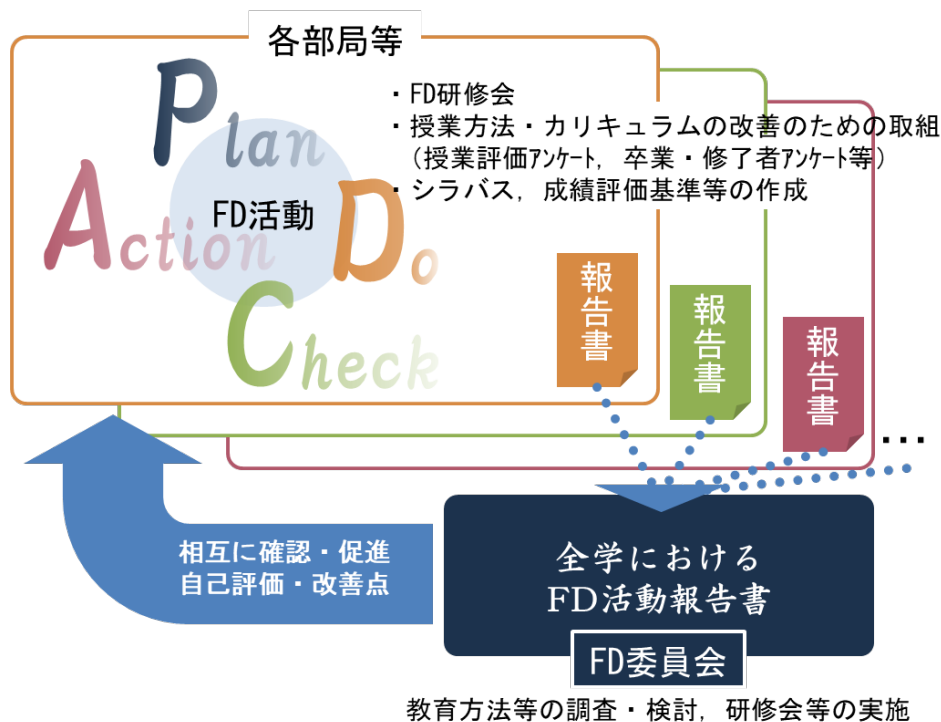


図 1 金沢大学における FD 活動

なお、同指針の特徴の1つとして、授業の内容や方法の改善に関することにとどまらず、学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等、学生支援に関する活動をもFD活動の中を含めている点が挙げられる。この点に関連して、本学では教育企画会議学生生活委員会を中心に「学生支援・学修支援」に資する目的で『教職員必携 学生サポートガイドブック』を毎年度、見直しを行い、アカンサスポータルに掲載している（図2）。その内容は学生相談、留学生支援、キャリア支援、障がい学生支援等、多岐にわたっており、教職員は本冊子を有効に活用することにより、学生が抱えた問題を早期に解決し、すべての学生が「充実した学生生活」が送れるように、学生支援に努めている。

また、教員のFD活動支援や学生支援の分野で、職員の果たすべき役割はより一層大きくなりつつある。こうした現状に鑑み、職員のSD（スタッフ・ディベロップメント）及びBSD（バックアップ・スタッフ・ディベロップメント）活動についての指針を盛り込んでいることも同指針の特徴の1つである。

ところで、同指針では、教学マネジメントセンターがFD及びBSD活動に対して必要な支援を行うことを定めている（「金沢大学におけるFD活動指針」第8）。教学マネジメントセンターが令和7年度に行ったFD・BSD活動及び他部局等のFD・BSD活動に対して行った支援の内容については「1-5 教学マネジメントセンターの活動」において述べる。

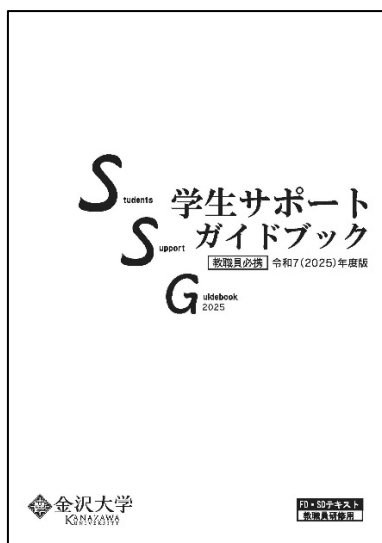


図2 教職員必携 学生サポートガイドブック

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

本学は、学則第3条において、「教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価（以下「自己点検評価」という。）並びに授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う」と定めている。また、「金沢大学におけるFD活動指針」（以下、FD活動指針）においては、研修及び研究につけ加えて、「改善に向けての取組みを、計画・実践・評価・改善のサイクルの中に位置づけ、より組織的かつ継続的に行うことにより、実質的な改善へと繋げていく」としている。この指針を受けて、全学および各部局は、これら学則、「FD活動指針」等に基づきFD活動を推進している。

計画・実践・評価・改善のサイクルとは、学類、専攻ごとに、①学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、卒業・修了時における到達目標を明確にする、②ディプロマ・ポリシーに沿ってカリキュラムを体系化し、各授業科目の役割をマップ及びツリーという形で可視化する、③各授業科目のカリキュラム上の位置付け、教育内容・方法・到達基準をシラバスで学生に伝達する、④授業科目および教育プログラムの達成状況を、成績分布・授業評価アンケート・学修ポートフォリオ・卒業・修了者アンケートで確認する、⑤それらの分析結果に基づいて、各授業科目の教育内容・方法の改善、教育プログラムの改善を行い、部局におけるカリキュラム（マップ及びツリー）を再検証するというものである。

令和5年度から、FD活動報告書の効率的かつ効果的に構成する観点に立ち、各部局への照会事項を厳選した。併せて、各部局等のFD活動の掲載について、照会事項単位での掲載を改め、各部局単位での「FD活動計画」→「諸活動チェック」→「自己評価」という改善向上サイクルを重視する観点から部局単位での掲載とした。令和6年度においても、様式の体裁の一部改善を図った。

さらに、令和7年度からは、各部局向けの記入様式1において、「3つのポリシーの運用状況」という照会事項を新たに加え、「①3つのポリシーの記載内容の確認」「②DP (Diploma Policy) に掲げた学修目標の達成度の把握の状況」を毎年度確認することとした。このことにより、3つのポリシーに関するモニタリングを行うことができるように措置した。

各部局のFD活動を事実に基づき確認するため、「令和5年度FD活動報告書」に記載した当該年度の自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画に沿いながら、「照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況」、「照会事項2 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況」、「照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況」、「照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)」、「照会事項5 令和6年度FD活動の自己点検及び総評」の5項目について照会した。以下に、それらについての回答を点検した結果について述べる。なお、項目によって回答母数が異なる場合もある。

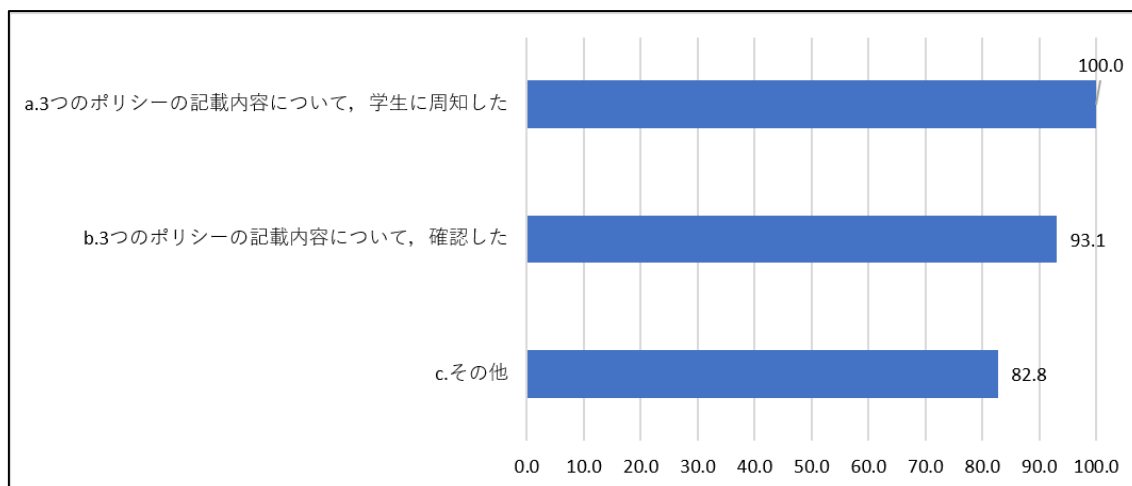
照会事項1 3つのポリシーの運用状況

【検証事項1】令和7年度の実施状況

1) 3つのポリシーの記載内容の確認

3つのポリシーの運用状況については、令和7年度FD活動報告書から新たに加えた照会事項であり、「3つのポリシーの記載内容の確認」と「DP（Diploma Policy）に掲げた学修目標の達成度の把握」の2つに分けた設問を設定している。3つのポリシーの記載内容の確認としては、「3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した」、「3つのポリシーの記載内容について、確認した」、「その他」のチェック欄を設けた上で、その具体的な内容について記述する形としている。

各項目のチェック率は図表1-2-1のとおりであるが、「3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した」については、学生向け履修案内やホームページ等で周知を行っていることから、全部局がチェックした。また、「3つのポリシーの記載内容について、確認した」については、8割を超える部局が記載内容の確認を行っている。



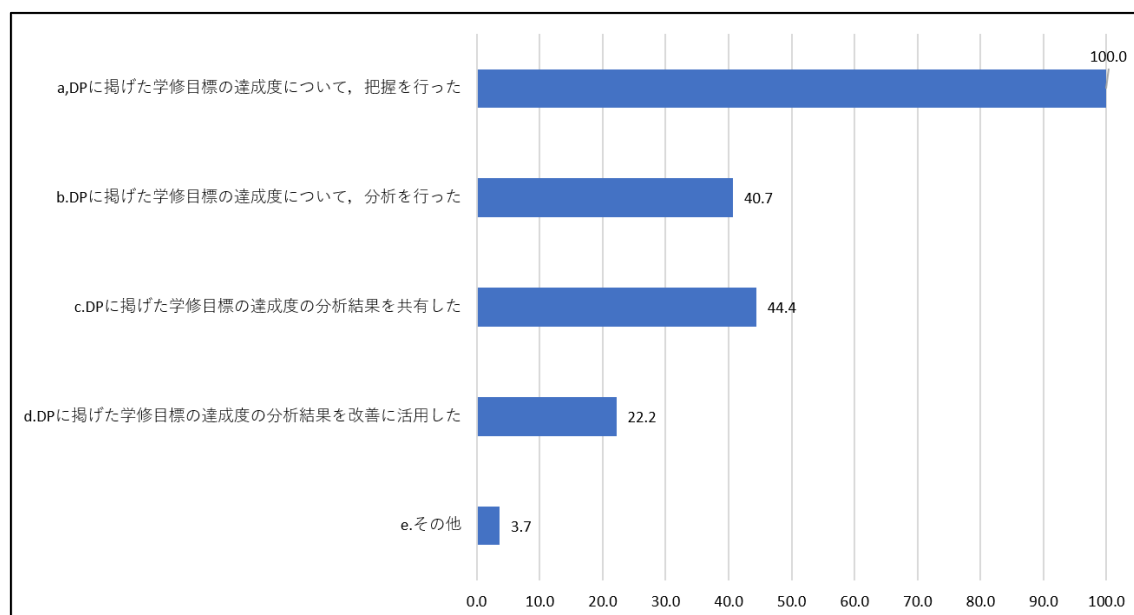
図表 1-2-1 各項目のチェック率（回答母数：26，単位：%）

2) DP（Diploma Policy）に掲げた学修目標の達成度の把握

DP（Diploma Policy）に掲げた学修目標の達成度の把握については、「DPに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った」、「DPに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った」、「DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した」、「DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した」、「その他」のチェック項目を設けた上で、その具体的な内容について記述する形としている。

各項目のチェック率は図表1-2-2のとおりですが、「DPに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った」については全部局がチェックしているが、DPに掲げた学修目標の達成度に関する分析や分析結果の共有は4割程度に留まっている。さらには、分析結果を改善に活用した割合は2割程度である。DPに掲げた学修目標の達成度の把握に留まらず、各部局の教育改善に活かすことに努める必要がある。

1-2 各部署等からの回答をもとにした点検



図表 1-2-2 各項目のチェック率（回答母数：26，単位：％）

照会事項 2 シラバス改善のための取組みの実施状況

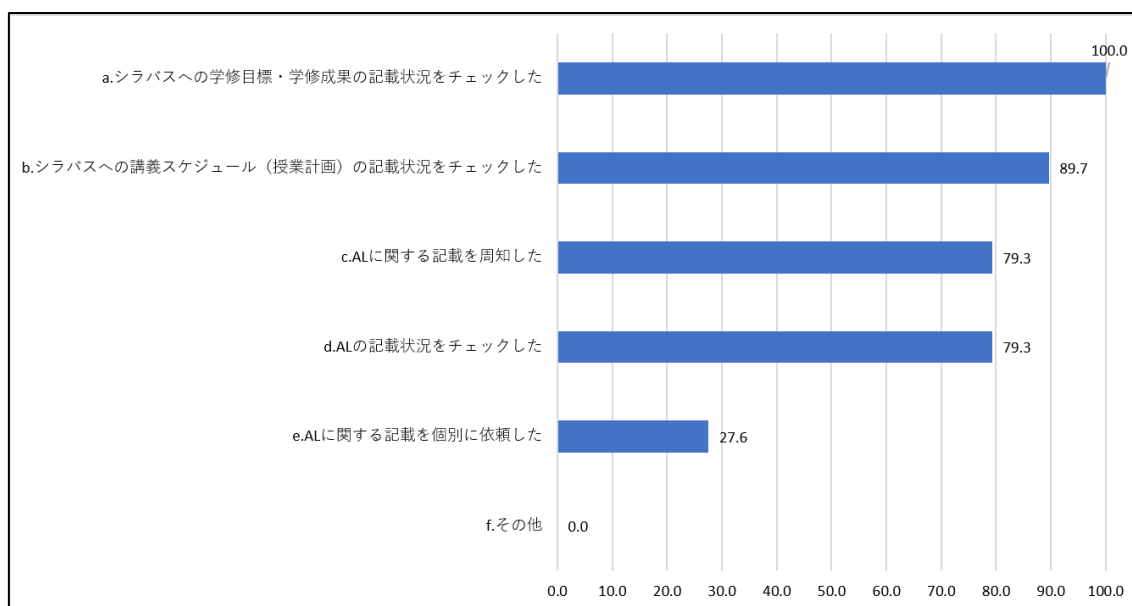
【検証事項 1】令和 7 年度の実施状況

1) シラバスの基本的項目の点検

シラバスの点検については、基本的項目と英語化関連項目の 2 つに分けた設問を設定した。基本的項目としては、「シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした」、「シラバスへの講義スケジュール（授業計画）の記載状況をチェックした」、「AL（アクティブ・ラーニング）に関する記載を周知した」、「AL の記載状況をチェックした」、「AL に関する記載を個別に依頼した」、「その他」のチェック欄を設けた上で、その具体的な内容について記述する形としている。

各項目のチェック率は図表 1-2-3 のとおりであるが、シラバス作成における基本項目である「シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした」については、前年度同様、全部局がチェックした。また、「シラバスへの講義スケジュール（授業計画）の記載状況をチェックした」については、国際学類、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科がチェックしていない。シラバスのチェック体制は改善されつつあるが、引き続き、改善に努める必要がある。

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

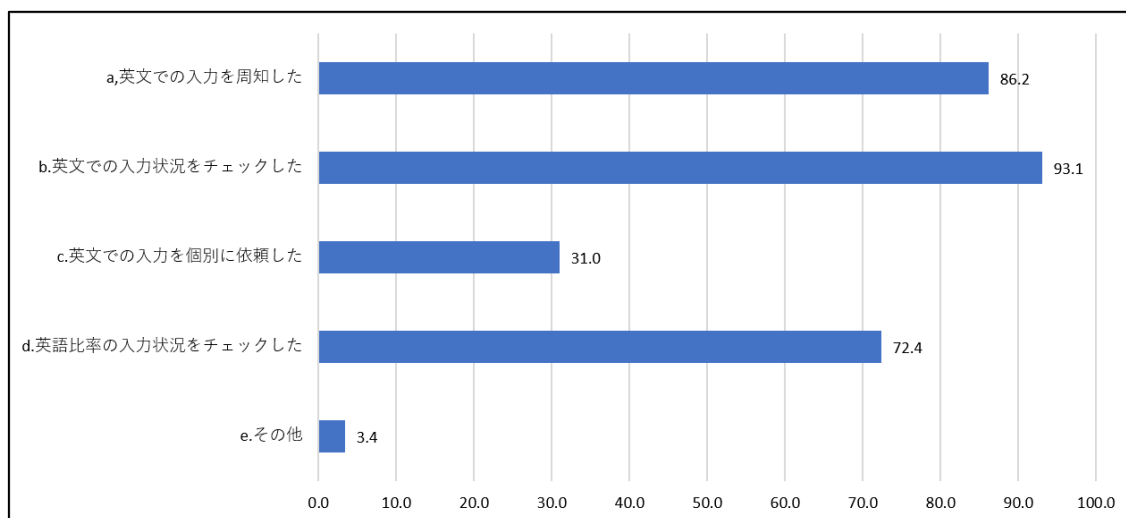


図表 1-2-3 各項目のチェック率（回答母数：29, 単位：％）

2) 授業科目の英語化の点検

次に、英語化関連の設問として、「英文での入力を周知した」、「英文での入力状況をチェックした」、「英文での入力を個別に依頼した」、「英語化率の入力状況をチェックした」、「その他」についてのチェック欄および具体的内容について回答する形としている。

各項目のチェック率は図表 1-2-4 のとおりであるが、「英文での入力を周知した」については物質化学類・物質化学専攻、地球社会基盤学類・地球社会基盤学専攻、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科、「英文での入力状況をチェックした」については国際学類、国際基幹教育院（GS 教育部門）がチェックしておらず、引き続き、改善に努める必要がある。



図表 1-2-4 各項目のチェック率（回答母数：29, 単位：％）

通常のシラバス点検および授業英語化シラバス点検については、毎年度の定期的な作業として定着する傾向にあるが、各種ヒアリング調査等を通して明らかとなる実態は、入力されているかどうかのチェックに留まっていて、シラバスの記載内容に踏み込んだチェックについては、依然として改善の余地が感じられる。また、多くの学類でシラバス点検について、学類会議、教務・学生委員会などを中心に組織的に確認している一方で、個人レベルでの点検実施や、誰がどこで点検したのかが明記されていないケースがいくつか見られたことは今後の課題であると考える。

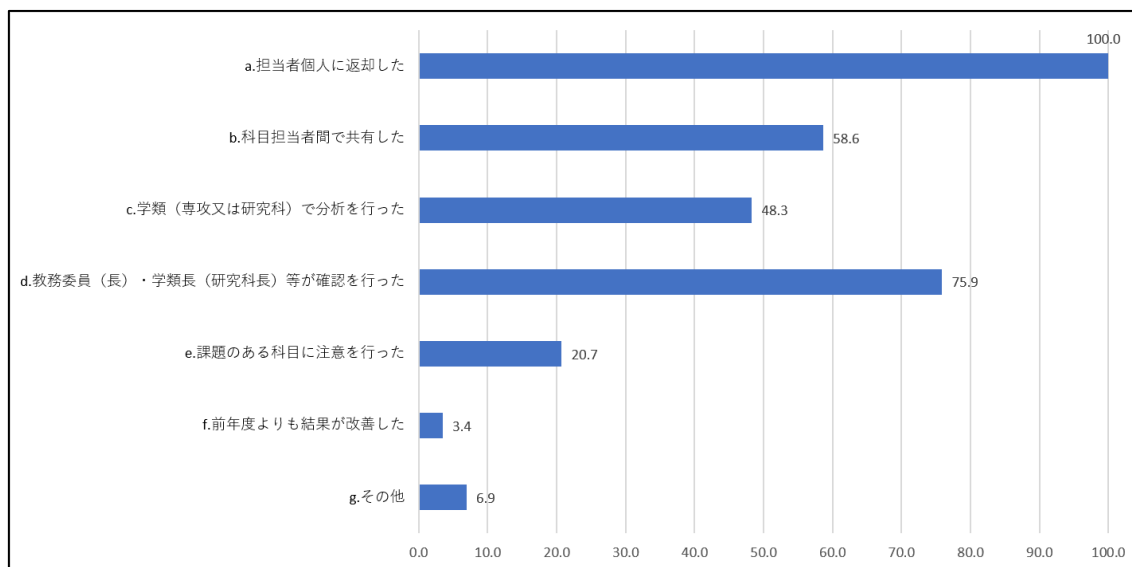
照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

【検証事項1】授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用したか。

1) 授業評価アンケート

授業評価アンケートの結果をどのように授業改善に活用したかでは、「担当者個人に返却した」、「科目担当者間で共有した」、「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」、「教務委員（長）・学類長（研究科長）等が確認を行った」、「課題のある科目に注意を行った」、「前年度よりも結果が改善した」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-5 のとおりであるが、「担当者個人に返却した」が 100% となっているほか、多くの部局において「教務委員（長）、学類長（研究科長）等が確認を行った」にチェックが入っている。今後、さらに、授業評価アンケート結果の利活用を促していく必要がある。



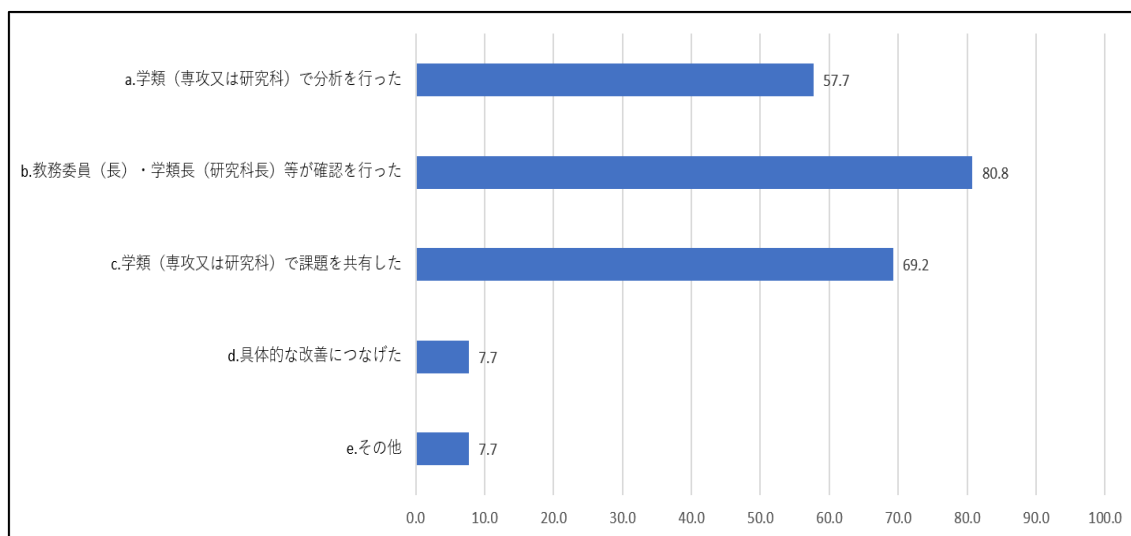
図表 1-2-5 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：％）

「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」で半数前後、「課題のある科目に注意を行った」、「前年度よりも結果が改善した」においては、少数の教育担当部局でしか実施されておらず、さらなる改善を行う必要がある。

2) 卒業・修了者に対するアンケート

卒業・修了者に対するアンケートに関しては、「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」、「教務委員（長）・学類長（研究科長）等が確認を行った」、「学類（専攻又は研究科）で課題を共有した」、「具体的な改善につなげた」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-6 のとおりであるが、保健学類、教育実践研究科ですべての項目にチェックが入っているほか、多くの部局において「教務委員（長）、学類長（研究科長）等が確認を行った」「学類（専攻又は研究科）で課題を共有した」にチェックが入っている。全般的に、前年度と同様に、卒業・修了者アンケート結果の利活用が促進されている。



図表 1-2-6 各項目のチェック率（回答母数：26，単位：%）

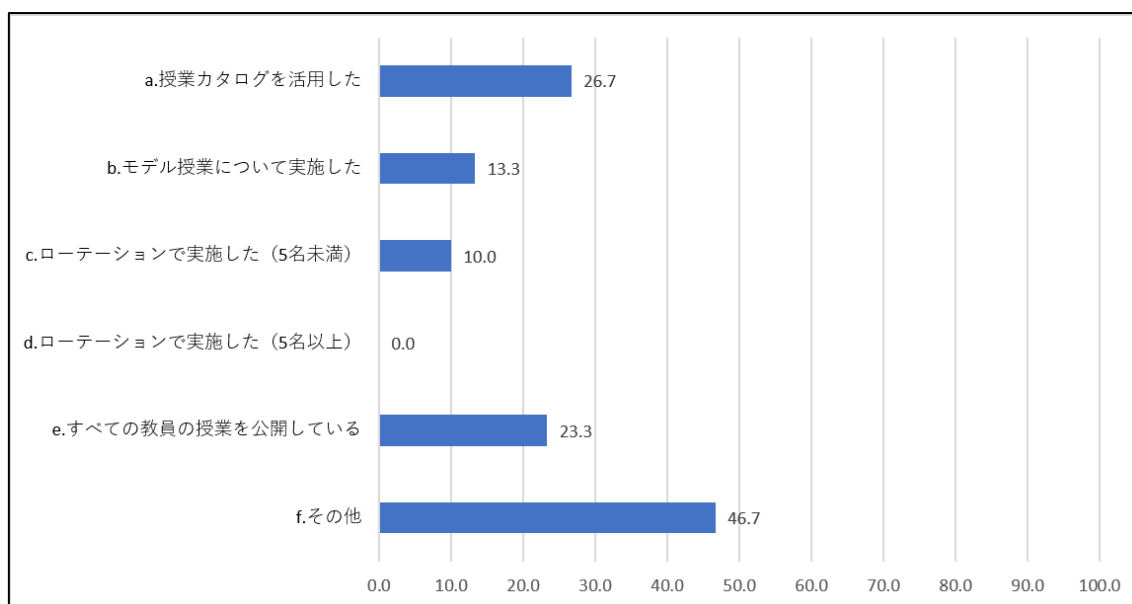
卒業・修了者に対するアンケート結果の確認、共有は一定程度行われているが、具体的な分析や改善につなげることについて課題を残している。

【検証事項2】教員相互の授業参観（遠隔授業の参観を含む）

遠隔授業の参観を含む教員相互の授業参観に関しては、「授業カタログを活用した」、「モデル授業について実施した」、「ローテーションで実施した（5名未満）」、「ローテーションで実施した（5名以上）」、「すべての教員の授業を公開している」、「その他」について回答を求めた。

「授業カタログを活用した」「モデル授業について実施した」「すべての教員の授業を公開している」について、一定程度の取組が見られるが、授業参観という形態でのFDには改善が必要である。一方で、ほかの設問への回答とは大きく異なり、4割の教育担当部局が「その他」にチェックをつけ、各部局特有の工夫を施した多様な取組について回答している。

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検



図表 1-2-7 各項目のチェック率（回答母数：30，単位：％）

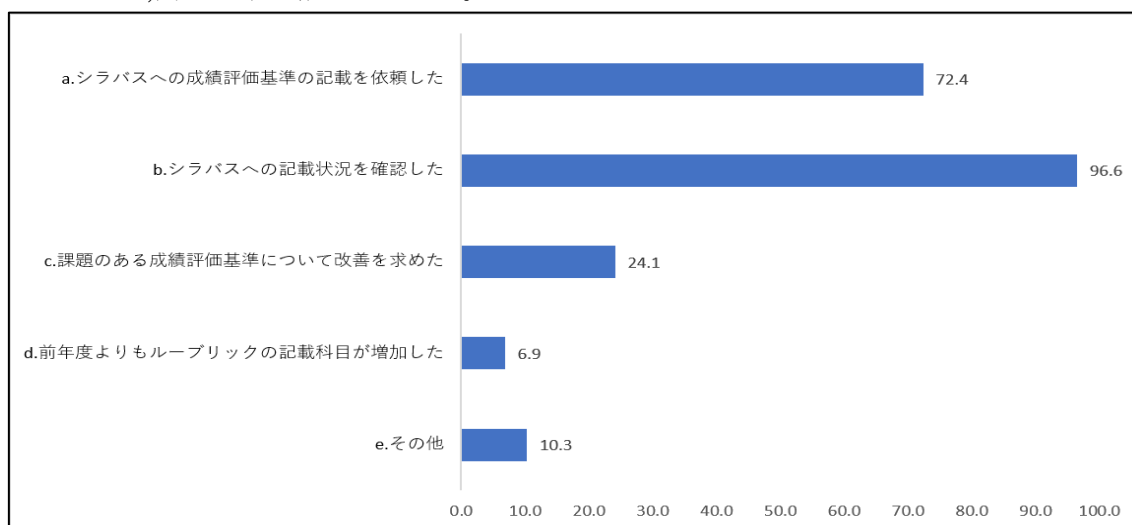
照会事項 4 成績評価基準等の作成・検証状況

【検証事項 1】令和 7 年度の実施状況

1) 成績評価基準等の作成・検証

成績評価基準等の作成・検証では、「シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した」、「シラバスへの記載状況を確認した」、「課題のある成績評価基準について改善を求めた」、「前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-8 のとおりであるが、薬学類・創薬科学専攻・薬学専攻、国際日本研究教育センターでは、全ての項目にチェックがつけられており、成績評価基準に対する積極的な取り組みがうかがえる。前年度同様に、「シラバスへの記載状況を確認した」については、高い水準を維持している。



図表 1-2-8 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：％）

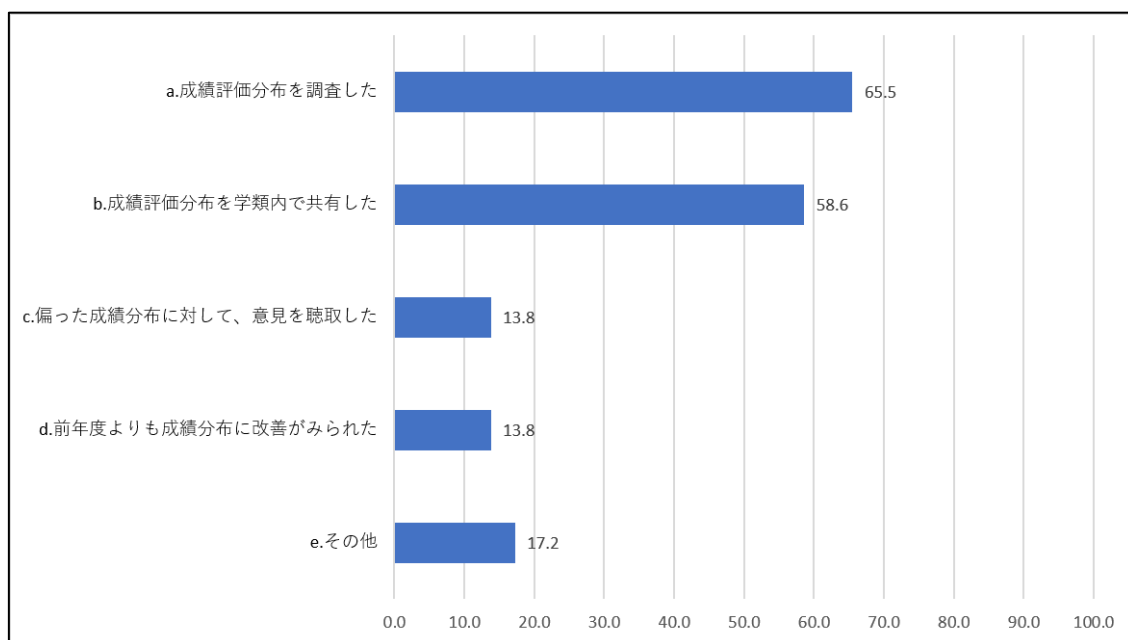
1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

「課題のある成績評価基準について改善を求めた」、「前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した」の数値が低い。ルーブリックについては科目特性の問題、既に多くの科目で記載されている可能性があるためある程度は仕方ないといえるが、課題のある成績評価基準については恒常的なシラバス点検体制の中で可及的速やかに改善されることが望ましく、FDとして課題である。

2) 成績評価方法の検証

成績評価方法の検証に関しては、「成績評価分布を調査した」、「成績評価分布を学類内で共有した」、「偏った成績分布に対して、意見を聴取した」、「前年度よりも成績分布に改善がみられた」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-9 のとおりであるが、機械工学類・機械科学専攻、法学研究科（修士課程・専門職学位課程）では、全ての項目にチェックが入っており、成績分布への関心が高いことがうかがえる。一方、1つしかチェックのない教育担当部局も少数ではあるが存在していることは課題である。成績をつけるのは教員の専権事項ではあるが、あまりに偏りのある成績分布は好ましくないという成績分布に関する認識共有を進める必要性が認められる。



図表 1-2-9 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：%）

「成績評価分布を調査した」「成績評価分布を学類内で共有した」が高い数値を示しており情報共有は浸透していることがわかる。しかし、「偏った成績分布に対して、意見を聴取した」は1割程度、「前年度よりも成績分布に改善がみられた」は2割満たない程度と低い数値となっており、成績分布に関する組織的関与に課題を残している。「その他」では、回答選択肢とは異なるが成績分布への異なるアプローチの工夫が行われていると思われる。

照会事項5 FD研修会の実施状況（本学主催）

融合学域、医学類をはじめとして、部局独自のFD研修会について、近年、充実が見られる。この傾向は、分野ごとにおける教育・学生支援に関する新たなテーマや課題が多いことを表していると言えよう。組織改組やカリキュラム改善等を行った部局においては、直面する新しい課題について、FD研修会のテーマに掲げられている。対面及びオンラインを含めた教授法、学修支援ツールの使い方、研究指導、学生のこころのケア、留学生対応など、幅広いテーマが話題となっている。これらの部局主催FD研修会の中には、教育、研究に関して共有可能なテーマのFD研修会については全学に公開・広報されることが望まれることから、教学マネジメントセンターにおいて共催支援、学内広報支援を行うケースが徐々に増えてきている。

今後の課題

今回、教学マネジメントの観点から、シラバスにおける学修目標・学修成果の記載状況、講義スケジュール（授業計画）の記載状況を新たに点検することにしたこと、さらには、卒業・修了者アンケート結果等を活用しながら、授業改善だけではなく、学位プログラムレベルのカリキュラム改善に着目するようにしたことから、照会事項の改善充実を図った。それらを踏まえて、照会事項1～5の回答を総括し課題について指摘したい。

シラバス改善のための取組みの実施状況に関して、学修目標・学修成果、講義スケジュール、AL関連の記載および英文での入力状況については大半の教育担当部局で確認が行われていた。一方で、個人レベルでの点検実施や、誰がどこで点検したのかが明記されていないケースがいくつか見られた。令和6年度下半期より教務委員会を中心としたシラバス点検体制を整備し、一層の改善充実に努めている。

次に、授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況では、授業評価アンケートおよび卒業・修了者アンケート結果を積極的に活用している教育担当部局があることが明らかになったが、授業評価アンケート結果で課題のある科目への対応が十分行われていないこと、卒業・修了者アンケート結果の分析、それを反映した改善活動が不十分であること、授業参観が不十分であること、課題のある成績基準改善が十分進んでいないこと、偏った成績分布への対応が不十分であること、など、今後の課題も見えてきた。

教員相互の授業参観については、Web上で確認できる授業カタログの活用は一定程度進んでいることが確認できたが、具体的な授業参観についてはまだまだ低調であることも判明した。ただし、授業参観以外の多様な形態での教員間での情報共有、情報公開は実施されていることが「その他」への回答から見て取れるため、今後の改善充実を活かしていきたい。

成績評価基準等の作成・検証状況に関しては、成績評価分布の部局内での共有は進んでいるが、偏った成績分布への対応が不十分な点が明らかになっている。このことは、成績評価に関する組織的な関与について、更なる改善充実を進める必要がある。

1－2 各部局等からの回答をもとにした点検

学修目標・学修成果を明確にしたシラバス作成、それに基づく授業実施および成績評価、授業評価アンケートおよび卒業・修了者アンケート結果による改善がよりよい授業を作る上での PDCA サイクルであり、今後の改善が一層必要であることが、今回の照会事項への回答から明らかになった。

令和 5 年度に策定した「金沢大学における教育の内部質保証に関する指針」（後掲：4 資料編）に明記されているとおり、各部局からの FD 活動報告は学位プログラムレベルや授業科目レベルのモニタリング機能として重要な位置付けとなっている。3 つのポリシーを念頭においてカリキュラム改善、授業改善が一層進むよう、当該年度の自己評価及び総評、さらには、翌年度に向けた改善計画を通して、学生のためにより良い教育を提供できるように努めていく必要がある。毎年のように新たな課題が出てくるが、教育担当部局として学修者重視の姿勢の下、教員間での認識を共有し、課題、解決方法を組織として検討するという体制を構築・維持していくことが、自己評価 4（大いに評価出来る）につながると考えられる。

1-3 FD委員会の活動

令和7年度における活動		
令和7年4月4日	(金)	第1回全学FD研修会「新任教員説明会＜教育・学生編＞」開催
令和7年7月16日	(水)	第2回全学FD研修会「大学院における分野横断型教育の意義と価値～ラボローテーションを中心に考える～」開催
令和7年8月1日	(金)	第1回FD委員会開催
令和7年8月28日	(木)	第2回FD委員会開催（書面附議）
令和7年10月21日	(火)	第3回全学FD研修会「学士課程の共通教育に求められるコンセプトと設計～金沢大学共通教育改革を中心に～」開催
令和7年12月1日	(月)	第3回FD委員会開催
令和7年12月5日	(金)	第4回全学FD研修会「FD活動報告書成果発表会」一学類等における組織的FDの取組事例一開催
令和7年12月23日	(火)	第1回FD・SDラウンジ
令和8年2月17日	(火)	第2回FD・SDラウンジ
令和8年3月6日	(金)	第4回FD委員会開催（書面附議）
令和8年3月26日	(木)	金沢大学 教学マネジメントセミナー2026 「多文化共修を通じた学修成果を考える～効果的な授業設計と運営方法を参考に～」開催

- 各委員会の協議・報告事項及び議事要旨については下記にて公開している。
「アカンサスポータル」→「業務」→「業務マニュアル等リンク集」→
「会議」→「学内会議の議事要旨等」
<https://manual.w3.kanazawa-u.ac.jp/index.php/gakunaikaigi/>（学内限定）
- 各研修会（共催企画は除く。）の動画又は資料については本学ポータルサイト（アカンサスポータル）にて公開しているので、教職員は随時閲覧可能である。

1-3 FD 委員会の活動

● 【研修会】

第 1 回全学 FD 研修会「新任教員説明会＜教育・学生編＞」		
主 催	教育企画会議専門委員会 FD 委員会及び教学マネジメントセンター	
日 時	令和 7 年 4 月 4 日（金） 10 時 00 分～11 時 55 分	
会 場	総合教育講義棟 2 階 A1 講義室	
対 象	令和 6 年度研修会（令和 6 年 4 月 4 日開催）以降に本学に採用された教員を主とし、関心のある教員や学務系職員の参加も可能	
参 加 者	59 名	
概 要	新任の教員を主な対象とする全学の研修会は、平成 20 年度から毎年度開催している。従来は、「教養教育担当に関する初任者研修」（共通教育機構が実施、平成 16～18 年度）、「新任教員等研修会（兼共通教育担当に関する研修会（初任者対象））」（教育担当理事と共通教育機構長の連名で実施、平成 19 年度）として開催されてきた。 本学における授業支援体制と学生支援の取組を把握することで、教育体制全般に対する理解を深めることを目的とする。	
プログラム	(1) アカサポータル及び教務システムの活用 (森 祥寛 学術メディア創成センター 助教) (2) 学生指導と支援 (尾崎 紀之 学長補佐（入試・学生募集・高大院接続・学生支援担当）) (3) 学生の心のケア及び学生相談（足立 由美 保健管理センター 教授） (4) FD 及びシラバス（林 透 教学マネジメントセンター 教授）	
アンケート 結果 抜 粋	・ 9 月に着任したため、着任直後に知りたかった。動画のアーカイブを残し、いつ着任しても見れるようにしてほしい。 ・ 現実の学生対応はいろいろと難しいと思うが、まず基本的な指針や体制を示していただいてありがたかった。	

第 2 回全学 FD 研修会「大学院における分野横断型教育の意義と価値～ラボローテーションを中心に考える～」		
主 催	教育企画会議専門委員会 FD 委員会	
共 催	教務委員会、教学マネジメントセンター	
日 時	令和 7 年 7 月 16 日（水） 10 時 00 分～12 時 00 分	
会 場	Zoom によるオンライン開催	
参 加 者	58 名	
概 要	東北大学における先進的な取組に関する基調講演に加え、本学における異分野研究探索（ラボローテーション）に関する事例紹介を行うことを通して、大学院における分野横断型教育の意義と価値に関し参加者とともに考えた。	
プログラム	・ 基調講演「東北大学大学院における分野横断型教育とトランスファラブルスキル養成～大学院学生に求められる新しい学びの姿～」 (講師：安藤 晃 東北大学 高等大学院機構大学院改革推進センター長) ・ 事例紹介 「人間社会環境研究科における異分野研究探索の授業実践」 (人間社会研究域人文学系 猪瀬 千尋 准教授) 「自然科学研究科における異分野研究探索の授業実践」 (理工研究域数物科学系 長尾 秀実 教授) 「医薬保健学総合研究科における異分野研究探索の授業実践」 (医薬保健研究域医学系 三枝 理博 教授)	

1-3 FD委員会の活動



アンケート結果抜粋

- ・東北大学の先進的な取組や組織体制を知ることができ、有意義だった。
- ・分野横断型教育を全学的に推進するにあたり、あまり馴染まない分野もあると思われるが、教員側の理解がより一層必要であるように感じた。

第3回全学FD研修会「学士課程の共通教育に求められるコンセプトと設計～金沢大学共通教育改革を中心に～」

主催	教育企画会議専門委員会FD委員会
共催	ソーシャルインパクト創出のための多文化共修キャンパス形成推進本部・教務委員会・教学マネジメントセンター・国際基幹教育院FD委員会・公益社団法人大学コンソーシアム石川
日時	令和7年10月21日(火) 13時00分～15時00分
会場	Zoomによるオンライン開催
参加者	130名
概要	岡山大学において令和7年度から導入した新しい共通教育に関する基調講演に学びながら、高大接続を意識しつつ、これからの大学に求められる共通教育のあり方について、参加者とともに意見交換した。
プログラム	・基調講演 「岡山大学Target2025（教育改革）のコンセプトと設計～これからの共通教育に求められる学びとは～」 (講師：和賀 崇 岡山大学 教育企画室 准教授) ・取組報告 「金沢大学における共通教育改革」 (国際基幹教育院長 垣内 康孝 教授) 「金沢大学における多文化共修科目の設計」 (学長補佐(企画評価・教育改革・学生募集・高大院接続担当) 谷内 通 教授)

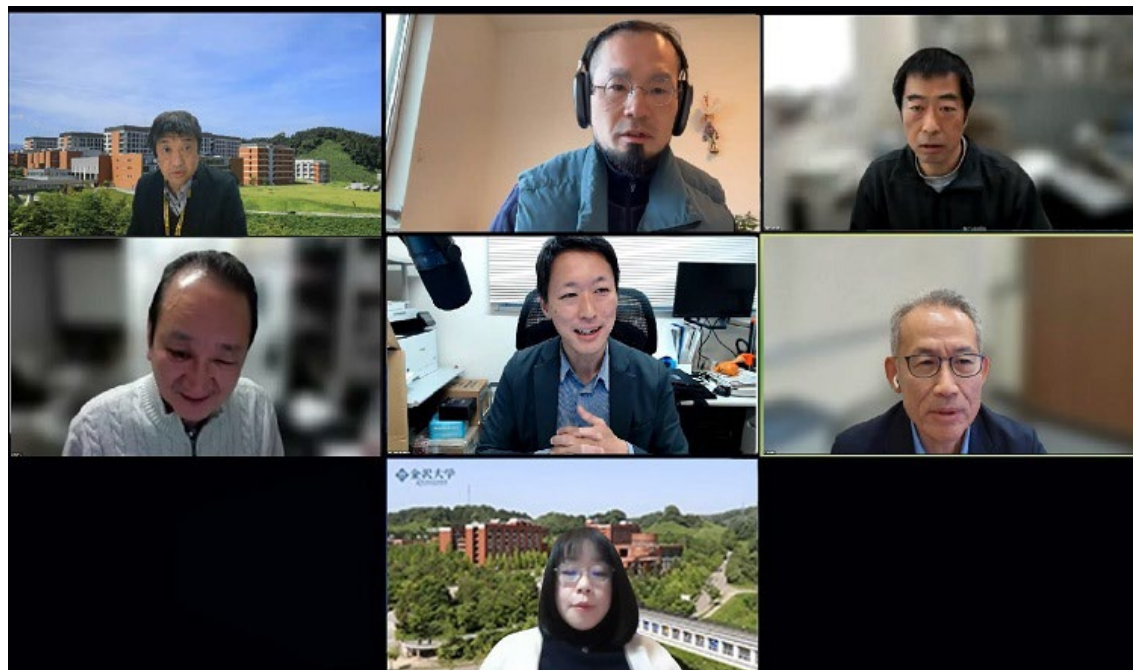


1-3 FD 委員会の活動

アンケート 結果抜粋	・入試改革を起点として、新指導要領を踏まえた全学的な初年次教育改革へと展開していった岡山大学での取組の流れをととても分かりやすく説明して頂き、学ぶところが多かった。 ・金沢大学における共通教育改革の歴史や現状、今後目指していく方向性が分かり、大変参考になりました。
---------------	---

第4回全学FD研修会「FD活動報告書成果発表会—学類等における組織的FDの取組事例—

主 催	教育企画会議専門委員会 FD 委員会及び教学マネジメントセンター
日 時	令和7年12月5日（金） 10時00分～11時50分
会 場	Zoomによるオンライン開催
参 加 者	41名
概 要	金沢大学では、毎年度部局ごとの組織的なファカルティ・ディベロップメント(FD)活動について「金沢大学 FD 活動報告書」としてまとめ、公開することで活動の共有と振り返りを図っている。令和6年度FD活動報告書においては、学問分野の特性に応じた活発な取組みを紹介しており、部局を越えて参考になる事例が多い。教学マネジメントセンターによる令和6年度FD活動に関する概要報告に続き、今回は、経済学類、学校教育学類、数物科学類、電子情報通信学類及び医学類におけるFD活動を全学的に共有した。



プログラム	・令和6年度FD活動に関する概要報告 (報告者：教学マネジメントセンター副センター長 林 透 教授) ・各学類等におけるFD活動報告 「経済学類におけるFD活動」 (人間社会研究域経済学経営学系 鈴木 智気 講師) 「学校教育学類におけるFD活動」 (人間社会研究域学校教育系 江藤 望 教授) 「数物科学類におけるFD活動」 (理工研究域数物科学系 岩崎 宏 准教授)
-------	---

1-3 FD委員会の活動

	「電子情報通信学類におけるFD活動」 (理工研究域電子情報通信学系 松田 昇也 准教授) 「医学類におけるFD活動」 (医薬保健研究域医学系 太田 邦雄 教授)
アンケート 結果 抜 粋	・各部局で講義内容等に合わせて様々な取り組みが行われていることを具 体例を通して説明いただけてとても参考になりました。

第1回FD・SD ラウンジ「エクセルと生成AIを活用したデータ集計・可視化の方法を学ぶ ～DX・IR基礎講座(第2弾)～」

主 催	教学マネジメントセンター
日 時	令和7年12月23日(火) 13時30分～15時00分
会 場	Zoomによるオンライン開催
参 加 者	54名
概 要	令和6年度開催し好評を博した日常業務に活用できるDX(デジタル・トランスフォーメーション)やIR(インスティテューショナル・リサーチ)に関連した基礎講座の第2弾を開催した。講演の中では、ダミーデータによる実践用デモも行われた。



プログラム	エクセルと生成AIを活用したデータ集計・可視化の方法を学ぶ ～DX・IR基礎講座(第2弾)～ (講師: 大関 智史 宮崎大学 IRセンター専任講師/金沢大学教学マネジメントセンターアドバイザー)
-------	---

第2回FD・SD ラウンジ「今改めて、学修ポートフォリオの機能や効果について考えてみよう」

主 催	教学マネジメントセンター
日 時	令和8年2月17日(火) 10時00分～11時50分
会 場	Zoomによるオンライン開催
参 加 者	101名
概 要	学修ポートフォリオの現状や可能性について事項整理しながら、効果的・効率的なシステム構築や具体的な運用のあり方について、議論を行った。

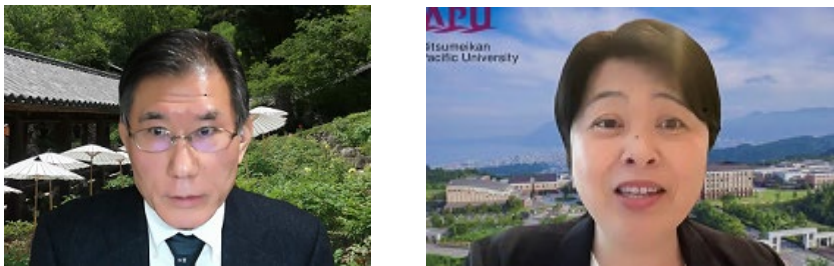
1-3 FD委員会の活動

	
プログラム	・講演 (1) 「学修支援システムとしての学修ポートフォリオの機能と効果～ユーザーインターフェイスを重視した設計を中心に～」 (講師：長谷川 忍 北陸先端科学技術大学院大学 遠隔教育研究イノベーションセンター長・教授／金沢大学 教学マネジメントセンター アドバイザー) ・講演 (2) 「20年の歴史を誇る九工大「学修自己評価システム」の機能と運用～学士課程から大学院課程への展開～」 (講師：大石 哲也 九州工業大学 学習教育センター副センター長・教授)
アンケート 結果 抜 粋	・他大学様の取り組みを知ることができ、非常に有意義な時間となりました。 ・学生が自分事として用いるための制度・仕組み、仕掛けのあり方が課題と感じます。

金沢大学 教学マネジメントセミナー2026

「多文化共修を通じた学修成果を考える～効果的な授業設計と運営方法を参考に～」

主 催	教育企画会議専門委員会 FD 委員会及び教学マネジメントセンター
共 催	ソーシャルインパクト創出のための多文化共修キャンパス形成推進本部多文化共修部会、金沢大学教務委員会、公益社団法人 大学コンソーシアム石川
日 時	令和8年3月26日(木) 10時00分～12時00分
会 場	Zoomによるオンライン開催
参 加 者	74名
概 要	他大学における多文化共修に関連した効果的な授業設計と運営方法に学ぶため、大正大学 井上 雅裕 教授と立命館アジア太平洋大学 カッティング美紀 教授を講師にお招きし、多文化共修を通じた学修成果について、参加者とともに考えた。

	
プログラム	・基調講演 (1) 「大学教育における多文化共修の可能性と課題」

1-3 FD 委員会の活動

	～国際 PBL やマイクロクレデンシャルの実践と機能から学ぶ～」 (講師：井上 雅裕 大正大学 教授, 芝浦工業大学 名誉教授 一般社団法人日本マイクロクレデンシャル機構 理事) ・基調講演 (2) 「多文化共修を支援するスチューデント・アシスタント (SA) の機能と効果 ～学修者中心の教育の実現のためのプラットフォーム～」 (講師：カッティング 美紀 立命館アジア太平洋大学 教育開発・学修支援センター長・教授)
アンケート 結果 抜 粋	・グローバルコンピテンシー含め教育効果可視化部分が非常に参考になりました。 ・制度と具体的実践の双方の内容からなる大変充実したセミナーでした。

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

令和7年度における全学及び各部局等のFD活動は種々実施され、全学のFD研修会（前掲：1-3）及び各部局等のFD研修会（後掲：2 各部局等のFD活動）も多数実施された。
 その中で、特色あるFD活動を各々1つピックアップし、紹介する。

【学域等及び研究科単位】

学域（融合学域、人間社会学域、理工学域、医薬保健学域）、研究科（新学術創成研究科、人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科）、国際基幹教育院で実施している特色あるFD活動は次のとおり。

部局名	FD活動
融合学域	融合学域3学類は、融合研究域融合科学系に所属する教員が主となり教育担当していることから、FD活動は3学類合同で実施し、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を構築している。 令和3年度に融合学域先導学類を設置し、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、3学類体制となった。既存の学域・学類からの異動、新規採用教員等、教員も年々増加している状況で、融合学域の理念である「文理医融合教育によりイノベーションを起こす人材の養成」に向け、FD活動を行っている。 令和7年5月には、「融合とは何か？」について、創設メンバーから当時の策定の経緯などの説明を受け、融合研究域所属教員で共有し、それぞれの考え方の重なりや違いについて意見交換、問題提起を行う融合系将来検討会を開催し、今後の学生の指導方針等に役立てることとした。 融合学域FD研修会は定期的に企画し、令和4年度7回、令和5年度10回、令和6年度7回、令和7年度2回と4年間で26回開催となった。 また、令和5年度からは教員の研究シーズ紹介を定期的の実施し、各教員の研究内容、進捗状況等の紹介を受け、自身の研究との融合、共同研究につなげる可能性を探っている。 加えて、融合系教員は、令和7年度に設置した新学術創成研究科総合知創出科学専攻担当をしており、総合知創出科学専攻のFD活動を兼ねて各活動を実施している。
人間社会学域	令和7年度は、人間社会学域として4回のFD研修会を実施した。詳細は以下のとおりである。 ① 令和7年6月11日に経済学類主催により、「あなたの就職活動に『国家公務員』という選択肢を」と題した研修会を実施した。講師には、人事院公平審査局長の役田平氏を迎えた。 ② 令和7年9月25日、学校教育学類主催により、共同教員養成である富山大

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD活動
	学との合同研修会を実施した。研修では、両大学の教育実習体制について報告を行うとともに、それぞれの教育効果について協議した。 ③ 令和7年12月18日、経済学類主催により、「フューチャー・デザインを学ぶ」と題してFDセミナーを開催した。 ④ 令和8年2月3日、総合相談室の高山知明先生を講師に迎え、「教員のためのリスクマネジメント」と題したハラスメント防止研修会を実施した。 (対面での参加は38名参加 オンデマンド配信も実施、その後、収録ビデオは総合相談室の研修用として活用される予定)
理工学域 自然科学研究科	理工学域・自然科学研究科では、3月11日（水）13時30分からオンラインにて第17回理工FDシンポジウムを開催した。新型コロナウイルスの大流行以降、各教員はオンデマンド・オンライン・ハイブリッド・ハイフレックスなどの授業形態のスキルを身に付けてきた。令和6年度までのシンポジウムでは各々の講義形態の学習効果（学生の理解度）を解析する試みが行われてきた。 現在までのシンポジウム内容を基に、令和7度の「特別講演」では、教育効果を高める学び方として注目されているPBL（Problem/Project Based Learning）について実績のある東京都市大学教育開発機構 教授、同機構副機構長 伊藤 通子 先生に、「理工系PBL科目の実践と、PBLを軸としたカリキュラム設計」という題目で特別講演をいただき、PBLによる授業の実施をする際のポイントを解説していただいた。参加人数は75名であった。 PBLの歴史的背景も紹介いただき、具体的な実践方法も解説いただいてPBLを利用した授業により学生が効果的な学びを深めることができることを知ることができた。また、卒業研究などでのPBLを利用した具体例も紹介いただいた。講演後は活発な質疑応答が行われ、授業改善に向けて様々な知見を得ることができた。
医薬保健学域 医薬保健学総合研究科	医学類FD委員会が主体となり、令和7年度は学内外の講師を招き、計7回の医学系FD研修会を実施した。内容は、医学類の教育理念・カリキュラムの共有に加え、総合診療医養成、多職種連携教育（IPE）、ハラスメント防止、評価手法（OSCEにおけるIRT導入）など、教育の質向上に資する多様なテーマを扱った。特に、医療人材教育研究センターや金沢学術アカデミーと連携し、医学系に加えて薬学系・保健学系教員も参加可能とすることで、IPE推進に資する学類横断的なFD体制を構築している点が本部局の特徴である。また、資料および録画動画をLMS「医学FD」に掲載し、教員が随時視聴可能な環境を整備している。さらに、参加回数が年2回未満の教員にはオンデマンド教材の視聴とレポート提出を課し、継続

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD活動
	的なFD参加を促進している。
新学術創成研究科	本研究科は3つの専攻で構成されており、それぞれの専攻の特性を踏まえ、FD研修会は専攻単位で実施している。 総合知創出科学専攻は、融合学域から接続される専攻であることから、融合学域と合同でFD研修会を開催している。令和7年度は、研究者倫理やハラスメントをテーマとした研修会を実施したほか、教員による研究シーズの紹介を定期的に行い、各教員の研究との融合や共同研究への発展可能性を探っている。また、令和7年度は授業の英語化率及び具体的な対応方法を調査し、その結果を取りまとめて専攻会議で共有した。他の教員の工夫や事例を共有することにより、各教員が授業の英語化推進を検討する契機とした。 融合科学共同専攻は、北陸先端科学技術大学院大学との共同専攻であるため、両大学の教員合同で年1回FD研修会を開催している。専任教員による研究内容の紹介を通して相互理解を深めるとともに、共同研究の可能性について検討する機会としている。これまでの主なテーマとしては、令和5年度「社会人の受入れ」、令和6年度「学生募集」「異分野融合科目の検討」「異分野融合型研究支援制度」、令和7年度「融合人材の育成」を取り上げ、活発な意見交換を行ってきた。また、令和6年度からは北陸先端科学技術大学院大学のサテライトオフィスにおいて対面開催とし、教員間の交流促進の場としても機能している。 ナノ生命科学専攻では、専攻特有の課題に即したテーマを設定し、FD研修会を実施している。令和5年度は「留学生の受入れ・教育における注意点」についてワークショップ形式で実施した。令和6年度は、専攻の授業内容や研究指導、奨学金制度について理解を深める内容とし、令和7年度は総合相談室の相談員を講師に迎え、「教員のためのリスクマネジメント」をテーマに研修を実施し、活発な意見交換が行われた。 このように、各専攻において求められるテーマを踏まえたFD研修会を実施しており、今後も各専攻が抱える課題に基づき、継続的に研修会を計画・実施していく予定である。
人間社会環境研究科	本研究科では、FD活動を通じて大学院担当教員に新たに求められる運営知識、問題や課題の意識向上を目指している。令和7年度は4回のFD研修会を実施した。第1回から第3回のテーマは、高度専門職人材養成のための諸課題（第1回）、ハラスメントに関する教員側の意識の向上（第2回）、人文系大学院におけるデジタル教育（第3回）であった。第4回のFD研修会は、人間社会環境研究科Xプログラム主催の「第2回 未来知融合シンポジウム」と兼ねたもので、人間行動データの収集・管理・利活用における課題や今後の可能性について、外部からの講演者3名による事例報告について学び、活

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD活動
	発な議論を行うことができ、令和8年4月の「データプライバシーエキスパート養成プログラム」開始に向けた準備として大変有益であった。 本研究科の現在の大きな問題として、博士後期課程において標準修了年限を超えて在籍する学生の数が多いことがある（令和7年度末時点での博士後期課程在籍者87名中、長期履修者を除く24名が3年を超えて在籍）。また、博士後期課程学生の投稿論文執筆の面で、令和7年度修了者（12名）の在学中の投稿（且つ採択）論文数は1名あたりの平均で3.5本であり、数の上では少なくないが、学外の学術雑誌（特に国際的な学術誌）への投稿が少ないのが現状である。こうした問題に対処するため、令和8年度以降、学生の論文執筆（学位論文・投稿論文の双方）に対する教員の指導力を改善するためのFD活動に取り組む必要がある。
国際基幹教育院	国際基幹教育院では、外国語教育系とGS教育系が協力し、分野の多様性を活かしたFD活動を展開している。令和7年度は令和6年度から両系合同で開始した「Open Class Week」について、より多くの教員が参加できるよう、参観可能期間を前年度の2週間からクォーター全体とする「Open Class Quarter」として実施、27名の教員（外国語系は全教員参加）が合計119コマの授業を公開した。生成AIを利用したクラスなどもあり、多くの教員が系を超えて複数の授業を参観した。後半には合同で懇親会を開催し、学問分野を超えて教授法についての活発な意見交換が行われた。終了後実施した簡易アンケート調査では、相互の学びについて好意的な意見が多くみられた。また令和8年度から始まる多文化共修授業に向けてのテーマ、令和6年度から引き続いての生成AIと教育に関するテーマを積極的に扱い、英語授業の強化に向けた研修もこれまでに引き続き力を入れた。

【学類単位】

今回は、融合学域3学類、地域創造学類、物質化学類、フロンティア工学類及び薬学類で実施している特色あるFD活動を紹介する。

○融合学域3学類（先導学類・観光デザイン学類・スマート創成科学類）

取組名称	GPS-Academic受験結果から
開催日	令和7年7月31日
参加人数 (概数)	25名

融合学域では、令和5年度、令和6年度に先導学類学生を対象に、GPS-Academic受検を課し、その結果について融合学域FD研修会で共有、学生の問題解決能力、意識変化等について意見交換を行った。

GPS-Academic は答えが1つではない問いに対して問題を解決する力を「思考力」「姿勢態度」「経験」の3観点で測定。

2年間のデータより、学生の問題解決能力の変化、意識変化等が確認できた。

各学年の結果は、他大学等を含めた全受検者の同一学年の結果より、思考力、姿勢・態度、経験のほぼすべての項目で高い結果となっている。

令和5年度3年の学生が令和6年度4年に受検した自己評価結果では、複数の項目で伸びを感じていることがわかった。

目標・カリキュラム・授業内容の理解については、令和5年度と令和6年度の同学年の比較でも、複数の項目で伸びが確認できた。

先導学類の結果を踏まえ、観光デザイン学類及びスマート創成科学類においても、学生の問題解決能力等の向上に向け、意見交換を行った。

受検者人数

	1年	2年	3年	4年	計
令和5年度	16	38	36	—	90
令和6年度	15	13	35	50	113

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

GPS-Academic 測定項目「答えがひとつでない問題を他者と関わり合いながら問題解決する力」							Benesse i-Career	
直接評価 (スコア)	大項目	測定項目	下位項目	内容	目安時間	新・社会人基礎力	学力の3要素	
	考え抜く力 思考スキル	思考力総合スコア (問題を解決する思考スキル)	批判的思考力	情報を抽出し吟味する力 ★論理的に組み立てて表現する	45分	考え抜く力	思考、判断、 表現力	
			協働的思考力	他者との違い、共通点を理解する力 ★社会に参画し人と関わる				
			創造的思考力	情報を関連付ける力 ★問題をみだし解決策を生み出す				
	他者と関わり合いながら 働く力 姿勢・態度	レジリエンス (精神的なタフさ)	ストレス耐性	感情の制御	10分	チームで働く力	主体性をもって 多様な人々と 協働して 学ぶ態度	
			回復力	立ち直りの早さ				
			自己統制力、柔軟性	状況に応じ冷静に対応する				
	前に踏み出す 経験	リーダーシップ (物事に向かう前向きさ)	自主性、率先性	自ら先頭に立って進める	5分	前に踏み出す	主体性をもって 多様な人々と 協働して 学ぶ態度	
			チャレンジ精神、開放性	未知の物に挑戦する				
			持続力、誠実性、勤勉性	粘り強くやり抜く				
間接評価 (達成率&回答)	何を学ぶか、どのように学ぶか どう活躍するか アンケート	経験総合 (認識している問題解決の経験)	対人関係	多様性を受容する経験 関係性を築く経験 議論する経験	5分	前に踏み出す	主体性をもって 多様な人々と 協働して 学ぶ態度	
			計画・実行	課題を設定する経験 解決策を立案する経験 実行・検証する経験				
	何を学ぶか、どのように学ぶか どう活躍するか アンケート	学生意識調査 全国標準アンケート	新入生版	大学納得度・志望度、退学検討 教育力認識、大学観 など	20分	★記述式で測定	※大学独自設問について 25年度より選択設問最大50問に拡大	
			在校生版	大学満足度、カリキュラム評価、 イメージ変化、授業役立ち度、など				
			*大学独自設問	選択設問15問、自由記述3問				

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.

2024年度貴学受験状況

受験期間：2024/7/10～12/28

受験対象	2023		2024	
	登録人数	受験人数	登録人数	受験人数
融合学域先導学類_1年	51	16	53	15
受験対象	2023		2024	
	登録人数	受験人数	登録人数	受験人数
融合学域先導学類_2年	55	38	55	13
受験対象	2023		2024	
	登録人数	受験人数	登録人数	受験人数
融合学域先導学類_3年	65	36	57	35
受験対象	2023		2024	
	登録人数	受験人数	登録人数	受験人数
融合学域先導学類_4年	-	-	65	50

※入試区分は学生本人が選択しています

※GPS-Academicシステム上、学域・学類の表示が学部・学科となる場合や略称を用いる場合がございます。

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

問題解決力（1年生）

Benesse i-Career

受検対象	受検年度	受検人数	思考力				姿勢・態度			経験			
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
全受検者計	2024入学_1年	-	39.3	37.5	37.0	39.3	47.6	47.0	49.3	56.5	53.9	59.8	55.6
先導学類	2023	16	52.7	51.1	50.5	54.0	51.2	51.1	53.1	58.1	55.8	67.2	51.1
	2024	15	53.0	52.2	55.2	52.2	44.3	51.0	48.7	56.7	56.2	59.4	54.3

差分表

※受検対象ー比較対象の差分を表示しています。

受検対象	比較対象	思考力				姿勢・態度			経験			
		思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
先導学類	全受検者計	+13.7	+14.7	+18.2	+12.9	-3.3	+4.0	-0.6	+0.2	+2.3	-0.4	-1.3
先導学類	貴学_23年度1年	+0.3	+1.1	+4.7	-1.7	-6.9	-0.1	-4.3	-1.4	+0.4	-7.7	+3.2

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.

問題解決力（2年生）

Benesse i-Career

受検対象	受検年度	受検人数	思考力				姿勢・態度			経験			
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
全受検者計	2023入学_2年	-	39.7	38.1	37.2	40.0	48.1	46.7	47.9	56.5	53.5	58.9	57.0
先導学類	2023	38	52.4	53.2	53.2	51.3	46.5	48.3	48.4	55.3	53.0	58.5	54.4
	2024	13	53.4	56.2	52.1	51.5	49.8	49.6	49.3	53.8	50.9	59.5	51.2

差分表

※受検対象ー比較対象の差分を表示しています。

受検対象	比較対象	思考力				姿勢・態度			経験			
		思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
先導学類	全受検者計	+13.7	+18.1	+14.9	+11.5	+1.7	+2.9	+1.4	-2.7	-2.6	+0.6	-5.8
先導学類	貴学_23年度2年生	+1.0	+3.0	-1.1	+0.2	+3.3	+1.3	+0.9	-1.5	-2.1	+1.0	-3.3

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

問題解決力（3年生）

Benesse i-Career

受検対象	受検年度	受検人数	思考力				姿勢・態度			経験			
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
全受検者計	2022入学_3年	-	41.4	39.9	39.3	41.5	48.2	47.2	48.4	55.8	52.3	59.2	55.8
先導学類	2023	36	54.0	53.3	54.8	54.6	51.8	52.3	49.9	59.5	56.7	65.0	56.8
	2024	35	52.3	51.4	52.2	51.6	50.3	53.5	50.5	60.0	57.0	64.7	58.2

差分表

※受検対象ー比較対象の差分を表示しています。

受検対象	比較対象		思考力				姿勢・態度			経験			
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
先導学類	全受検者計		+10.9	+11.5	+12.9	+10.1	+2.1	+6.3	+2.1	+4.2	+4.7	+5.5	+2.4
先導学類	貴学_23年度3年生		-1.7	-1.9	-2.6	-3.0	-1.5	+1.1	+0.6	+0.5	+0.3	-0.3	+1.4

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.

問題解決力（4年生）

Benesse i-Career

受検対象	受検年度	受検人数	思考力				姿勢・態度			経験			
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
全受検者計	2021入学_4年	-	40.6	38.8	38.3	41.5	50.5	49.7	49.5	60.2	57.2	63.4	60.1
先導学類	2024	50	53.7	53.3	51.0	52.9	51.6	52.8	49.4	60.4	58.3	65.7	57.3

差分表

※受検対象ー比較対象の差分を表示しています。

受検対象	比較対象		思考力				姿勢・態度			経験			
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
先導学類	全受検者計		+13.1	+14.5	+12.7	+11.4	+1.1	+3.1	-0.1	+0.2	+1.1	+2.3	-2.8

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.

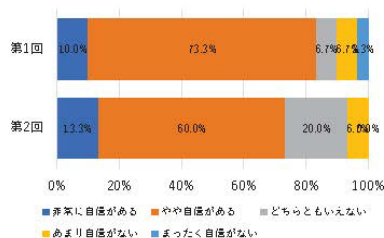
1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

思考力 自己評価（3年次→4年次）

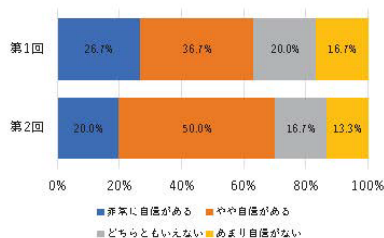
※第1回=3年次、第2回=4年次のデータ

Benesse i-Career

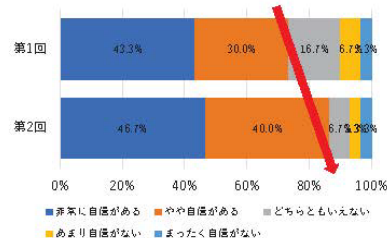
情報を抽出し吟味する力



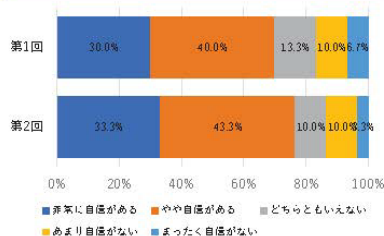
論理的に組み立てて表現する力



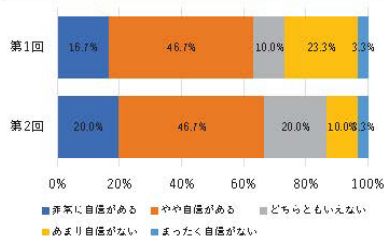
他者との共通点・違いを理解する力



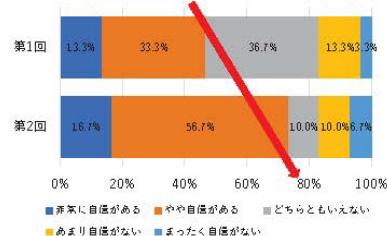
社会に参画し人と関わりあう力



情報を関連づける力・類推する力



問題を見いだし解決策を生み出す力



© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.

学びへの意欲（3年次→4年次）

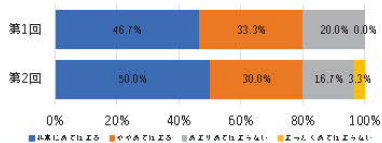
※第1回=3年次、第2回=4年次のデータ

Benesse i-Career

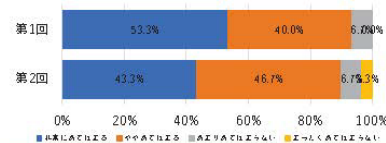
受検回	学びへの意欲
第1回	74.0
第2回	74.2
差分	+0.2



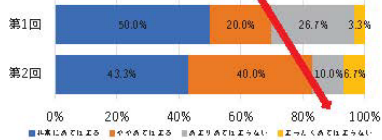
「正解」のない課題であっても、前向きに取り組もうとする



普段から自分なりの意見や視点を持とうとしている



失敗しそうであっても、いろいろなことに挑戦してみたい



考え方や立場の異なるさまざまな人と交流したい



高い目標を持って学びたいと思っている



© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.

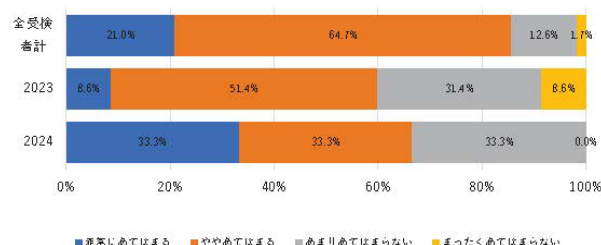
1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

目標・カリキュラム・授業内容の理解（2年生）

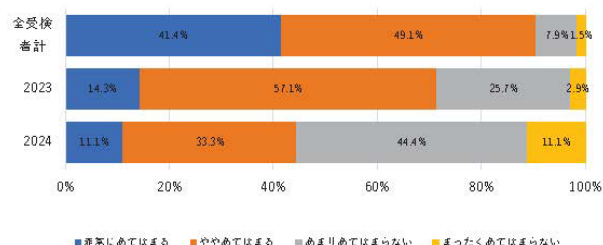
※無回答を除いて集計（23年度:3名、24年度4名）

Benesse i-Career

科目間の関連やカリキュラムの全体像を理解できている

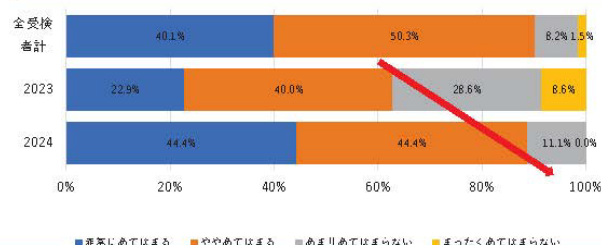


大学は、シラバスやガイダンスなどで個々の授業内容に対する情報を十分に提供している



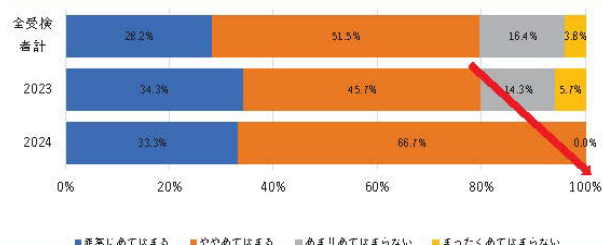
あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う

※1～4年生共通設問



所属する学部・学科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）を知っている

※1～4年生共通設問



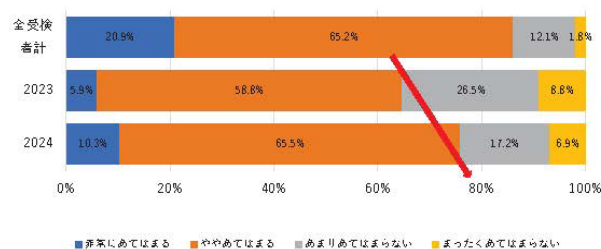
© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.

目標・カリキュラム・授業内容の理解（3年生）

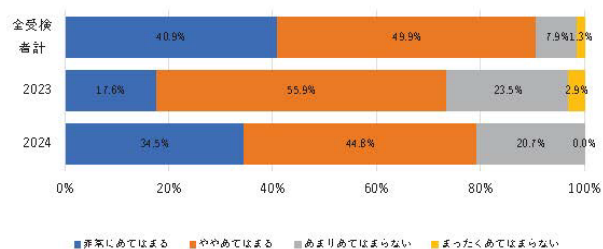
※無回答を除いて集計（23年度:2名、24年度6名）

Benesse i-Career

科目間の関連やカリキュラムの全体像を理解できている

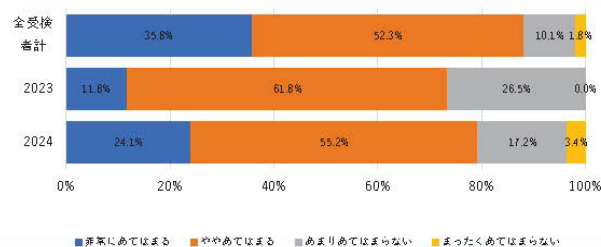


大学は、シラバスやガイダンスなどで個々の授業内容に対する情報を十分に提供している



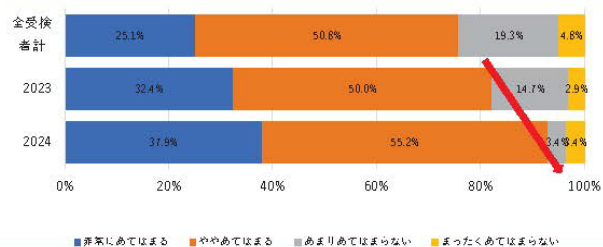
あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う

※1～4年生共通設問



所属する学部・学科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）を知っている

※1～4年生共通設問



© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.

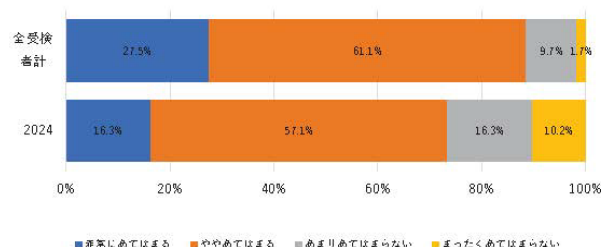
1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

目標・カリキュラム・授業内容の理解（4年生）

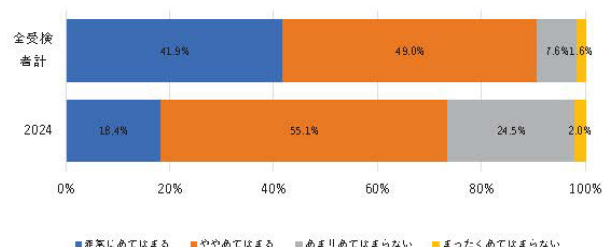
※無回答1名を除いて集計

Benesse i-Career

科目間の関連やカリキュラムの全体像を理解できている

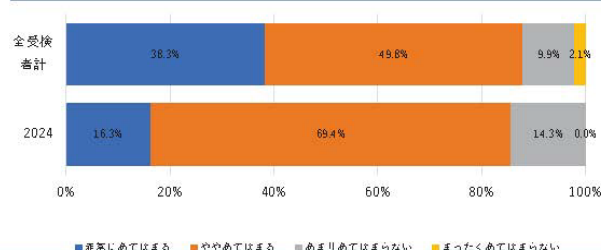


大学は、シラバスやガイダンスなどで個々の授業内容に対する情報を十分に提供している



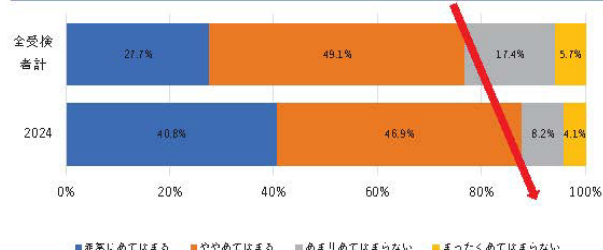
あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う

※1～4年生共通設問



所属する学部・学科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）を知っている

※1～4年生共通設問



○地域創造学類

取組名称	地域創造学教科書作成に関する検討会
開催日	第1回：令和7年8月21日 第2回：令和8年3月10・11日
参加人数 (概数)	第1回：4名 第2回：20名

これまでのFD活動を踏まえたうえで、令和7年度から地域創造学をより体系的に学修するための教科書『地域創造学への招待（仮）』を作成することに着手した。

そこで、まず令和7年8月21日に第1回の教科書検討会を実施した。出版社の編集者を招聘し、編者となる教員と一緒に、執筆者が用意した原稿構想案について検討して、その内容を各執筆者に連絡した。

次の令和8年3月10・11日の第2回の教科書検討会では、出版社の編集者、編者教員、そして、執筆者一同が対面で検討会を実施して、原稿のブラッシュアップを行った。

下図は予定されている目次一覧であり、本教科書は令和8年度中には刊行予定である。

『地域創造学への招待（仮）』	
序章	地域創造学とは何か？：設計科学としての地域創造学
第1部	地域創造学の理論と方法
第1章	持続可能性・自由・共同性を中心とする地域創造学の哲学
第2章	地域診断の方法
第3章	地域調査の方法：質的調査・データ収集・分析と記述
第4章	地域政策の立案：コンテキストと政策過程
第5章	科学技術と地域コミュニティ：対話と実践
第2部	地域社会計画
第6章	コミュニティづくり
第7章	都市計画と地域文脈：建築・都市空間の読解と介入
第8章	縮小と変動の時代に必要「農村戦略論的な考え方」
第9章	地域公共交通の整備とコミュニティの参加
第10章	スポーツクラブによるまちづくり
第3部	地域の産業と資源
第11章	地域産業の振興：現代の内発的発展モデル
第12章	第一次産業・産品に関わる資源活用と環境共生、イノベーション
第13章	地域資源活用と伝統工芸
第14章	持続可能な観光地域づくり戦略
第15章	持続する地域づくりのためのソーシャル・ビジネスのすすめ
第4部	地域の暮らしと福祉
第16章	社会的な居場所づくりの背景と子どもの学習支援事業
第17章	地域社会におけるジェンダー・労働・ケア
第18章	外国人の地方圏への移住：技能実習生に焦点を当てて
第19章	防災・災害復興
第20章	リスク社会とレジリエンス
終章	地域創造学の方法：臨床の学としての設計学習ループ
コラム1	非創造的な者はお断りの街
コラム2	見えない排除から地域の暮らしやすさ考える：性的マイノリティの事例から

○物質化学類

取組名称	FD研修会
開催日	令和7年11月11日
参加人数 (概数)	20名

物質化学類における特色あるFD活動として、毎年開催しているFD研修会を挙げる。FD研修会では、教員が持ち回りで各担当講義の改善状況や課題を提案・共有し、講義運営上の工夫などについて議論を行っている。令和7年度は第24回の開催であり、約20名の教員が参加した。期末試験結果の分析を通じて理解度を把握しようとする試みなど、授業改善に資する具体的な実践例が報告された(図1)。また、卒業研究に関して、学生に対するアンケートおよび指導教員に対するアンケートの結果を踏まえ、教育上の課題と、教育効果の向上に向けた検討を行った。特に、令和7年度は過去10年のデータを集計し、傾向の把握を行った(図2)。学生の、卒業研究に対する積極性は、右肩上がりであり好ましい状況であった。また、近年、指導教員が卒業研究指導に使える時間が減少している懸念があったが、データとして見ると横ばいもしくは若干の右肩上がりであった。

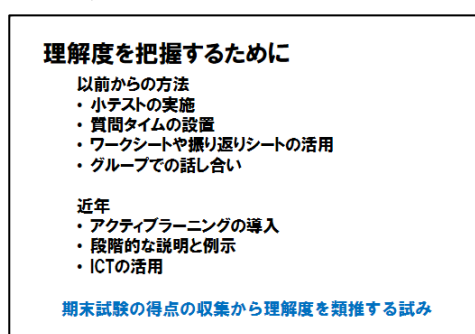


図1. 教員による授業改善実践例の報告スライド例.

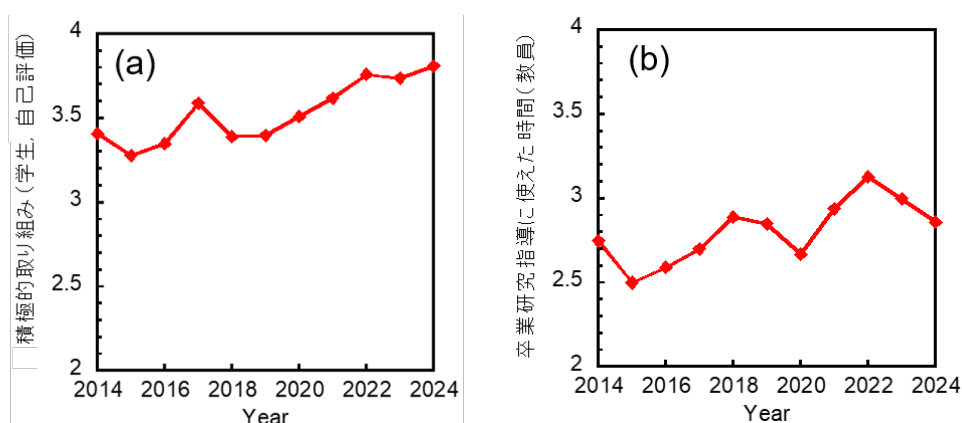


図2. 過去10年間卒業研究アンケート集計結果の例(1～5点, 自己評価). (a)学生が積極的に取り組んだかどうか. (b)指導教員が卒業研究指導に使えた時間.

○フロンティア工学類

取組名称	理工3学類合同FD研修会
開催日	令和8年3月17日（火）
参加人数 （概数）	50名

フロンティア工学類は、機械工学類および電子情報通信学類と合同で、FD研修会を毎年実施している。令和7年度は、研究セキュリティ、インテグリティ確保の一環である「安全保障輸出管理制度」に関して、以下のタイトルの講演をオンラインで実施した。

タイトル：大学の国際化推進と安全保障貿易管理
（講演者：畑 良三・安全保障貿易情報センター 輸出管理アドバイザー兼該非判定アドバイザー）

国立大学法人 金沢大学
安全保障輸出管理制度研修会（2026. 3. 17）

大学の国際化推進と安全保障輸出管理

一般財団法人 安全保障貿易情報センター
輸出管理アドバイザー 畑 良三

(c) CISTEC/Ryozo Hata

1

本研修会では、ヒト・モノ・コトが国内外を行き交うグローバル社会において、研究活動が国際的な影響を持ち得ることを踏まえ、安全保障輸出管理制度の必要性について理解を深めた。特に、輸出管理手続きの中でも重要な「該非判定」について、その基本的な考え方と手続きのポイントについて説明を受けた。教員がこのような国際的な視点に立った社会的責任や倫理的配慮への理解を深めることで、研究指導や授業を通じて学生にもその重要性を伝えることが可能となる。これにより、グローバル社会において責任ある研究・技術開発を担う人材の育成につながり、FDの目的である教育の質の向上にも貢献すると考えられる。

講演後の質疑応答においては、該非判定おける注意点や、学生の研究テーマ設定や学会発表・論文発表において考慮すべき点について詳細にご説明頂いた。

○薬学類

取組名称	令和7年度「薬学系新任教員 教務関連研修会」 令和7年度「薬学系（学類・大学院研究教育）FD 研修会」
開催日	令和7年11月26日，令和8年3月2日
参加人数 (概数)	「薬学系新任教員10名」「FD 研修会50名」
令和7年度も，金沢大学の方針に基づき，教育の質向上を目的としたFD活動を継続的に実施した。毎年実施している薬学系独自のFD研修会に加え，新任教員を対象とした研修会を開催し，教育力向上および教員間での教育理念の共有に努めた。 薬学系FD研修会では，「大学院における分野横断型教育の意義と価値～ラボローテーションを中心に考える～」の動画視聴を実施した。視聴後には，「将来的に試行可能と考えられる分野横断型教育の取り組み案の提案」およびアンケートの提出を求めた。これにより，動画内容への理解を深めるだけでなく，各教員が自身の教育実践と関連付けながら考察する機会を提供し，教育改善や教育向上への意識醸成を図ることができた。 また，研修会を通じて，大学院教育における分野横断型教育の必要性や，学生の主体的学修を促進する教育手法について教員間で共有する機会となり，教育内容や指導方法を見直す契機となった。さらに，新任教員研修では，本学の教育方針や授業運営上の留意点について理解を深める機会を設け，円滑な教育活動の実施につなげた。 今後も，教育環境や社会的要請の変化に対応しながら，教員相互の連携を図り，継続的なFD活動を通じて教育の質保証と改善に努めていく。	

1-5 教学マネジメントセンターの活動

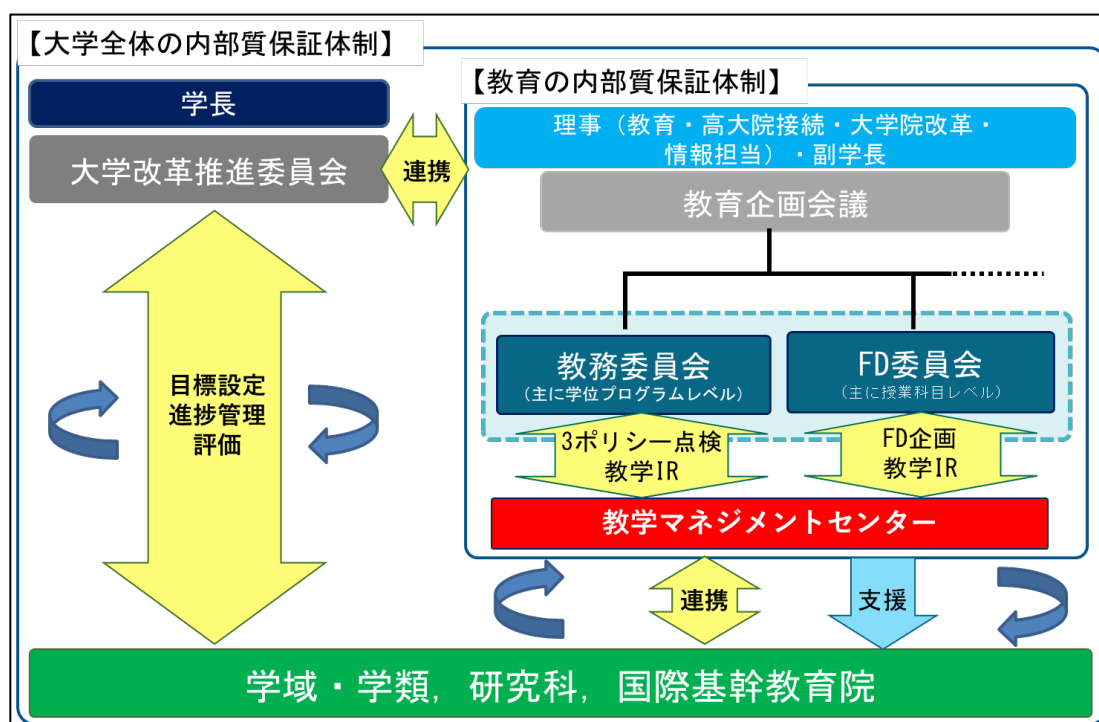
1-5-1 教学マネジメントセンターの業務概要

学長のリーダーシップの下、本学のFD支援、教学マネジメントを担ってきた国際基幹教育院高等教育開発・支援系及びICT教育支援を担ってきた総合メディア基盤センターを発展的に解消し、新たに令和3年4月に教学マネジメントセンター及び学術メディア創成センターを設置し、両センター連携によりFD、教学IR、教育DXを一体として推進する体制を構築した。学内のマネジメント体制強化のため、教学マネジメントセンターを教育担当理事の下に置く組織として位置付け、学内の連絡・調整を円滑にするため、副学長又は学長補佐をセンター長に据え、センターの業務を掌理する体制とした。教学マネジメントセンター設置以降、教育の内部質保証体制の明確化の観点から、各種検討や学内調整を重ねつつ、現在は、図表1に示す組織体制において、日々の活動を行っている。

教学マネジメントセンターの具体的な所掌業務は、以下のとおりである。

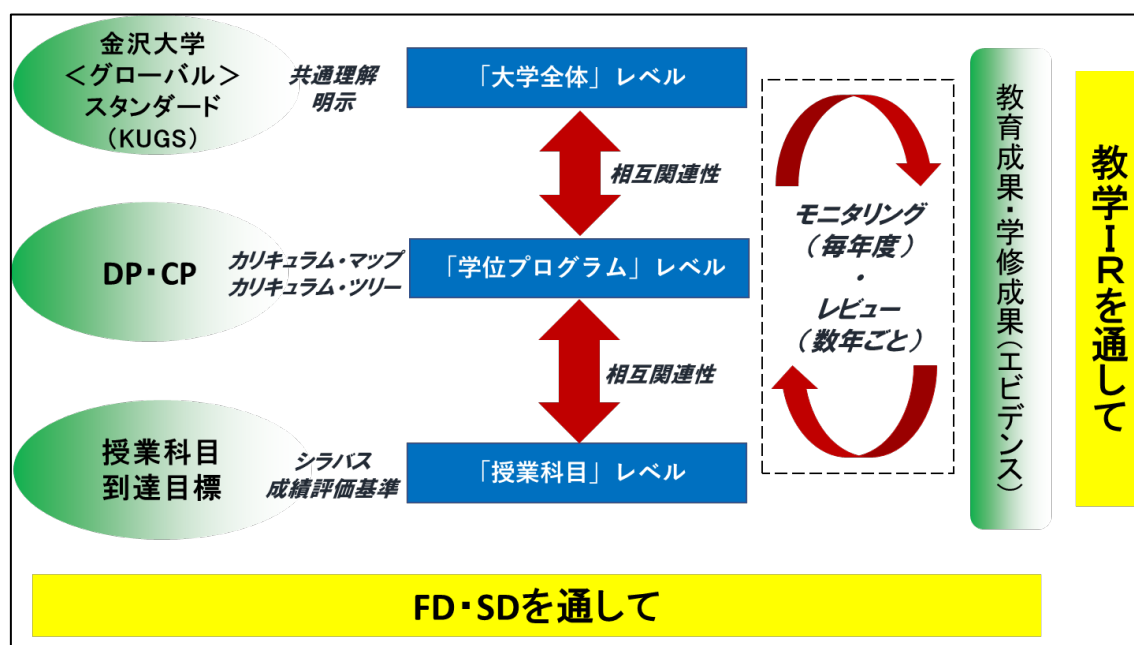
- ① 全学の教学マネジメントの確立、学位プログラム等における教育の質保証及び質向上に関すること。
- ② 教育方法、教育システム、教育支援等に関する研究開発並びに教育に係る質保証システムの研究開発に関すること。
- ③ 全学的に取り組む教育事業及び分野横断的学位プログラムの企画立案、運営及び評価に関すること。
- ④ 教育スキルの向上に資する支援に関すること。
- ⑤ 全学のFD・SDの企画・実施及び学域・研究科等のFD・SD活動の支援に関すること。

図表1 教学マネジメントセンターの設置及び関係組織との連携体制



1-5 教学マネジメントセンターの活動

教学マネジメントセンターの諸活動を始めるにあたり、『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会 2020）に示された「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」レベルに応じた教学マネジメントの枠組を図表 2、3 のとおり体系づけながら、各レベルに応じた FD・SD、教学 IR の環境整備と具体的取組を進めている。



図表 2 教学マネジメントセンターが支援する教学マネジメントの枠組の概要図

項 目 レベル	教育・学修目標	改善充実のための機会 (FD・SD)	アセスメントツール (教学IR)
大学全体レベル (マクロ)	金沢大学 <グローバル>スタンダード (KUGS)	全学FD 新任教員説明会	学生生活実態調査 卒業・修了後アンケート
学位プログラムレベル (ミドル)	(各学類、専攻で定めた) ディプロマ・ポリシー (DP)	全学FD 学域・学類、研究科FD	卒業・修了者アンケート DP達成度自己評価
授業科目レベル (ミクロ)	(シラバスに明記された) 学修目標	全学FD 学域・学類、研究科FD 新任教員説明会 CLA研修	授業評価アンケート 成績評価分布

図表 3 アセスメントプランの枠組の概要図

1-5-2 FD・SD 活動の枠組と実績

令和3年度の教学マネジメントセンター設置以降、教育担当理事及び学長補佐（教育改革・学修支援担当）の指示のもと、全学的視点に立ったFD・SD活動を行いながら、部局FDとの協働・連携・支援を行っていく必要があるため、「全学FD・SD」と「部局FD」の関係性について事項整理しながら、「全学FD・SD」で担うべきこと、「部局FD」で担うべきことを明確化している。

【「全学FD・SD」の役割と基本メニュー】

①「全学FD・SD」の役割

- ◆大学の理念や基本方針の理解と共有
- ◆教職員として知っておくべき事項、遵守すべき事項の理解と共有
- ◆各年度における教学関連の全学的課題の理解と共有
- ◆教職協働、教職学協働のための場づくり

②「全学FD・SD」の年間メニュー（基本セット）

図表4 全学FD・SDの年間メニュー（基本セット）

時期	内容
4月	新任教員説明会
4月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）研修会，高度TA研修会
9月	全学FD研修会
10月	FD活動報告書成果発表会
12月	教学マネジメントセミナー（全学FD・SD）
2月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）実施報告会
2月または3月	教員向け英語研修会
3月	全学FD研修会（当該年度成果報告会）

【「部局FD」の役割と基本メニュー】

①「部局FD」の役割

- ◆各部局における主要事項の理解と共有
- ◆各部局における各年度での諸課題の理解と共有
- ◆各部局における授業・カリキュラム，学修状況・成果の把握・検証
- ◆各部局における全学的課題の理解と共有

②「部局FD」の基本メニュー

各部局に応じた組織単位での実施を尊重しつつ、部局主催でのFD活動について、以下の二つの区分に整理した。

ア) 個別テーマ型FD・・・部局における主要事項の理解と共有，部局における各年度での諸課題の理解と共有を目的として，当該部局が独自のテーマ設定により実施するFD

イ) 統一テーマ型FD・・・全学的課題の理解と共有などを目的とし，教学マネジメント

1-5 教学マネジメントセンターの活動

センター等が連携・支援しながら実施する FD

(授業評価アンケートや卒業・修了者アンケート等の結果報告、
機関別認証評価で求められる学位プログラム単位の DP・CP、
カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーに関する点検・
見直しなど)

令和7年度全体の FD・SD 実績は図表5のとおりである。FD 委員会及び教学マネジメントセンターが企画実施する定例的な全学 FD 研修会に加え、高大接続コア・センターと共同主催した「探究・STEAM フェスタ」についても令和6年度に続き企画実施し、高校生・高校教員と大学生・大学院学生・大学教員が集う対話の場づくりを設けることができた。

また、教学マネジメントセンターでは、時機に応じたテーマを話題に、短い時間で気軽に参加・意見交換できることをコンセプトとした新たな FD・SD イベントとして令和6年度から実施している「FD・SD ラウンジ」を2回企画開催し、いずれも好評であった。この企画は、近年、高等教育を取り巻く環境の変化は目まぐるしく、高等教育機関としてカバーしなければならないテーマや領域が多様化し広がっていることから、新しく対応すべきテーマを中心に、最新の情報や今後の方向性を情報収集・意見交換することを狙いとしたものである。

本学では、各種セミナー・シンポジウム等を学外に広く公開するとともに、録画データ及び配布資料を学内ポータルサイトにて公開・配信している。

図表5 令和7年度 FD・SD 実績の概要

内 容	開催月日	参加者数
新任教員説明会（令和7年度第1回全学FD研修会）	4月4日（金）午前の部 4月4日（金）午後の部	59名 135名
令和7年度第2回全学FD研修会 「大学院における分野横断型教育の意義と価値 ～ラボローテーションを中心に考える～」	7月16日（水）	58名
令和7年度第3回全学FD研修会 「学士課程の共通教育に求められるコンセプトと設計 ～金沢大学共通教育改革を中心に～」	10月21日（火）	130名 （学外公開）
令和7年度第4回全学FD研修会 「FD活動報告書成果発表会」	12月5日（金）	41名
高大接続ラウンドテーブル特別企画 「探究・STEAMフェスタ2025 ～高校生の探究心に火を灯す～」	12月14日（日）	86名 （学外公開）
令和7年度第1回FD・SDラウンジ 「エクセルと生成AIを活用したデータ集計・可視化の方法を学ぶ ～DX・IR基礎講座（第2弾）～」	12月23日（火）	54名 （学外公開）
令和7年度第2回FD・SDラウンジ 今改めて、学修ポートフォリオの機能や効果について考えてみよう」	2月17日（火）	101名 （学外公開）
教学マネジメントセミナー2026 「多文化共修を通じた学修成果を考える ～効果的な授業設計と運営方法を参考に～」	3月26日（木）	74名 （学外公開）

1-5 教学マネジメントセンターの活動

1-5-3 学士課程・大学院課程の質保証に関連する環境整備

教学マネジメントセンターでは、令和3年度の創設以降、令和4年度に3つのポリシーの一貫性のある見直し、令和5年度にカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの体系的再整備を行いつつ、授業評価アンケート等の学修成果把握のための教学IR環境の整備を進め、その総決算として、「教育の内部質保証に関する指針」を令和5年度末に策定するまでに至った。

令和5年度までに、学位プログラムレベル、授業科目レベルを中心とした教学マネジメントに関する基本的な環境整備が完了したため、令和7年度においては、学士課程<グローバル>スタンダードの改訂、3つのポリシーに関するモニタリングを目的としたFD活動報告書の様式の一部改訂を行った。令和8年度以降は、学士課程・大学院課程に関する一連の教育改革に寄与できるような組織基盤を整えた。

1-5-3-1 学士課程<グローバル>スタンダードの改訂

未来創成教育環 GS 教育企画部「学士・大学院一貫教養教育ワーキング・グループ」における教学マネジメントセンターからの「学士課程<グローバル>スタンダード」改訂提案を踏まえながら協議を重ね、令和7年6月の教育研究評議会において承認された。

学士課程<グローバル>スタンダードについては、平成28年の制定以来、令和3年に6群を加える改正を行ったが、全面的な見直しを行っていないため、令和6年に大学院課程<グローバル>スタンダードを改正したことを踏まえ、社会の情勢や要請を反映して従前の6群から4群からなる構成とした。具体的な改訂内容は以下のとおりである。

図表6 学士課程<グローバル>スタンダード改正前・改正後

(現行)

1. 自己の立ち位置を知る	2. 自己を知り、自己を鍛える	3. 考え・価値観を表現する
鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力	自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力	論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力
4. 世界とつながる	5. 未来の課題に取り組む	6. 新しい社会を生きる
他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土の文化への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力	科学技術の動向、自然環境変動、持続可能性などの多角的視座から地球と人類、国際社会と日本の未来を総合的に予測し、未来の課題に取り組んでいく能力	Society 5.0において、幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするマインドを備え、多様な他者との協働により未来の社会的課題を解決に導くための能力

(改正案)

1. 人とつながる・共生する	2. 自己を探究する・超越する	3. 今を知る・未来を考える	4. 新たな価値を創造する
自国の文化や歴史を深く理解しつつ、積極的に世界とつながり、異文化を受け入れて多様な人々と協力しながら、個人および地域・国際社会の健康と発展に貢献する能力を身につける 《キーワード》 多文化共修 国際・地域協力 歴史理解 ウェルビーイング	自己を知り、自己の可能性に挑戦することで心身の豊かな成長を目指す。豊富な論理力と表現力を駆使して他者と共感的に関わり、互いの感性、価値観、アイデアを表現し、伝え合う能力を身につける 《キーワード》 自他エンゲージメントと共感 考え・価値観の表現 心身の成長 コミュニケーション	科学技術の動向、自然環境変動、持続可能性などの多角的視座から、地球と人類、国際社会と日本の未来を総合的に予測し、未来の課題に取り組んでいく能力を身につける 《キーワード》 現代社会の課題 持続可能性の探究 生物と環境 未来予測	STEAM教育を基盤とし、データの確かな理解と思考の論理的構成を通して社会の課題を俯瞰し、豊富な想像力と果敢に挑戦するマインドを持って新たな価値を創造していくための能力を身につける 《キーワード》 STEAM AI・データリテラシー 俯瞰力 論理的構成力

1-5 教学マネジメントセンターの活動



図表7 学士課程<グローバル>スタンダードと共通教育科目 GS 科目の関係図

1-5-3-2 FD 活動報告書の様式の一部改訂

令和7年度FD活動報告書の作成に当たり、各部局向けの記入様式において、図表8のとおり、「3つのポリシーの運用状況」という照会事項を新たに加え、①3つのポリシーの記載内容の確認、②DP（Diploma Policy）に掲げた学修目標の達成度の把握の状況を毎年度確認することとした。このことにより、3つのポリシーに関するモニタリングを行うことができるように措置した。

図表8 令和7年度FD活動報告書作成様式（一部抜粋）

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を（ ）書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☐ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他（ ）
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☐ DPに掲げた学修目標の達成度について把握を行った。 ☐ DPに掲げた学修目標の達成度について分析を行った。 ☐ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他（ ）

1-5 教学マネジメントセンターの活動

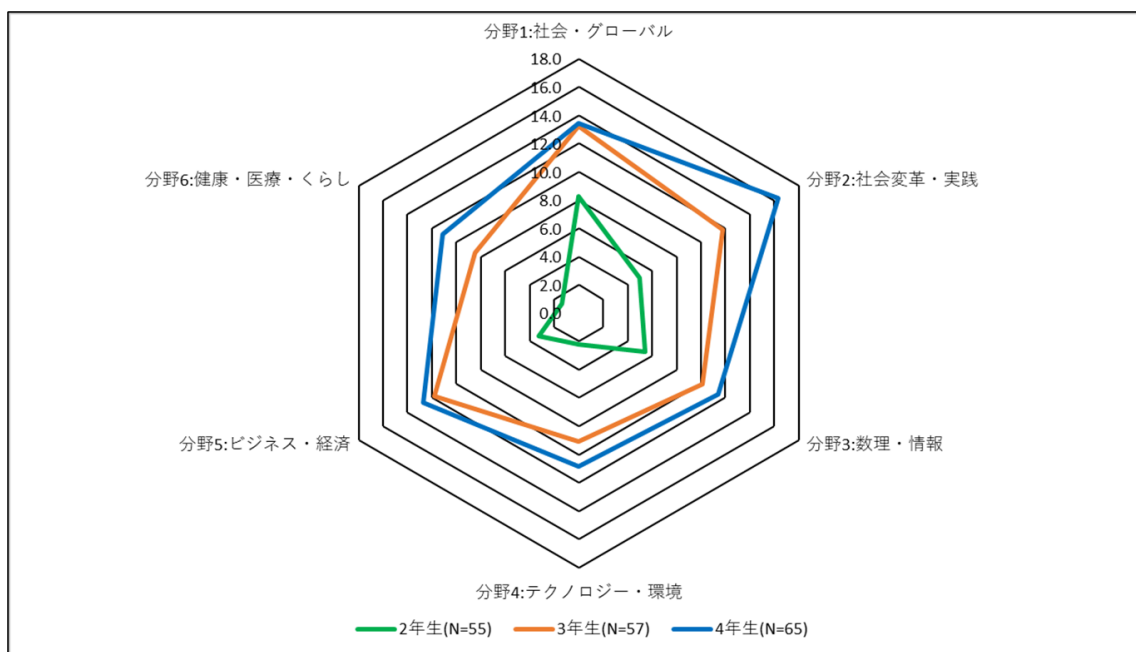
1-5-4 「学びの計画書」を通した DP 達成度可視化の整備

令和5年度から融合学域「学びの計画書」の新システム運用が進み、DP（ディプロマ・ポリシー）達成度可視化のほか、履修分野別の修得状況など一覧にて可視化するダッシュボード環境、さらには、就職活動等において、学生が自分自身の学修成果を説明するエビデンスとして活用する環境が整った。図表10のように、カリキュラム検証にも活用している。

今後は、融合学域での「学びの計画書」の運用実績を踏まえながら、全学での学修ポートフォリオの改善充実に活かしていくこととしている。



図表9 システム整備した「学びの計画書」に関するイメージ画面



図表10 融合学域先導学類生（2年次～4年次）の履修分野別の修得単位数平均の推移（令和6年度Q3時点）（「学びの計画書」を活用したカリキュラム検証の一例）

2 各部局等のFD活動

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 先導学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・先導学類一期生が4年次となり、確立科目(融合研究・融合演習・卒業研究科目)の発表会の運営等について意見交換を行った。 ・融合学域設置から4年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育をふりかえり、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 ・先導学類のカリキュラムを検証し、教育課程について意見交換を行った。 ・一期生の卒業に合わせ、令和6年度末に卒業生アンケートを実施した。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 令和6年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取り組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(全科目について授業参観を可としている)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☒ その他(全科目ルーブリック掲載)
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第25回融合学域FD研修会	令和7年7月31日	「GPS-Academic(問題解決力測定テスト)の概要説明、前年度結果報告など」	25名	
第26回融合学域FD研修会	令和7年9月4日	「研究者倫理について」	47名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
融合系の将来検討会	令和7年5月22日	融合とは何か?創設メンバーから当時の策定の経緯などの説明し、全員がそれぞれの理解(の違い)を知り、共通項を見出す	40名	
産学連携、研究推進に関する制度説明	令和7年6月12日	共同研究制度改正等	50名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
ハラスメント研修会	令和7年12月11日	「ハラスメントの防止ーハラスメントのない大学を目指してー」	44名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年1月8日	融合研究域教員の研究紹介	55名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年2月12日	融合研究域教員の研究紹介	55名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同

研究シーズ紹介	令和8年3月12日	融合研究域教員の研究紹介	49名	新学術創成研究科総合知創出 科学専攻FD研修会合同
先導学類懇談会	令和7年8月29日	教育課程、学生指導等について意見交換	20名	
先導学類懇談会	令和7年10月15日	教育課程、学生指導等について意見交換	19名	
先導学類懇談会	令和7年10月31日	教育課程、学生指導等について意見交換	19名	
先導学類懇談会	令和7年11月19日	教育課程、学生指導等について意見交換	20名	
先導学類懇談会	令和8年1月13日	教育課程、学生指導等について意見交換	21名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を2回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・融合学域設置から5年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育をふりかえり、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員3名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 ・先導学類のカリキュラムを検証し、教育課程について意見交換を行った。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6—2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 観光デザイン学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・先導学類一期生が4年次となり、確立科目(融合研究・融合演習・卒業研究科目)の発表会の運営等について意見交換を行った。 ・融合学域設置から4年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育を振り返り、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 令和6年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。 観光デザイン学類は、令和7年度が完成年度となることから、教育方法・教育課程の検証を行い、教育課程の改正等について検討する。 観光デザイン学類一期生が卒業となることから、令和7年度末に卒業生アンケートを実施する。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☒ その他(アドミッション・ポリシーを一部改訂した)
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取り組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(全科目について授業参観を可としている)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☒ その他(全科目ルーブリック掲載)
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第25回融合学域FD研修会	令和7年7月31日	「GPS-Academic(問題解決力測定テスト)の概要説明、前年度結果報告など」	25名	
第26回融合学域FD研修会	令和7年9月4日	「研究者倫理について」	47名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
融合系の将来検討会	令和7年5月22日	融合とは何か?創設メンバーから当時の策定の経緯などの説明し、全員がそれぞれの理解(の違い)を知り、共通項を見出す	40名	
産学連携、研究推進に関する制度説明	令和7年6月12日	共同研究制度改正等	50名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
ハラスメント研修会	令和7年12月11日	「ハラスメントの防止ーハラスメントのない大学を目指してー」	44名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年1月8日	融合研究域教員の研究紹介	55名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年2月12日	融合研究域教員の研究紹介	55名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同

研究シーズ紹介	令和8年3月12日	融合研究域教員の研究紹介	49名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
観光デザイン学類懇談会	令和7年4月18日	教育課程、学生指導等について意見交換	18名	
観光デザイン学類懇談会	令和7年7月23日	教育課程、学生指導等について意見交換	21名	
観光デザイン学類懇談会	令和7年9月8日	教育課程、学生指導等について意見交換	20名	
観光デザイン学類懇談会	令和7年10月22日	教育課程、学生指導等について意見交換	22名	
観光デザイン学類懇談会	令和7年12月22日	教育課程、学生指導等について意見交換	21名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を2回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・融合学域設置から5年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育をふりかえり、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員3名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 ・観光デザイン学類のカリキュラムを検証し、教育課程について意見交換を行った。 ・一期生の卒業に合わせ、令和7年度末に卒業者アンケートを実施した。 今後も学年進捗とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6—2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。
融合学域3学類学年進捗に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 スマート創成科学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・先導学類一期生が4年次となり、確立科目(融合研究・融合演習・卒業研究科目)の発表会の運営等について意見交換を行った。 ・融合学域設置から4年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育を振り返り、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 令和6年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☒ その他(第一期生が卒業する令和8年度学位記伝達式で卒業者アンケートを実施予定)

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(全科目について授業参観を可としている)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☒ その他(全科目ルーブリック掲載)
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第25回融合学域FD研修会	令和7年7月31日	「GPS-Academic(問題解決力測定テスト)の概要説明、前年度結果報告など」	25名	
第26回融合学域FD研修会	令和7年9月4日	「研究者倫理について」	47名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
融合系の将来検討会	令和7年5月22日	融合とは何か?創設メンバーから当時の策定の経緯などの説明し、全員がそれぞれの理解(の違い)を知り、共通項を見出す	40名	
産学連携、研究推進に関する制度説明	令和7年6月12日	共同研究制度改正等	50名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
ハラスメント研修会	令和7年12月11日	「ハラスメントの防止ーハラスメントのない大学を目指してー」	44名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年1月8日	融合研究域教員の研究紹介	55名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年2月12日	融合研究域教員の研究紹介	55名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年3月12日	融合研究域教員の研究紹介	49名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同

スマート創成科学類懇談会	令和7年6月30日	教育課程、学生指導等について意見交換	22名	
スマート創成科学類懇談会	令和7年10月23日	教育課程、学生指導等について意見交換	19名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を2回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・融合学域設置から5年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育をふりかえり、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員3名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 ・スマート創成科学類のカリキュラムを検証し、教育課程について意見交換を行った。 今後も学年進捗とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6—2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。 スマート創成科学類は、令和8年度が完成年度となることから、教育方法・教育課程の検証を行い、教育課程の改正等について検討する。 スマート創成科学類第一期生が卒業となることから、令和8年度末に卒業生アンケートを実施する。
--

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 人文学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	教員相互の授業参観・授業評価、成績評価基準等の作成・検証、FD研修会等については、ほぼ当初計画通りに着実に実施することができた。授業参観については、対面型と授業録画のオンデマンド配信の2タイプで実施した。特に、FD研修会では、ダイバーシティについて留意した教育実践の重要性の一層の理解を深めることができた。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		令和6年度の授業評価アンケートおよび卒業生アンケートの結果を見ると、本学類の教育は総じて学生からかなり高く評価され続けていることが分かる。令和7年度も、基本的にはこれまでの取り組みを踏襲し、学類のFD研修会や公開授業の実施などを通じて、学類教員の教育能力向上を図ることにさらに意を注ぐ予定である。これに加えて、更に多くの学生が授業の満足度を高め、達成感が得られるよう、各方面からの意見や助言を得ながら委員会として積極的に対応策を検討していきたい。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。

	☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☒ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
人文学類FD 研修会	令和7 年12月10 日	「心理的応急処置」(PFA)の心理教育プログラムの大学院学生の報告から、危機的状況にある対象者への初期的支援について学んだ。	学類長、研究科長、人文学専攻長、FD委員ほか15名	人文学専攻共催

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	教員相互の授業参観・授業評価、成績評価基準等の作成・検証、FD 研修会等については、ほぼ当初計画通りに着実に実施することができた。授業参観・FD研修会については、大学院人間社会環境研究科人文学専攻との共催で、大学院前期課程との一貫教育について検討することができた。特に、FD 研修会を通じて、Students as Partners (SaP) という教育理念動向を認識することができた。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度の授業評価アンケートおよび卒業生アンケートの結果からは、本学類の教育は総じて学生からの高い評価を、長期にわたって維持していることが分かる。R8年度も、基本的にはこれまでの取り組みを踏襲し、学類のFD研修会や公開授業の実施などを通じて、学類教員の教育能力向上を図ることにさらに意を注ぐ予定である。これに加えて、更に多くの学生が授業の満足度を高め、達成感が得られるよう、各方面からの意見や助言を得ながら委員会として積極的に対応策を検討していきたい。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 法学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	FD研修会、卒業者アンケートや教務委員会、学生生活委員会の報告で指摘された様々な問題点に焦点を当てながら、学類会議等、全教員が集まる場で問題意識を共有し、学域再編やキャンパス再整備が進んでいくなかで、学生の学修環境をどのように維持・改善していくべきか、どのように進路指導すべきか議論を重ねている。また、特に司法試験・法曹養成と関連する授業科目について、どのように成績評価するかについて学類会議等で意見交換している。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		各教員とも学生に対し、授業の時間外で自発的に学んでおくべきことを指示し、参考文献も適宜指示しているが、アンケート結果などを見る限り、どのようにすれば効果的に学修できるのか、そもそもどこから手を付けたらいいのかコツが掴めないため、予習・復習が疎かになっている学生も少ないように思われる。学類としては、学生が自発的に学修するグループを形成しやすいよう、学生が集まる機会を提供するなど工夫しているが、友人が少ないことなどから、そうしたグループに参加するのに気後れする学生もいると思われる。令和7年度は、グループあるいは個人での法学・政治学の学修プロセスのモデルを構築し、それを授業の中でどのように伝えていくか検討することを課題としたい。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
① 授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。

	☐ その他()
② 卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
法学類・法務専攻 合同FD研修会	令和7年11月18 日	法学類と法務専攻の連携強化による法曹一貫教育をさらに充実させることを目的に、法学類・法務専攻合同FD研修会を実施した。研修会では、法学類からは、法曹養成プログラムについて、法務専攻からは、司法試験の在学中受験について、それぞれ現状の課題について報告があり、法曹養成に向けた一貫教育をどう整備し、他の進路の学生に対する教育とどうバランスを取るかなどをめぐって議論した。なお、令和7年度は、事前に法学類と法務専攻との相互の授業参観を推奨した。	28名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	法学類と法務専攻の連携強化による法曹一貫教育を充実させると共に、国家公務員総合職に対する学生の関心を喚起し、志望者を増やすことに力を入れている。学類会議ではほぼ毎回、この二つの課題が話題になり、様々な試みがなされている。法科大学院・司法試験に関しては、学生による自主ゼミ開催を支援する取り組みがなされ、国家公務員総合職については、関係する授業で外部から講師を招いて公務員制度について語ってもらうなど、学生の関心の喚起が試みられている。そうした取り組みについて、学類会議を中心に教員間で情報共有が図られている。課題解決に向けて様々な試みがなされているが、学域改組等、組織改編を控えていることもあって、明確な見通しが立っていない課題も少なくない。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケート、卒業者アンケートを見る限り、授業に対する学生の満足度は従来よりも改善したと認められるものの、授業にAIをどう活用するか、学類再編の動きの中で、国際政治など隣接分野にも関心を持つ学生のニーズにどう応えるかなど、新たな課題も明らかになった。R7年度に引き続き、法曹養成一貫教育のための法務専攻との相互理解・連携強化、国家公務員総合職に関する情報共有等が、学類としてのFDの最重要課題であると認識で一致した。一貫教育強化に向けて法学教育の基本的メソッドに関する、法学類・法学研究科合同の研修会を秋に開催すべく、準備を進めている。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 経済学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	4回のFD研修会の他に、以下のFD活動を実施した。 ・経済学類ゼミナール大会の企画・運営 ・教員と学生懇談会の企画・運営 ゼミナール大会については、ゼミ運営のメルクマールとしての役割やプレゼンテーション能力の向上にも寄与している。学生もその意義を認識していることから、「4:大いに評価できる」とした。また、12月のFD研修後に、生成AIの使い方に関するパワーポイントを作成し、アカデミックスキルの教材として、学類全体で共有した。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		学域 GS 言語科目を中心とする教員ローテーション科目について、学生への効果の観点で授業運用や評価方法などを毎年見直すなど試行錯誤している。この点で、有意義な運用などをFD研修会などで共有すると共に、問題点を洗い出し、卒業要件であるTOIECスコア到達に向けて検討していく。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☒ その他(学類会議で、内容を共有した)

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(ローテーション科目での取り扱い内容について報告・共有した。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考
人事院公平審査局長講演会	令和7年6月11日	人事院公平審査局長 役田 平氏を講師に迎えて、あなたの就職活動に「国家公務員」という選択肢をテーマに、就職活動のイメージの説明を受けた。	学生120名 教員3名	
学域GS言語に関する研修会	令和7年8月3日	オンライン教材の提供企業から新しいコンテンツなどの説明。学域GS言語の授業内容について2025年度の担当者が発表し、それについて質疑応答した。	教員9名	
環境金融:炭素クレジット格付け、炭素価格設定、炭素税比較	令和7年11月7日	慶応義塾大学 吉野直行名誉教授による環境分野における経済政策や金融政策の講義と直接対話型の講義の実施をおこない、講義方法事例を確認した。	学生10名 教員4名	
高度専門職人材養成に求められるコンセプトと設計	令和7年11月13日	東京リーガルマインドの反町雄彦氏を講師に迎えて、AI時代に求められる、社会で活躍する人材の教育モデルについての説明を受けた。	教員44名	人間社会学域FD研修
アクティブラーニング フューチャー・デザインを学ぶ	令和7年12月18日	京都先端科学大学 西條辰義特任教授によるフューチャー・デザインの講義を受け、アクティブラーニングの講義方法事例を確認した。	学生24名 教員6名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を

記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
4	4回のFD研修会のほかに、以下のFD活動を実施した。 ・経済学類ゼミナール大会 企画・運営 ・教員と学生懇談会 企画・運営 ゼミナール大会については、ゼミ運営のメルクマールとしての役割やプレゼンテーション能力の向上にも寄与して学生もその意義を認識していることから、「4:大いに評価できる」とした。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

経済学類は、昨今の社会事情を反映して、教育の刷新を目的に、社会経営学類に改変予定で、2年次からのゼミの開始など、大きく教育内容を見直す予定である。同時に、学域 GS 言語科目を中心とする教員ローテーション科目について、学生への効果の観点で授業運用や評価方法などを毎年見直すなど試行錯誤もおこなう予定である。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 学校教育学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	令和4年度に始まった富山大学との共同教員養成課程は、令和6年度で3年目を迎えた。専門科目の授業が増える中で、例年行っているFD研修会、授業アンケート、教職に関するアンケートに加え、令和6年度は富山大学との合同FD研修会を2回実施した。総評として、富山大学との合同研修会を中心に述べる。 第1回は、令和5年度から課題となっている「斉一授業」をテーマに行った。研修会では両大学で共通したアンケートの結果に基づき、課題を明確にするとともに、評価が高かった授業担当者の授業方法や工夫を共有した。特に、斉一授業における遠隔で受講する学生に対し、どのような能動的な学習支援を提供できるかについて、活発な意見が交わされた。 さらに、第2回の合同研修会では両大学間の学生交流を促進する小旅行型のエクスカッション活動について議論し、課題を整理した。令和7年度が本課程の完成年度にあたることを踏まえ、エクスカッションの改善点を具体化した。今後はより効果的な実施方法の検討が必要である。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 全学的に実施されている授業評価アンケートに加え、学類独自の「教職に関する意識調査」も実施している。1、2年次対象は5月のみ実施し、3、4年次対象は5月に加え教育実習後の10月にも実施している。 この調査の目的の一つは、学生の4年間にわたる教職への意欲の推移を明らかにすることである。そして、もう一つの目的は、3、4年次を対象にした調査において、大学の授業と教育実習との関連を学生の視点から検討することである。学生が実習を経験することで、実習前にどのような学びが必要だったのか、また実習後にはどのような学びを求めているのかを明らかにし、カリキュラムや授業改善に役立てることを目的としている。 一つ目の目的に関しては、教職に対する意欲は1年次から4年次まで概ね維持され、特に実習以降に意欲が上がったという意見が多くみられた。一方で、入学時から教職に対する意欲が低い学生がある程度存在し、令和7年度はその学生への具体的なサポートが求められる。 二つ目の目的に関しては、斉一科目における遠隔授業とエクスカッションの課題が明確になった。前者では、FD研修会で議論したような能動的な学習支援の具体的手法を、遠隔授業の担当者に活用してもらうことで改善を行っていく。そして、後者ではエクスカッションを実施する推奨期間を設定することが令和7年度の具体的改善策の一つとして挙げられる。さらには、エクスカッションの設定理念は大変重要なものであるが、学生はカリキュラム外活動であるエクスカッションに対して消極的である。本活動に積極的な参加を促進させる具体策を検討する必要がある。富山大学と連携して検討していく計画ができています。 次年度は本課程の完成年度にあたるため、引き続きこれまで実施してきたFD活動の充実を図るとともに、富山大学との合同FD研修会を通じて、カリキュラムの強化、深化および効果的な授業実践を支援していきたい。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。

	☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取り組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
① 授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☒ その他(特に教育実習に関するアンケート結果の分析および課題に関する研修会を実施した。)
② 卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☒ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(FD研究授業を実施し、遠隔授業におけるアクティブラーニングの工夫について協議した。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(富山大学との斉一授業において成績分布の差を調査し、担当者内で共有した。)

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
学校教育学類FD研修会	令和7年8月26日	附属学校園と大学との連携をさらに深めるために		
金沢大学・富山大学共同教員養成課程合同FD研修会	令和7年9月25日	富大・金大の教育実習体制について	両大学参加者30名	兼 人社会学域FD研修会

学校教育学類FD研修授業および協議会	令和8年1月21日	大人数の斉一授業における遠隔授業の工夫	12名	
人社会学域ハラスメント防止研修会	令和8年2月3日	教員のためのリスクマネジメント —ハラスメントの加害者にならないために—	人社会学域から38名参加	研修内容を録画し、オンデマンド配信を実施した。

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	令和7年度末をもって、富山大学との共同教員養成課程の第1期生が卒業した。令和4年度にスタートした同課程では、これまで①遠隔授業における学習効果の向上や②両大学の学生交流(エクスカーション)の充実化など、共同教育課程特有の課題や有効性について、アンケート調査をもとに両大学合同のFD研修会で議論を重ねてきた。 令和7年度のFD活動においては、①遠隔授業における学習効果の向上に関して、1月21日にFD研究授業を実施し、大人数による斉一授業における遠隔授業の工夫について協議を行った。また、②両大学の学生交流(エクスカーション)の充実化については、令和7年度新たに年間2日の推奨日を設定したことで、エクスカーションを実施するユニット数が増加した。 加えて、令和7年度は富山大学との合同FD研修会において、両大学の教育実習の運営体制を主題として取り上げた。これは、継続的に実施している学類独自の「教職への意識調査」調査を踏まえたものである。調査は1・2年次に対しては年1回、実習を経験する3、4年次に対しては実習の前後に各1回(計2回)実施しているもので、教職に対する意識の変化を4年間継続的に把握するとともに、特に3、4年次については、教育実習を通じた意識変容を明らかにすることを目的としている。これまでの調査結果からは、学生が教育実習において、授業力や児童生徒への対応力に対して力不足を感じていることが明らかとなったため、合同FD研修会では両大学の教育実習指導体制を共有しつつ、具体的な指導法について議論を行うこととした。研修を通じて富山大学では事前指導、金沢大学では実習期間中の指導が充実していることがわかり、双方の参考すべき点が明確になった。 その他、2月3日にハラスメント防止研修会として「教員のためのリスクマネジメント」と題して総合相談室の高山知明先生にご講演をいただき、学類教員のハラスメント防止に関する理解と意識改革に努めた。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6—2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

例年どおり、アンケート調査に関しては、「授業評価アンケート」および「卒業生アンケート」の全学的調査に加え、学類独自で実施している「教職に対する意識調査」を継続して行う。 FD研修会については、令和8年度も富山大学との合同開催が決定しており、現在、両大学のFD・カリキュラム委員会において研修内容を検討している。令和7年度は、教育実習の運営体制を共有するとともに、具体的な指導法について協議を行った。また、本学が実施したアンケートから、学生が特に力不足を感じる項目として、「授業力」および「児童生徒への対応力」が明らかとなった。富山大学では教育実習における事前指導が、本学においては実習期間中の指導がそれぞれ充実していることから、教員の負担に配慮しつつ、両大学の優れた指導方法を相互に取り入れることで、教育実習体制の改善と学生の教職意識の向上が期待できる。 令和8年度のFD研究授業は、社会科科目グループの山本英輔教授が担当することとなっている。研究テーマは、共同教員養成課程において継続的な検討課題となっている「遠隔授業における学習効果の向上」である。今回の研究授業は山本教授が富山大学で実施する授業を、参加教員が遠隔の受診側である金沢大学(角間キャンパス)において受講・観察する形式で行うことで、遠隔授業の受け手の立場から具体的課題を明確化することを目的として提案されたものである。本研究授業後には協議会を実施する予定であり、遠隔授業の改善に向けた具体的な課題の共有と活発な意見交換が行われることが期待される。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 地域創造学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	授業参観、卒業者アンケート・授業評価アンケート、カリキュラムマップ・ツリー更新などのFD活動を実施した。シラバス点検については、令和5年と同様に令和6年度もFD委員長による抽出点検を行い、必要項目の記載はほぼ徹底されていることを確認した。令和4年度から教員によるFD研修会(教育・研究実践報告)を実施しており、教育研究内容の相互理解や教育研究の質の向上を図っている。この研修会の動画は学生にも公開し、専門分野への興味・関心の醸成に役立てている。卒業者アンケートの回収率を改善するため、令和5年度と同様にアンケート開始時期の前倒しや複数回のアナウンスを行った。授業参観の増加や授業評価アンケート活用に工夫の余地があるが、概ね評価できるFD活動であった。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 令和6年度の卒業者アンケート(回収率約5割)の結果を分析したところ、学類のDPに関する能力はほとんどの項目で「高められた」「まあ高められた」、また、学類教育の満足度もほとんどの項目で「満足している」「やや満足している」との高い評価を得ていた。このことから、当学類の学生教育は概ね適切であると言えるが、地域創造学をより体系的に学修するための教科書を学類全体で作成することを計画している。この執筆作業において授業評価アンケートの活用を計画している。また、FD委員による授業参観の回数を増加させて、教育方法の改善および地域創造学の教科書における執筆内容の検討を行いたい。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☒ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。

	☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他(各教員が活用した)
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☒ その他(FD委員会で分析した結果を共有した)

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(14回実施した)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(各教員で検証した。)

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
地域創造学類FD研修会	令和7年5月22日	田中教員の実践報告	8名	
地域創造学教科書作成に関する検討会	令和7年8月21日	地域創造学教科書を作成に関して、出版の編集者と編者教員が執筆者の構想案を検討した。	4名	
地域創造学類FD研修会	令和7年11月27日	仙波・元山教員の実践報告	8名	
地域創造学類FD研修会	令和7年12月25日	高原教員の実践報告	8名	
地域創造学教科書作成に関する検討会	令和8年3月10・11日	地域創造学教科書を作成に関して、出版の編集者と執筆者が原稿を検討した。	20名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	授業参観、卒業生アンケート・授業評価アンケート、カリキュラムマップ・ツリー更新、教科書作成などのFD活動を実施した。シラバス点検については、令和6年と同様に令和7年度もFD委員長による抽出点検を行い、必要項目の記載は徹底されていることを確認した。令和4年度から教員によるFD研修会(教育・研究実践報告)を実施しており、教育研究内容の相互理解や教育研究の質の向上を図っている。この研修会の動画は学生にも公開し、専門分野への興味・関心の醸成に役立てている。卒業生アンケートの回収率を改善するため、令和6年度と同様に

	アンケート開始時期の前倒しや複数回のアナウンスを行った。さらに授業参観の回数を増加させて、独自の取り組みとして地域創造学教科書の作成を開始した。授業評価アンケート活用に工夫の余地があるが、概ね評価できるFD活動であった。
--	--

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度の卒業生アンケート(回収率約6.5割)の結果を分析したところ、学類のDPIに関する能力はほとんどの項目で「高められた」「まあ高められた」、また、学類教育の満足度もほとんどの項目で「満足している」「やや満足している」との高い評価を得ていた。このことから、当学類の学生教育は概ね適切であると言えるが、地域創造学をより体系的に学修するための教科書を学類全体で作成中で令和8年度中に刊行予定である。また、外国語の運用能力について、「あまり高められなかった」が36.84%、「高められなかった」が17.54%なので、改善方法を検討したい。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	過去1～2年で急速に発展・普及している生成AIのアカデミックスキルでの取り扱いについて理解と認識を共有することが出来たことは評価できる。また、教職課程について教員側の理解を整理し希望する学生に対するアドバイス面談に対する備えを確立させたことも重要である。卒業生の授業アンケート結果を見ても満足度は全体にかなり高い状態を維持しており概して評価できる水準を保っていると考えられるが、国際学類の教員構成上一部カバーしきれない地域に対する学生の関心にどのように対応すべきかといった課題が残っていることも事実であり、今後の検討と改善が必要と考えられる。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		令和7年度には教員相互の授業参観を定着させる予定である。FD研修会「歴史総合を考える」を開催予定。これによって、学生は高校で何を学んでくるのか、ということを確認し、授業の向上を図る。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☐ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☐ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
高校「歴史総合」	令和7年10月20日	星稜高校の池端教諭をお招きし、高校における地歴公民科目の現状に関し、意見交換を行った。	15名	他学類教員にも参加を呼びかけ、国際学類以外に1名参加
アカデミックスキル意見交換会	令和8年3月9日	アカデミックスキルを中心に1年次用科目の問題点に関し、意見交換を行った。	15名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	1年次への指導に関し、2度研修会を行った。また、全教員の授業公開を行った。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

AIを使った不正レポートへの対応に関しては引き続き学類内で情報を交換し、指導法の改善を計る。留学生対応の研修会を行い、問題発生を事前に防ぐ方策、及び、問題を最小限に留める方策を検討する。卒業生の授業アンケート結果を見ると、国際学類の教員構成上一部カバーしきれない領域に関する要望がある。他部署の教員による授業担当要請を検討する。
--

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 数物科学類・数物科学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	授業は適切におこなわれるようになり、また、予習・復習の教材も考慮した教材の開発が行われた。遠隔、対面および自習用に共用できる教材の改善にFDが貢献したと考えられる。研修会は実施できなかったが、研修会の企画を検討する。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		令和6年度は事務的なトラブルもあり、アンケート実施数を改善できなかった。回答内容の質に問題があるので、回答時間の確保や学生への協力依頼等を行うことで、より良いデータを用いてカリキュラムの改善につなげていく。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。

	☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
--	---

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
実施なし				

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	予習・復習の教材も考慮した遠隔教材が充実してきた。教材の改善にFDが貢献したと考えられる。AIに対応した課題作成やレポート評価についての研修会を開きたかったが、開催できなかった。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度は2月の初めから卒業時アンケートにアクセス可能になったので、修論発表会で利用できるようになった。今後も回答時間の確保や学生への協力依頼等を行うことで、より良いデータを用いてカリキュラムの改善につなげていきたい。研修会等の企画についても、学類長や教務委員とコンタクトを取りながら、教員の教育能力につながるような取組みを行っていきたい。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 物質化学類・物質化学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	令和6年度は月例会議後において授業評価方法や改善策に関する話し合いを継続し、FD活動への意識の共有化や改善に取り組んだ。FD研修会を実施し、卒業者のアンケートと指導教員のアンケート結果から、授業の改善・教育効果の向上を図った。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 教育改善委員会およびFD研修会において、アンケート結果をもとに教員間でディスカッションを行い、教育活動における課題や改善点を明らかにする。特に、不十分であった点や学生の期待とのズレ(ミスマッチ)を把握し、今後の教育方針の策定に活かすこととする。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☒ その他(学類ホームページに記載した)
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。

	☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
--	---

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(教務委員と連携し評価基準の明確化、および適正な評価の付与を周知した。)

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第24回FD研修会	令和7年11月11日	教員の講義改善に関する報告と議論	20名	応用化学コアプログラム
令和7年度第1回教育改善委員会	令和7年7月8日	卒業研究自己診断アンケート集計結果の分析、今後のFD活動の方針と計画についての議論	6名	応用化学コアプログラム

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	令和7年度は、7月の月例会議後に授業評価の方法や改善方策について継続的に協議し、FD活動に対する意識の共有と改善の推進に努めた。あわせてFD研修会を実施し、講義の改善や課題について、教員で議論を行った。加えて、卒業生アンケートおよび指導教員アンケートの結果を踏まえて、授業改善と教育効果の向上を図った。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

卒業・修了者アンケートにおいては、令和7年度は全体として高い評価が得られた。特に「積極的な取組み」は過去10年の結果を見ても上昇基調であり、研究活動そのものへの主体的な姿勢が強まっていることが示唆される。ただ、研究活動には積極的に取り組んでも、まとめの段階で力を出し切れていない学生が一定数存在する可能性がある結果も得られているため、来年度は卒業研究指導において学生と十分にコミュニケーションを取り、力を引き出す指導を行っていく方針としたい。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 機械工学類・機械科学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	シラバスの基本項目の英文入力に関しては、すべての科目で実施されており、問題無い。成績評価基準やActive Learningに関する記載に関してはまだ改善の余地があるため、機械工学類の教員間で共有し、令和7年度以降にこれらの英文表記も含め改善を働きかける。教員相互の授業参観に関して、先端テクノロジー概論Aでの機械工学類担当の2回を利用し、1回の講義で6名の教員が学生の興味・関心を惹く機械工学分野の魅力ある内容を吟味し、教員も相互参観しながら講義を実施している。またこの講義を受講した学生からの感想等を機械工学類の全教員と共有し、学生の現状での興味・関心を把握し、機械工学類での教育研究活動に活かしている。FD研修会の実施等、FD活動の主幹となる項目は例年通り概ね実施された。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 卒業・修了者に対するアンケートの集計結果に関して、令和5年度、令和6年度ともに回答率70-80%となり、機械工学類・機械科学専攻のDP達成度自己評価の傾向が見えてきた。授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートの集計結果を機械工学類会議で教員に周知・共有し、分析結果等を各教員やカリキュラム検討委員会での教育方法やカリキュラム改善のための参考資料として供し、より良い授業への改善を働きかける。また令和7年度においては、卒業・修了者に対するアンケートの回答率のさらなる向上をはかる。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。

	☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☒ ローテーションで実施した(5名未満)。(科目名:機械工学概論A, 機械工学設計製図) ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
理工3学類 合同FD研修会	令和8年3月17日	大学の国際化推進と安全保障貿易管理	54名	先端科学・社会共創推進機構(FSSI)と連携し、フロンティア工学類、電子情報通信学類と合同開催

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
4	DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握に関しては、アンケート結果も踏まえて5月の学類会議で教員に共有することで実施した。アンケート結果から、ここ数年の間に卒業した学生のDP達成度には同じような傾向が見られることから、現状のDP、CP、APIには関係性が見られた。教育方法改善の資料として今後利用していくことができると考えられる。シラバスの基本項目の英文入力に関しては、すべての科目で実施されており、問題無い。成績評価基準やActive Learningに関する記載に関してはまだ改善の余地があり、機械工学類の教員間で共有し、令和7年度ではこれらの英文表記も含め改善を働きかけた。教員相互の授業参観に関して、機械工学概論A等で、学生の興味・関心を惹く基礎科目と機械工学分野の関連について魅力ある内容を吟味し、教員も相互参観しながら講義を実施している。FD研修会の実施等、FD活動の主幹となる項目は例年通り概ね実施された。令和7年度のFD研修会は機械工学類が担当し、大学教員・職員を対象として安全保障貿易管理に関する制度概要の理解と、該非判定手順の習得を目標とする内容の講演を実施した。これによって近年の国際情勢下での教育や研究に従事する際に必要となる輸出管理に対する意識を高めた。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

卒業・修了者に対するアンケートの集計結果に関して、令和5年度、令和6年度ともに回答率70-80%であり、令和7年度はさらに回答率が上がり95%となった。機械工学類・機械科学専攻のDP達成度自己評価の傾向は、ここ数年の間に卒業した学生のDP達成度には同じような傾向が見られた。機械工学類の学生に関しては、数学や物理などの基礎科目に関するDP達成度自己評価は90%以上が概ね達成していると実感している結果となった。しかし専門科目になると、DP達成度自己評価は70%程度となり、機械工学に関する専門科目の習得に自信がない学生が30%程度いることが把握できた。大学院に進学して機械科学専攻を修了した学生に関しては、専門科目の習得に関してDP達成度自己評価は90%以上となり、現状の機械工学類・機械科学専攻におけるカリキュラムでは、6年間の教育によって多くの学生が自信を持って社会に出ている状況を把握することができた。これらの結果は中・長期的に学類のカリキュラム編成を考えていく際に参考とする。

令和8年度は、授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートの集計結果を機械工学類会議で教員に周知・共有し、分析結果等を各教員やカリキュラム検討委員会での教育方法やカリキュラム改善のための参考資料として供し、より良い授業への改善を働きかける予定である。また卒業・修了者に対するアンケートの回答率については引き続き高い回答率の維持を目指す。一方で博士後期課程修了者のアンケート回答率が低いので回答率の向上をはかる。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 フロンティア工学類・フロンティア工学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	安定した教育環境を整えられるように、シラバスやアンケートの確認を行った。これまでに明らかとなった問題点を踏まえてカリキュラムの修正を行い、令和7年度入学者から新カリキュラムとして適用するための準備を整えるなど、よりよい学類を目指したFD活動を継続的に行った。学生実験における「学生間ピアレビュー」の活用に関するFD研修会を行い、学生間ピアレビューが実験レポートのクオリティや自学効果の向上に対して与える効果、本取り組みの持つメリット・デメリットを交えた特徴について紹介した。また、学類コロキウムにおいて学生向けの講演会、ポスター発表及び展示による研究室紹介を行い、学類選択やコア選択のための教育内容について紹介した。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		令和7年度新入者より学類のカリキュラムが変更されるため、カリキュラム変更に伴う教育効果等について検証する。また、大学院についても令和6年度のアンケート結果を踏まえて、引き続きカリキュラムの見直しを行っていく。特に社会を先導する人材を育成するために、各授業科目の内容を見直し、異分野融合を着実に進める。

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
3学類合同FD研修会	令和8年3月17日	大学の国際化推進と安全保障貿易管理	50名	フロンティア工学類 機械工学類 電子情報通信学類合同開催

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
4	安定した教育環境を整えられるように、シラバスやアンケートの確認を行った。令和7年度入学者から新カリキュラムが適用されたため、カリキュラム変更の効果を検証するための準備など、よりよい学類を目指したFD活動を継続的に行った。「大学の国際化推進と安全保障貿易管理」というタイトルでFD研修会を行い、安全保障輸出管理制度についての説明を通じ、研究者としての履行の意義や社会的責任についての理解を深めるとともに、輸出管理手続きのうちで最も重要な「該非判定」について、その手続きのポイントについても紹介した。また、ポスター発表及び展示による研究室紹介を行い、学類選択やコア選択のための教育内容について紹介した。さらには、博士後期学生を教員全員で指導する機会とするため、マテリアルコアにおいて化学工学博士人材育成セミナー(博士後期学生および進学予定の学生の研究紹介)を開催した。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度新入生より学類のカリキュラムが変更されたため、カリキュラム変更に伴う専門教育効果等についての検証を開始する。また、大学院についてもアンケート結果を踏まえて、引き続きカリキュラムの見直しを行っていく。特に社会を先導する人材を育成するために、各授業科目の内容を見直し、異分野融合を着実に進める。
--

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 電子情報通信学類・電子情報通信学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	・シラバスの基本的項目について点検し、問題ないことを確認し、学類で共有した。 ・授業科目の英語化について点検した。 ・教員相互の授業参観としてモデル授業を実施した。 ・成績評価基準の記載を点検し、成績分布に問題がないことを確認し、学類で共有した。 ・理工3学類合同のFD研修会を実施した。 ・教育方法の改善に組織的に取り組み、推進できた。 以上より、令和6年度のFD活動は概ね評価できる。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		独自に作成したFD活動のためのLMSコースを活用し、各教員が授業評価アンケートの結果の評価および次の目標を設定することにより、授業改善を行った。 この取り組みを令和7年度も継続する。

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
① 授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
② 卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
理工3学類合同FD研修会	令和8年3月17日	大学の国際化推進と安全保障貿易管理	約50名	機械工学類、フロンティア工学類と合同開催

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	シラバスの点検や英語化率の向上に向けた取り組みを実施し、令和6年度以上にその内容の充実に努めたほか、授業評価アンケートの実施・活用をはじめとする活動を滞りなく行うことができた。理工3学類合同FD研修会では、「大学の国際化推進と安全保障貿易管理」について外部の講師を招いての研修を開催し、特に近年求められる「研究セキュリティ、インテグリティの確保、安全保障輸出管理」について参加者の知識向上に資する機会を提供できた。教員相互の授業参観について具体的な活動の充実に課題が残っており、次年度以降の活動に注力していく必要がある。以上のことから、令和7年度のFD活動は概ね評価できる。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度は卒業・修了者アンケートの実施に際して、回答率の向上を図るために該当者への定期的な連絡を行うなどの取り組みを強化した結果、前年度に比べて回答率が飛躍的に向上した。令和8年度は前年度の回答率の水準を維持するために、同様のケアを怠らないことに注意する。また、学類が独自に管理するFD活動のためのLMSコースの活用を継続し、各教員による授業評価アンケート結果に対する評価と目標設定を行うことで、授業改善に向けた取り組みを行っていく。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 地球社会基盤学類・地球社会基盤学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	FDシンポジウムでは、教育研究の場においてAIの活用が進む中、AIリテラシーを高める教育実践について、実例を交えつつ、国際基幹教育院外国語教育系の山村公恵講師に、講演いただいた。また、本学類で独自に行っている卒業生によるアンケートから選出された優秀教員による授業方法について、話題提供および意見交換を行い、それぞれの教員の授業改善につながる活動を行った。JABEE継続審査において、土木防災・環境都市コースについて全科目の点検を行い、審査において高い評価を得ることができた。 以上の活動から、「大いに評価できる」FD活動であったと評価した。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 卒業生、修了者への達成度アンケートから、地球社会基盤学類の全3コースともに、DP達成度は、全ての項目に対して、「十分に達成している」「ある程度達成している」と回答した学生が8割を超えており、カリキュラムが掲げる教育目標を達成できていると考えられる。また、学類内独自に行った卒業アンケートでは、卒業研究における研究室配属の方法について、改善を求める声も一部に確認された。すべての学生が納得する方法は困難であると認識しつつも、更なる改善の必要性を感じた。令和7年度は、土木防災コースおよび環境都市コースにおいてはJABEE受審があるため、すべての科目について、過去2年分のリフレクションペーパーも含む科目ごとの教育内容を総括することになる。また、本学類では学類FDシンポジウムを毎年開催し、各教員の教育能力の底上げを行う活動をしており、今後も継続していく。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。

	☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
地球社会基盤学類 FDシンポジウム	令和7年10月31日	博士人材育成をテーマに、2教員による実践例、教員アンケートの分析、意見交換、優秀教員(2教授)による話題提供、JABEE審査活動報告	学類長、専攻長、FD委員 ほか18名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	FDシンポジウムでは、博士人材育成をテーマに、博士人材を多く輩出している2教員の実例を交えつつ、教員アンケートによる課題共有や解決についての意見交換を行い、各教員の授業改善につながる活動を行った。 JABEE認定継続審査では各教員が教育活動を点検、見直しした結果、審査において高い評価を得て継続認定となった。以上の活動から、「概ね評価できる」FD活動であったと評価した。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

卒業・修了者の達成度アンケートから、地球社会基盤学類の全3コースともに、DP達成度は、全ての項目に対し、「十分に達成している」「ある程度達成している」と回答した学生が8割を超え、カリキュラムが掲げる教育目標を達成できたと考えられる。学類内独自に行った卒業アンケートでは総じてカリキュラムに高評価な意見が多かったものの、研究室配属の方法や卒業研究について改善意見が一部に挙げられ、更なる改善が必要と感じる。また土木防災コースおよび環境都市コースにおいては、JABEE継続審査において全科目の点検を行い審査では高い評価を得ることができたが、更なるPDCAによる教育改善を進める。併せて、毎年開催する学類FDシンポジウムにおいて引き続き、各教員の教育能力の底上げを行うことを目的に活動を進める。
--

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 生命理工学類・生命理工学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	授業評価アンケート及び卒業・修了者アンケートについて、回答率を上げるため、それぞれの教員から学生への働きかけを学類会議で周知した。また、授業評価アンケートについて学類会議で意見交換を行い、授業内容及び指導法の改善を通じて学生に積極的な学習姿勢を涵養する機会にもできる、という改善案が出た。実験実習科目から専門的知識の定着を図る学類であるため、レポートの作成法や学生実習の実施方法について取り組みを継続している。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		授業評価アンケート及び卒業・修了者アンケートの内容について、学類独自に精査できているわけではない。具体的な課題の発見や新たな授業方法の立案につなげる改善が必要であると考えられた。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
-----------------------	---

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
開催なし				

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	卒業・修了者アンケートではDP 達成度自己評価 および学生生活満足度 について90%以上の学生が「十分達成している・ある程度達成している」「満足している・やや満足している」と回答している。学生からの評価が得られている反面、具体的な改善点を見出すための機会としては活用できていないと捉えることもできる。それぞれの教員による努力は継続するとして、学類として組織的な取り組みを見つけて設定することが、今後の課題である。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取り組みの計画について、具体的に記載してください。

実験実習科目から専門的知識の定着を図る学類であるため、2025年度理工・自然研FDシンポジウムで紹介されていたデンマーク・マクマスター大学の学生の例のように、必要な基礎知識を習得する、という意識を持って座学の授業に主体的に取り組む環境の構築へ向けたカリキュラム立案や授業方法の改善が必要である。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	・医学教育分野評価基準の1年毎の自己点検の作業を行い、日本医学教育評価機構(JACME)にその結果を報告し、本学医学類HP上でも令和6年度年次報告書を公開している。 ・令和6年度には医学系FD研修会を計11回実施した。医学類FD委員会は医療人材教育研究センターと金沢学術アカデミーと連携することで、FD研修会の内容の充実に繋がった。医学系FD研修会の対象の教員(医学系および附属病院所属の教員)がFD研修会の内容をいつでも閲覧できるように、FD研修会の資料や録画した動画をLMS「医学FD」上で共有している。また、年2回未満の教員に対しては、オンデマンド教材の視聴とレポート作成を例年通り課した。 ・チュートリアル教育のチューター研修会を毎年開催することにより、教員のチュートリアル教育に対する理解が深まった。 ・OSCEステーション責任者会議は、責任者に対する説明・打合せを行った後、各責任者がそれぞれのステーションの担当教員へ説明を行う方式を取っており、多人数の担当教員への説明が効果的に行われた。 ・カリキュラム評価委員会を定期的に開催し、科目別評価及び教員への評価のフィードバック、また評価に対する意見聴取等を行った。医学類1～6年次の各学年の代表者が同委員会に参画した。 ・カリキュラム委員会及び教育委員会を中心として、「医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版」を踏まえたカリキュラム改革を行った。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 医学教育IR室、カリキュラム評価委員会、カリキュラム委員会及び教育委員会を中心として、教育カリキュラムの改善に引き続き取り組む。 医学類FD委員会は、医療人材教育研究センターや金沢学術アカデミーと連携して、FD研修会のさらなる充実を図っていく。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(1年次「早期医療体験」および4～5年次診療参加型臨床実習のまとめにおいて、実習担当者による授業参観の機会を設け、1年次では医学類の実習担当者、臨床実習のまとめでは薬学類の実習担当教員が参観した。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第1回医学系FD研修会	令和7年4月	金沢大学医学類の教育理念・3つのポリシー	27名	
第2回医学系FD研修会	令和7年5月14日	医学類カリキュラムについて	101名	
第3回医学系FD研修会	令和7年6月6日	隠岐での実践、総合診療医養成 ゲームチェンジャーとなるために	50名	
第4回医学系FD研修会	令和7年7月14日	PostCC-OSCEにおけるIRT導入 課題数削減と評価者の列間・課題間移動	35名	
第5回医学系FD研修会	令和7年9月12日	ハラスメントの防止に向けて	18名	
第6回医学系FD研修会	令和7年11月28日	チーム医療マインドの醸成に向けた多職種連携教育の展開	26名	
第7回医学系FD研修会	令和7年12月5日	薬学生から始める！在宅医療と多職種連携の実践的教育プログラム	17名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6―1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
4	・医学教育分野評価基準を1年毎に自己点検し、日本医学教育評価機構(JACME)にその結果を報告するとともに、本学医学類HP上でも2025年度年次報告書を公開している。 ・2025年度には医学系FD研修会を7回実施した。医学類FD委員会は医療人材教育研究センターと金沢学術アカデミーと連携することで、FD研修会の内容の充実に繋がった。医学系FD研修会の対象の教員(医学系および附属病院所属の教員)がFD研修会の内容をいつでも閲覧できるように、FD研修会の資料や録画した動画をLMS「医学FD」上で共有している。また、年2回未満の教員に対しては、オンデマンド教材の視聴とレポート作成を例年通り課した。 ・チュートリアル教育のチューター研修会を毎年開催することにより、教員のチュートリアル教育に対する理解が深まった。 ・OSCEステーション責任者会議は、責任者に対する説明・打合せを行った後、各責任者がそれぞれのステーションの担当教員へ説明を行う方式を取っており、多数の担当教員への説明が効果的に行われた。 ・カリキュラム評価委員会を定期的に開催し、科目別評価及び教員への評価のフィードバック、また評価に対する意見聴取等を行った。医学類1～6年の各学年の代表者が同委員会に参画した。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6―2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

医学教育IR室、カリキュラム評価委員会、カリキュラム委員会及び教育委員会を中心として、教育カリキュラムの改善に引き続き取り組む。 医学類FD委員会は、医療人材教育研究センターや金沢学術アカデミーと連携して、FD研修会のさらなる充実を図っていく。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 薬学類(創薬科学類)・創薬科学専攻・薬学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	金沢大学の方針に従ったFD活動を令和6年度も実施した。毎年、薬学系独自のFD研修会と、新任教員を対象とした研修会を開催している。薬学系FD研修会では「Using ChatGPT and AI to Accelerate and Transform your Learning and Research」と題し、金沢大学薬学Gary Ross先生がChatGPTについて講演を行った。 ChatGPTをはじめとするAI技術を、薬学教育・研究に取り入れる参考事例が紹介された。教育分野においては、生成AIを適切に活用することで、学修効果が上がり、また教職員の業務効率化を図ることができるなどの効果が期待される等、薬学教育の在り方等を考える機会となった。これらの活動を通して教育の改善・充実、教員の能力及び資質向上に繋げることができた。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 学類長・専攻長、学類・大学院の教務・学生生活委員長、就職担当教員、FD委員会委員長が卒業・修了者に対するアンケート結果を確認した。 アンケートの結果から、学修等の良好な達成度、「金沢大学で学んだことに満足している」の設問の回答が100%という結果も得られた。現行の授業内容・方法が学生にとって概ね適切であると分析している。令和7年度もFD研修会を継続実施し、授業評価アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取り組みを行う。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
① 授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。

	☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
② 卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
令和7年度薬学系新任教員 教務関連研修会	令和7年11月26日	教務全般の説明(カリキュラム、履修、成績判定、アカンサスポータルの運用、授業アンケート、アドバイザー制度)	薬学学類長、学類教務・学生生活委員長、大学院教務委員長、他7名	国際基幹教育院の協力を得た。
令和7年度薬学系(学類・大学院研究教育)FD研修会	令和8年3月2日	テーマ:「大学院における分野横断型教育の意義と価値～ラボローテーションを中心に考える～」動画視聴、課題。 課題①:将来的に試行可能と考えられる分野横断型教育の取り組み案の提案。 課題②:アンケート	薬学教員50名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	金沢大学の方針に従ったFD活動を令和7年度も実施した。毎年、薬学系独自のFD研修会と、新任教員を対象とした研修会を開催している。薬学系FD研修会では「大学院における分野横断型教育の意義と価値～ラボローテーションを中心に考える～」動画視聴、視聴後は課題「将来的に試行可能と考えられる分野横断型教育の取り組み案の提案」、「アンケート」の提出を行った。動画内容の理解深化のみならず、各教員が自らの教育実践と結びつけて考察する機会を提供し、教育向上への意識醸成を図った。

--	--

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

学類長・専攻長、学類・大学院の教務・学生生活委員長、就職担当教員、FD委員会委員長が卒業・修了者に対するアンケート結果を確認した。アンケートの結果から、学修等の良好な達成度、「金沢大学で学んだことに満足している」の設問の回答が94.6%という高い結果も得られた。現行の授業内容・方法が学生にとって概ね適切であると分析している。令和8年度もFD研修会を継続実施し、授業評価アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取組みを行う。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医薬科学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	教育に関するFD(授業評価アンケートの結果を学類会議で共有する、シラバスの確認)については概ね実施できていた。また、2月にFD研修会を開催し、「医薬科学類独自の成績基準について」と題して、合同開講科目における成績評価のありかたについて意見交換を行った。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 前年度に引き続き、講義に関する提案(自由記載含む)が授業評価アンケート内容に含まれている場合、その内容について学類会議で共有し、必要に応じてその内容を担当教員に照会し、説得力のある提案については改善を検討するなど、今後、講義のあり方に実際に反映されるよう取り組みを行う。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
① 授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
-----------------------	---

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(複数の教員が担当する科目において、オンライン講義を相互に視聴できるようにした。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
令和7年度第1回医薬科学類FD研修会	令和8年2月20日	・医薬科学類独自の成績基準について ・スチューデント・アシスタント(SA)について	15名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	教育に関するFDとして、授業評価アンケート結果の共有、シラバス記載内容の確認、成績評価分布の共有等を概ね実施できた。また、2月にFD研修会を開催し、合同開講科目における医薬科学類学生の成績分布及び他学類との成績差を踏まえ、成績評価基準のあり方について意見交換を行った。さらに、CLA制度廃止後のスチューデント・アシスタント(SA)制度の活用可能性、低学年学生の学修支援、研究室配属後の学生の意欲・モチベーション維持についても議論し、今後の教育支援体制を検討する上で有益な情報共有を行った。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度に引き続き、授業評価アンケートの自由記載等に含まれる講義改善に関する提案を学類会議等で共有し、必要に応じて担当教員に照会することで、講義内容・授業方法の改善に反映させる。また、合同開講科目における成績分布及び学類間の成績差について継続的に把握し、成績評価基準や到達目標の妥当性について必要に応じて検討を行う。さらに、低学年学生の専門科目への接続支援や、研究室配属後の学修・研究意欲の維持に関する課題について、SA制度の活用可能性を含めて検討し、学生支援体制の改善につなげる。
--

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 保健学類・保健学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	令和6年度は保健学系独自に企画したFD研修会を、「セルフタッチング ストレスをコントロールしよう!」「発達障害について―学生の苦手さを知る―」「高大接続の足がかり―高校現場の視点から―」を演題として、合計3回実施した。 第1回「セルフタッチング ストレスをコントロールしよう!」では、令和6年1月1日に発生した能登半島地震の影響が残る中、ストレスへの解決の糸口を得た。第2回「発達障害について―学生の苦手さを知る―」では、学生の心の苦しさへの理解を深め、関わりのあり方を知る機会となった。第3回「高大接続の足がかり―高校現場の視点から―」では、現役の公立高等学校の教諭を招くことで、高校での教育の状況が分かり、高大接続の現状や展望についてディスカッションできた。 以上のように、これまでになかった企画であり、多くの教職員が参加した。医学系FD研修会および医療人材教育研究センターFD研修会についても毎回案内し、参加を促すことで、医療人材教育に関するさまざまなトピックを学ぶ機会を提供した。 また、教育活動および研究活動のさらなる充実を目的に、学類生の投票結果に基づく優秀教育教員の選出、および優れた業績を残した教員や大型公的研究費を獲得した教員を対象とした優秀研究教員の選出を行った。これらの活動は大いに評価できると判断した。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 授業評価アンケートや卒業・修了者に対するアンケートの結果は、令和7年度も引き続き授業担当教員にフィードバックし、必要に応じて改善に向けた働きかけや取り組みを進めていきたい。また、優秀教育教員に選出された教員が行っている優れた取り組みの共有、アクティブラーニングの導入推進、DXの推進などを通して、教員の教育能力の向上のための取り組みを進めていきたい。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
-----	-------------------------------

① 授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
② 卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
令和7年度第1回保健学系FD研修会	令和7年8月6日(水)	障害者との接し方 ー障害者スポーツ指導の経験からー	保健学類長、 FD委員長ほか43名	
令和7年度第2回保健学系FD研修会	令和7年10月1日(水)	ハラスメントの防止 ーハラスメントのない職場を目指してー	保健学類長、 FD委員長ほか71名	
令和7年度第3回保健学系FD研修会	令和7年12月3日(水)	「生成AIの講義利用」について	保健学類長、 FD委員長ほか49名	
令和7年度第1回看護科学領域FD研修会	令和7年9月1日(月)	生成AI時代における看護教育ー教員として知っておくべき活用方法、注意点、課題ー	看護科学領域長、FD委員長ほか27名	看護科学領域FD講演会
令和7年度第2回看護科学領域FD研修会	令和7年11月14日(月)	Computer-Based Testingの看護教育への導入と課題	看護科学領域長、FD委員長ほか28名	看護科学領域FD講演会

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
------------	----

4	令和7年度は保健学系独自に企画したFD研修会を、「障害者との接し方ー障害者スポーツ指導の経験からー」「ハラスメントの防止ーハラスメントのない職場を目指してー」「生成AIの講義利用について」を演題として、合計3回実施した。 第1回「障害者との接し方ー障害者スポーツ指導の経験からー」では、パラリンピックのアスリートを実際に指導する講師を招いた。アイマスクの着用により視覚からの情報が得られなくなることで、伝えることの難しさ、理解することの難しさを体験した。この体験により、障害のある学生へのコミュニケーションや周囲の環境に対する配慮への重要性や工夫の必要性についてあらためて理解した。 第2回「ハラスメントの防止ーハラスメントのない職場を目指してー」では、教職員が陥りやすいハラスメントトラブルを再確認できたとともに、質疑応答では回避する方法について教職員の間で情報共有ができた。 第3回「生成AIの講義利用について」では、学生による生成AIの利用例を学生2名が発表し、学生がどのように利用しているのか共有できた。また、専門家による最新の生成AI事情も確認できた。 以上のように、これまでにない企画であり、多くの教職員が参加した。医学系FD研修会および医療人材教育研究センターFD研修会についても毎回案内を行い、参加を促すことで、医療人材教育に関するさまざまなトピックを学ぶ機会を提供した。 また、教育活動および研究活動のさらなる充実を目的に、学類生の投票結果に基づく優秀教育教員の選出、および優れた業績を残した教員や大型公的研究費を獲得した教員を対象とした優秀研究教員の選出を行った。これらの活動は大いに評価できると判断した。
---	---

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6ー2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケートや卒業・修了者に対するアンケートの結果は、令和8年度も引き続き授業担当教員へフィードバックを行い、必要に応じて改善に向けた働きかけや取り組みを進めていきたい。また、ハラスメントが確実に予防されるための企画や、学生の抑うつ・自死予防のための企画に取り組みたい。後者については、SNSによる学生への心理面への影響を包含した取り組みとしたい。さらに、優秀教育教員に選出された教員が行っている優れた取り組みの共有、アクティブラーニングの導入推進、DXの推進などを通して、教員の教育能力向上のための取り組みを推進する予定である。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 人間社会環境研究科

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	令和6年度は2回のFD研修会を実施した。1回目はデータプライバシーをテーマとし、データ活用とプライバシー保護をめぐる世界的な潮流と各分野での状況について情報共有をすることができ、令和8年4月に予定している「データプライバシーエキスパート養成プログラム」の開始に向けた準備として有益であった。2回目は大学院進学者を増やす方策をテーマとし、大学院進学率の高い大学の事例報告から、学士課程の学生の大学院進学に関する意識を変え、早い段階から進学へのモチベーションを持たせることが重要であること等を学び、今後の研究科での取り組みのヒントを得ることができた。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		令和6年度の授業評価アンケートと卒業・修了者アンケートの集計結果は概ね良好といえるが、学生の評価のやや低い項目については情報共有の上、改善方策について検討するとともに、これらを参考にして授業の内容や実施方法の検討を行う。また、院生研究室の形態などを順次変更していく途上にあるが、その際に卒業・修了者に対するアンケートや大学院学生との懇談会などで示される学生からの意見も参考としていく。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した(人文学専攻)。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(特に実施していない。)

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
令和7年度第1回人間社会環境研究科FD研修会	令和7年11月13日	外部講師を招き、高度専門職人材養成に求められる教育コンセプトと具体的な設計手法について学んだ。	41名	人間社会学域、経済学類と共催
令和7年度第2回人間社会環境研究科FD研修会	令和8年2月3日	総合相談室総括相談員を招き、教員がハラスメントの加害者にならないためのリスクマネジメントについて学んだ。	38名	人間社会学域、学校教育学類、地域創造学類と共催
令和7年度第3回人間社会環境研究科FD研修会	令和8年2月20日	外部講師を招き、人文系大学院におけるデジタル教育の事例を学び、本研究科での取り組み方を考えた。	15名	
令和7年度第4回人間社会環境研究科FD研修会	令和8年3月17日	外部講師3名による講演を中心に、人間行動データの収集・管理・利活用に伴う課題や可能性について考えた。	50名	人間社会環境研究科Xプログラム主催「第2回未来知融合シンポジウム」をFD研修会として兼ねた。

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	令和7年度は4回のFD研修会を実施した。第1回は外部講師を招いた講演で、いわゆる「土業」を中心とする高度専門職人材に求められる能力と学生の意識について現状を把握することができた。第2回は総合相談室担当者の話題提供により、教員がハラスメント加害者にならないための注意点が確認できた。第3回は本研究科とも連携関係にある大学の人文系大学院におけるデジタル教育の事例を学び、本研究科での今後の取り組みに示唆を得ることができた。第4回のシンポジウムでは、人間行動データの収集・管理・利活用における課題や今後の可能性について、講演の具体的な事例から学び、認識を深めることができ、令和8年4月の「データプライバシーエキスパート養成プログラム」開始に向けた準備として有益であった。このように、全般的にはFD活動を活発に行うことができた年度であったが、その一方で、本研究科では特に博士後期課程において標準修了年限を超えて在籍する学生の数が多く、学生の論文執筆に対する指導の面での課題が多いが、それを解決するためのFD活動は十分に行うことができなかった。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度の授業評価アンケートと卒業・修了者アンケートの集計結果は概ね良好といえるが、学生の評価のやや低い項目については情報共有の上、改善方策について検討するとともに、これらを参考にして授業の内容や実施方法の検討を行う。また、本研究科で毎年度実施している「大学院生と研究科長との懇談会」および「研究カンファレンス（年2回）」において大学院学生の意見を直接拾うことにより、教育方法やカリキュラムの改善に資する予定である。令和8年度は、特に博士後期課程における論文執筆指導の面で、教員に対するFD活動を積極的に行うことが課題となる。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医薬保健学総合研究科(修士課程・医学博士課程)

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	FD研修会(医学系)を毎月対面開催することができた。令和5年度より医学類FD委員会と医療人材教育研究センターと連携し、医学系だけでなく、薬学系や保健学系の教員も参加可能なFD研修会の実現を目指した。授業評価アンケートについては、全学的な方針に基づき、Webにより効率的な実施とすることができた。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		修了者アンケートの結果から、医学博士課程、修士課程ともに学修等に満足している結果が得られた。 医学博士課程における2点の継続課題について、①複数指導体制について、令和6年度においても、6割の学生が十分に認識していない結果であった。しかし令和6年度から学生面談を実施したことにより、複数指導体制が学生本人に認識されるようになると考えられる。②単位の修得方法、時期を分かりやすく手引きに明示することにより、分かりにくいという学生の意見に減少傾向が見られるが、継続して実施する。 修士課程においては、対面授業が可能となり、アンケートでは、Q2Iにおいて90%以上が学びたいと考えていたことが学べたもしくはどちらかといえば学べたという回答結果だった。またQ14では90%以上が本専攻で学んだことに満足しているもしくはやや満足しているとの回答結果であった。概ね良好だと考えられるが、令和7年度はさらに改善すべき点を検討する。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☐ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
医学系FD研修会	毎月不定期計7回 (8, 10, 1~3月を除く)	カリキュラムとポリシー、ハラスメントの防止、多職種連携教育等	20~100名	医学類と合同

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	FD研修会(医学系)を対面開催することができた。令和6年度より医学類FD委員会と医療人材教育研究センターと連携し、医学系だけでなく、薬学系や保健学系の教員も参加可能なFD研修会の実現を目指した。授業評価アンケートについては、全学的な方針に基づき、Webにより効率的な実施とすることができた。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

修了者アンケートの結果から、医学博士課程、修士課程ともに学修等に満足している結果が得られた。
 単位の修得方法、時期が分かりにくいという学生の意見には、分かりやすく手引きに明示することにより、改善していく。
 修士課程においても令和8年度はさらに改善すべき点を検討していく。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 先進予防医学研究科

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	シラバスの点検を行い、記載内容の確認を行った。千葉大学・金沢大学・長崎大学先進予防医学共同専攻合同FD講演会において、最先端のオミクス解析技術とその応用に関する情報を共有し、今後の教育・研究活動に資する新たな視点や連携の可能性を得ることができた。授業評価アンケート結果はすべてWebで公開し、担当教員が確認できるように適切に整備した。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 授業評価アンケートおよび修了者に対するアンケートに講義・実習授業や教育計画、カリキュラムに対する提案が含まれている場合は、その内容について研究科内で共有し、検討を行うなどにより教育活動の改善に取り組む。効果的なオンラインコンテンツ(講義及び実習)を増やし、有効に活用するために、3大学合同FD講習会を継続して実施し、シラバス記載内容及び教育方法の改善に取り組む。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☐ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
-----------------------	--

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(複数教員が担当する科目において、オンライン講義を相互視聴できるようにした。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
金沢大学・千葉大学・長崎大学 合同先進予防医学共同専攻 FD講演会	令和7年12月1日	金沢大学が主催で、共同専攻合同のFD講演会『実施した多様性・障害者権利条約時代の「心理社会的支援」』をWeb開催した。	3大学の担当教員、学生の計89名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	シラバスの点検を行い、記載内容の確認を行った。千葉大学・金沢大学・長崎大学先進予防医学共同専攻合同FD講演会において、精神保健・心理社会的支援の現状に関する情報を共有し、今後の教育・研究活動に資する新たな視点や連携の可能性を得ることができた。授業評価アンケート結果はすべてWebで公開し、担当教員が確認できるように適切に整備した。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

引き続き、授業評価アンケートおよび修了者に対するアンケートに講義・実習授業や教育計画、カリキュラムに対する提案が含まれている場合は、その内容について研究科内で共有し、検討を行うなどにより教育活動の改善に取り組む。効果的なオンラインコンテンツ(講義ならびに実習)を増やし、有効に活用するために、3大学合同FD講習会を継続して実施し、シラバス記載内容ならびに教育方法の改善に取り組む。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 新学術創成研究科

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	融合科学共同専攻のFD研修会はJAISTとの合同開催だが、令和6年度は、対面での実施により、率直かつ多様な意見交換が活発に行われた。また、各専攻で抱えている関心の高い課題を研修会のテーマに設定したこともあり、教員間で多くの質問や情報共有、検討が行われ、有意義な場を設けることができた。 また、標準修業年限内で学位取得を目指すため、教員と学生との間で学位取得までの研究計画の策定について「新学術創成研究科の研究指導に関する目安」を定め、令和7年度から運用を開始することとした。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		令和7年度も引き続き、各専攻における課題に着目した研修会を計画し実施する。令和7年度は、総合知創出科学専攻が加わったことから、FD活動の実施体制等を検討し進めていく。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(融合科学共同専攻では、異分野「超」体験セッションⅠ(博士前期課程)、Ⅱ(博士後期課程)の授業を、専任教員に遠隔配信にて公開した。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☐ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第26回融合学域FD研修会	令和7年9月4日	「研究者倫理について」	26名	融合学域と合同開催
産学連携、研究推進に関する制度説明	令和7年6月12日	共同研究制度改正等	25名	融合学域と合同開催
ハラスメント研修会	令和7年12月11日	「ハラスメントの防止ーハラスメントのない大学を目指してー」	27名	融合学域と合同開催
研究シーズ紹介	令和8年1月8日	融合研究域教員の研究紹介	34名	融合学域と合同開催
研究シーズ紹介	令和8年2月12日	融合研究域教員の研究紹介	33名	融合学域と合同開催
研究シーズ紹介	令和8年3月12日	融合研究域教員の研究紹介	26名	融合学域と合同開催
融合科学共同専攻FD研修会	令和7年12月12日	融合人材の育成等について意見交換	8名※他、JAIST教員6名	JAISTとの合同開催
ナノ生命科学専攻FD研修会	令和8年3月13日	教員のためのリスクマネジメント～ハラスメントの加害者とならないために～	10名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
------------	----

3	本研究科は、専攻毎にFD研修会等のFD活動を実施しており、各専攻では以下について実施した。 ・総合知創出科学専攻では、融合学域と合同でFD研修会や研究シーズ紹介等を開催した。FD研修会では教育方法改善等について意見交換を実施し、研究シーズ紹介では教員研究について相互理解を深めた。 ・融合科学共同専攻では、JAISTとの合同で対面開催し、融合人材の養成をテーマに、教育方法等について意見交換を行った。 ・ナノ生命科学専攻では、総合相談室の職員を講師に招き、ハラスメントからのリスクマネジメントをテーマとし研修会を実施し、活発に質疑応答が行われた。 令和7年度から、「新学術創成研究科の研究指導に関する目安」に基づき、学年の始めに、指導教員と学生との間で学位取得までの研究計画の策定及び進捗の確認について、運用を開始した。
---	--

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和8年度も引き続き、各専攻における課題に着目した研修会を計画し実施する。また、授業評価アンケート及び修了者に対するアンケートの集計結果から、授業や教育計画、カリキュラム等についての意見や提案等について専攻及び研究科内で共有・検討し、教育活動の改善に取り組む。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 法学研究科(修士課程・専門職学位課程)

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	(法学・政治学専攻) 大学院進学者を増やすため、他大学の取り組みを学ぶFD研修会を実施した。 (法務専攻) 組織的・継続的に可能な限りの取り組みがなされ、毎年改善がなされている。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 ・アンケート結果及び各教員によるアンケートに対する所感・意見をとりまとめて教員間で共有し、FD研修会において継続的に検討する。また、弁護士との意見交換会を開催し、授業参観をした弁護士からの意見を聴取するなどする。(法務専攻) ・令和6年度に新設した高度専門職コース知的財産・リスク管理プログラム、及び令和7年度に新設予定のデータプライバシー・エキスパート養成プログラムにおける指導体制のあり方について引き続き検討する。(法学・政治学専攻)

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。(法学・政治学専攻) ☒ 英文での入力状況をチェックした。(法学・政治学専攻) ☒ 英文での入力を個別に依頼した。(法学・政治学専攻) ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。(法学・政治学専攻) ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。(法務専攻) ☒ 科目担当者間で共有した。(法務専攻) ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。(法務専攻) ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。(法務専攻) ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☒ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
-----------------------	---

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。(法務専攻) ☒ その他(弁護士による授業参観も実施し、意見交換会において、実際に参観した弁護士からの意見を聴取している(法務専攻))

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。(法務専攻) ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。(法務専攻) ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。(法務専攻) ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。(法務専攻) ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
法務専攻・法学類合同FD研修会	令和7年11月18日	法学類と法務専攻の連携強化のために 1.法曹養成プログラムについて 2.在学中受験について	29名	法務専攻、法学類共催
令和7年度意見交換会	令和8年1月14日	1.授業参観について 2.自主ゼミの実施状況について 3.中間アンケートの結果について 4.司法試験の合格率の向上に向けて	17名(教員11名、弁護士6名)	法務専攻
令和7年度FD研修会	令和8年3月10日	1.共通到達度確認テストの結果分析 2.未修者教育のあり方について 3.データにもとづく学生指導 4.修了生のサポートについて 5.答案添削・自主ゼミについて 6.履修者間の学力(法律の理解度)の差について 7.CBTトライアルの利用状況	11名	法務専攻

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
4	(法学・政治学専攻) 入学者増に伴い、授業評価アンケートの対象となる授業が増加した。結果について専攻会議で報告し、授業の改善に努めた。 (法務専攻) 組織的・継続的に可能な限りの取組みがなされ、毎年改善がなされている。上記のほか、筑波大学法科大学院との合同FD研修会、千葉大学法科大学院との合同FD研修会、4大学合同FD研修会も開催した。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

- ・授業評価アンケートの結果を教員間で共有し、授業改善に生かせるように検討を進める。(法学・政治学専攻)
- ・アンケート結果及び各教員によるアンケートに対する所感・意見をとりまとめて教員間で共有し、FD研修会において継続的に検討する。また、弁護士との意見交換会を開催し、授業参観をした弁護士から意見を聴取するなどする。(法務専攻)

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 教職実践研究科

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	令和5年度から「探究教育」と「共生教育」の2領域からなる新しい教育課程をスタートし、令和6年度はその完成年度にあたる。そのため、教務・FD委員会の下、全ての授業に対して「授業改善のための学生アンケート」を年間4回実施し、アンケート結果から各授業の学修成果等の分布を客観的に把握し、新教育課程の目標が首尾よく達成していることを確認した。また、令和6年度に教員養成評価機構の認証評価の受審にあたり、専門職大学院としてのFD活動の充実をはかり、以下の活動に取り組んだ:①「授業改善のための学生アンケート」をもとに、授業を学生主体となるよう改善を行った。②能登半島地震・豪雨災害における能登里山里海未来創造センター教育・人づくりWGのもとでNPO法人と連携した子どもの居場所づくりならびに学習支援を行った。③附属学校園コラボレーション推進室と連携しプロジェクトHESOに参加した。④「共生」に係る授業を中核とした公開研修会を実施した。⑤部局間協定校である米国コロラド大学コロラドスプリングス校との交流会ならびに実地研修引率を行った。⑥特別支援学校教諭専修免許の教育課程の初年度として、新設の授業及び学校実習を首尾よく実施するとともに、新しい評価基準を作成した。このような多面的・多角的なFD活動を展開することで、令和6年3月の認証評価結果では、基準(6-2)において、「教育研究上の目的を達成するため、教職大学院と学校教育学類が一体となった研究や附属学校園との協働研究が進められている。また、「令和6年能登半島地震金沢大学合同調査チームKUD」のもとで、「金沢大学復興アクションプラン」に関わり、令和6年能登半島地震からの復旧・復興に向けて、教職大学院として探究教育と共生教育にかかる研究に着手している点が評価できる。教職大学院独自のFD活動も計画的に実施されており、これらの活動は探究教育領域および共生教育領域に関連する研究を基盤に、教育の質向上を目指した取り組みとして評価できる。(一部抜粋)」と、研究科のFD活動が適切に実施されている旨の評価を受けることができた。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 学生主体の学修を重視しつつ、教務・FD委員会の下、全ての授業に対する「授業改善のための学生アンケート」を年間4回実施し、アンケート結果をもとに授業改善を継続する。令和7年度は完成年度を迎えた新教育課程をさらに充実・発展させるために、次の6点について新しい視点を取り込む:①社会に開かれた教職大学院をめざしてサービス・ラーニングの視点を取り入れ、通年型にわたるプロジェクト型の授業を推進する。②「オープン・ラボ」等の開かれた学びの機会を、通年型のプロジェクト型授業の中間に位置づける。③能登半島地震・豪雨災害からの復興のためにNPO法人との連携を推進する。④附属学校園コラボレーション推進室と連携を継続する。⑤プロジェクト型の授業を中核とした公開研修会を実施する。⑥新しい時代の教職の在り方を検討するため、研究科長裁量経費により、スクール・リーダーシップの専門家を招聘し、公開の国際セミナーを開催する。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。

	☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()
--	---

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☒ その他(年度末に院生との授業懇談会を開き、意見聴取・交流し、教員間で共有した。)
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
国際セミナー:「国際比較研究からみる学校でのリーダーシップ」	令和7年6月3日	世界中の「成功している学校の校長・リーダー」のあり方を研究する国際的共同プロジェクト創始メンバーであるChristopher Day教授(ノッティンガム大学)を招聘してセミナーを開催した。25カ国以上が参加した「学校におけるリーダーシップとマネジメント」に関する事例研究や理論について学ぶ機会となった。国際比較教育研究に関する授業の方向性を得た。	28名	
フォーラム:「被災地の子どもたちに寄り添う支援とは」開催	令和7年6月27日	東日本大震災及び能登地震における子ども支援の経験を踏まえ、災害時の子どもの権利保障と支援のあり方について議論を深め、これを通じた学びのあり方(授業内容・方法)についての示唆を得た。	34名	東北福祉大学(清水研究室)、東日本大震災子ども・若者支援センター、東洋大学福祉開発研究センターとの共催

オープンラボ2025:「子どもの未来を“つなぐ”ワークショップ	令和7年7月26日	通年授業;共生教育プロジェクトの主題に、近年、貧困・いじめ・ネグレクトなどの問題による不登校児童生徒の増加を取り上げ、この子らにとつての第三の場に焦点を当て、この場が持つ求心性とは何かを求めて、当事者による基調講演と関係者によるパネルディスカッション、これを受けて参加者によるワークショップを実施した。これにより、サービスラーニングのあり方への示唆を得た。	38名	
京都教育大学連合教職大学院との授業交流会及び、両校の教員によるカリキュラム検討会	令和7年9月1日～9月2日	当教職大学院授業「子ども社会と共生フィールドワーク」での実践活動の報告、及び、京都教育大学連合教職大学院授業「児童相談所と連携した実践活動」についての報告会と意見交流を実施した(9/1)。両大学教員によるカリキュラムと授業の比較・検討会を実施して、教育課題に即した有効な授業のあり方について意見交換した(9/2)。	35名(9/1) 8名(9/2)	
授業改善に関する院生と教員の懇談会	令和8年2月24日	1年間の授業を履修して、各授業の内容と活動、これとの関係で開講時期などについて、自由に意見交換した。これらの意見を今後のカリキュラム内容や形態、開講時期の検討に際しての材料とする。	教員3名 M1生9名	
教職大学院フォーラム2025における「共生教育プロジェクト」(サービスラーニング)の実施と成果報告	令和8年2月28日	年度末に開催している教職大学院フォーラムの全大会にて、通年授業「共生教育プロジェクト(サービスラーニング)」の取り組みと成果物、受講生の省察と所感を報告し、意見交流した。	126名	

〇照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
4	学生主体の学修を重視しつつ、教務・FD委員会の下、全ての授業に対する「授業改善のための学生アンケート」を年間4回実施し、修了者に対しては修了1年経過後の本人と所属長への学修成果評価アンケート結果を元に授業改善の努力を継続した。年度末には、院生とのカリキュラム、及び、各授業に関する懇談会を開催し、年間を通じた授業改善に関する意見聴取・意見交換会を実施した(2026/2/24)。 令和7年度は、完成を迎えた新教育課程(探究と共生をピークとした新カリキュラム;令和5年度より実施)をさらに充実・発展させるため、以下の活動を実施した。①社会に開かれた教職大学院授業としてサービス・ラーニングの視点を取り入れ、通年にわたるプロジェクト型の授業の成果について報告した(2026/2/28)。②「オープン・ラボ」等の開かれた学びの機会を、通年型のプロジェクト型授業の中間に位置づけ、③能登半島地震・豪雨災害からの復興のためにNPO法人との連携によるフォーラムを公開で開催した(6/27)。④プロジェクト型の授業を中核とした公開研修会を実施した(7/26)。⑤京都教育大学連合教職大学院の教員や学生との交流発表会(9/1)と両大学の教員によるカリキュラム検討会を実施した(9/2)。⑥新しい時代の教職の在り方を検討するため、研究科長裁量経費によりスクール・リーダースhipの専門家をノッティンガム大学より招聘して公開の国際セミナーを開催した(6/3)。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6—2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取り組みの計画について、具体的に記載してください。

教務FD会議の元、カリキュラムに関する院生との授業に関する懇談会を経て得た意見と要望、年4回実施している授業アンケート、及び、修了者と修了者の勤務先所属長による学修成果評価結果からは、概ね良好な評価を得ている。それらを元に、特に、今日的教育の課題に即しているか、授業内容の充実と効果的な授業形態、院生に過度な負担とならない授業運用に向けて検討を継続する。 特に、入学後にどれだけ院生の能力を伸長できたのかについての評価は、教育機関としての付加価値を決める観点となる。教職大学院の質の向上に向けた取り組みとして重要であり、喫緊の課題でもある。2年間の教職大学院教育の成果として、「教育実践研究の方法論」修得に焦点化した評価ルーブリックを試作・検討しているところであるが、この原案作成と修正検討を継続する。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際基幹教育院(GS教育部門)

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	GS教育系の所属教員は医薬保健, 理工, 社会科学や芸術まで全学術領域にまたがっている。その特性を活かし, アクティブ・ラーニングの手法, 成績評価方法や生成AIによる教育支援等, 学術領域を超えて共有する教育の課題を検討する活動を行なっている。令和6年度はGS教育系主催で, 4つのFD研修会を行なった。特に力を入れたテーマはAI関連であり, 「AIツールを利用した授業運営法とAIを用いた不正行為への対策」「生成AIを活用した教育支援の活用事例と実践方法」の2つを実施した。このほか「大阪大学における初年次少人数セミナー型導入科目「学問への扉」の有効性と課題」「GS教育系各委員会報告会」も行なった。外国語教育系主催のFD研修会への積極的な参加を促すことにより, 共通教育における相互理解と問題点の共有に取り組むことができた。また, 「Open Class Week」として, 外国語系と共同で, 教員間の授業参観の試みを実施した。2週間にわたり合計29名の教員が55コマの授業を公開した。これらに加え, 担当教員間での自主的なFD活動が複数回実施されており, アクティブ・ラーニングや英語授業の効果の向上等, 授業改善に向けた効果的なFD活動を行なっている。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ, 令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について, 具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下, 令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について, 令和7年度の実施状況を選択してください。なお, 一部のコース等で実施した場合は, 実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について, 該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☐ 3つのポリシーの記載内容について, 学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について, 確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について, 把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について, 分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について, 令和7年度の実施状況を選択してください。なお, 一部のコース等で実施した場合は, 実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について, 該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☐ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を, 授業方法・カリキュラムの改善のために, どのように活用しましたか。なお, 一部のコース等で実施した場合は, 実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について, 該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。

	☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(希望者による授業公開を実施した。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
新学習指導要領世代に対するGS教育一真の高大接続に向けて	令和7年5月29日	2022年度より実施の新学習指導要領世代に属する学生たちの大学教養教育における学びについて 杉山欣也教員による報告	30名	ハイブリッドで実施
～多文化共修にむけて～ 「異文化意識と境界感覚:わかり合う前に立ち上がる『違い』に目をむける」	令和7年7月4日	山本志都・東海大学文学部教授による異文化意識への取り組みについての講演	25名	ハイブリッドで実施
生成AIを駆使したレポート作成指導とピアレビューの活用	令和7年10月3日	GS授業における生成AI利用例について三橋了爾、佐藤圭両教員による報告	31名	ハイブリッドで実施
MS365 Formsと生成AIを活用した授業支援の実践	令和7年11月13日	GS授業における効果的な生成AI利用とMicrosoft Formsの使用法について、八柳祐一教員による報告	25名	ハイブリッドで実施
Open Class Quarter	令和7年10月4日-11月21日	GS教育系、外国語教育系(英語科目、初習言語科目)合計119コマの授業公開	27名	イベント登録教員37名、授業公開教員27名
学びを動かし続けるアクティブラーニングの設計: 異文化間コミュニケーションの実践から	令和7年12月11日	GS授業におけるアクティブラーニングの実践例について小林恵美子教員による報告	32名	ハイブリッドで実施

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
------------	----

3	GS教育系の所属教員は医薬保健、理工、社会科学や芸術まで全学術領域にまたがっている。その特性を活かし、アクティブ・ラーニングの手法、成績評価方法や生成AIによる教育支援等、学術領域を超えて共有する教育の課題を検討する活動を行なっている。令和7年度はGS教育系主催で、5つのFD研修会を行なった。令和6年度に引き続いてAI関連に力を入れ、成績評価の方法としてAIを導入する試みと、Microsoft Formsの授業での使用法に関するものの2つを実施した。このほか、令和8年度からの多文化共修授業に関連しての取り組み、さらに、新学習指導要領への対応に関する研修会の実施など、時流に合わせたアップデートの機会を教員に提供した。また、外国語教育系主催のFD研修会への積極的な参加を促すことにより、共通教育における相互理解と問題点の共有に取り組むことができた。また、令和6年度以来続いている教員間の授業参観の試みについて、令和7年度は「Open Class Quarter」として第3クォーターを利用して拡大実施し、計27名の教員が119コマの授業を公開した。これらに加え、担当教員間での自主的なFD活動が「ランチ会」などの形で頻繁に実施されており、アクティブ・ラーニングや英語授業の効果の向上等、授業改善に向けた効果的な活動を行なっている。
---	--

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

国際基幹教育院は、令和8年度から実施される「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」による多文化共修プログラムのコアを担う組織である。特に全学必修であるKUGS実践はその導入部分を担う。このため、効果的な英語授業の方法などについても、語学のプロである外国語系との連携を進めた積極的な取り組みを行っていききたい。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際基幹教育院(外国語教育部門)

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	授業評価アンケートなどの結果を踏まえ、より教育の質的向上を図るために計画された教育企画部(EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部・未来教育創成環境教育企画部)のFD活動は予定通り実施された。 令和6年度に新設されたPractical Englishコースでは、TOEIC準備コースの大枠(共通シラバス・共通教科書・共通試験)は継続し、クリティカル・シンキングなどの要素を取り入れた、より汎用性の高い英語能力の養成を目指した。授業内活動を増やす変更として、反転授業を促す教科書の選定、共通「帯活動」の導入、成績評価における試験成績と授業内評価の比率の変更(8対2から7対3)が挙げられる。 EAP教育企画部は教員からのフィードバックや教育研究、学生の学習観察に基づき常にそのカリキュラムを刷新してきた。批判的思考や文献に基づく文書作成やプレゼンテーションなど、大学での学びに必要な基礎的な学術スキルの養成を明確な教育目標としている点やアクティブラーニングや学生に主体性を持たせる教育方法を取って初年次教育に貢献している。 これらの実現に大きな教員負担がかかり、その負担軽減もまた課題の一つであった。そのための方策として、令和6年度には、LMSで自動採点できる小テストを導入した。運用する過程で大学の基幹的ネットワークの問題が浮上したが、現場での対応により成績評価等への影響は回避された。 学術リテラシー教育企画部は、全学的な学術リテラシー教育の推進のため2年次以上を対象とする英語学術リテラシー科目5コース20科目を開発し、令和7年度の学域共通GS言語科目への開講に向けて、令和6年度は共通教育自由履修科目としてパイロット開講した。 初習言語教育企画部では、これまでの初習言語科目の開講形態を抜本的に見直した新カリキュラムの初年度であった。年度末には学生に向けて初習言語に関するアンケートを実施した。そのアンケートの報告と新カリキュラムに関する教員の意見交換、改善策の議論の場としてFD研修会を開催した。FDでの議論を踏まえて、初習言語教育企画部で新カリキュラムの細部を検証し、『共通教育初習言語カリキュラム要覧』に反映させた。加筆修正された『要覧』は関係教員に配布された。 外国語教育系では、生成AIの台頭を踏まえたFD研修会ほか、GS教育系との共催で開催された授業見学週間Open Class Weekでは、外国語教育系所属教員全員が授業を公開し、他部局・学類との連携した講演・研修会が複数件実施されるといった活発なFD活動が展開された。これらの多様なFD活動を活かして本学の外国語教育のさらなる深化を目指す。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☐ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。

	☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取り組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(期間を設け授業を公開した。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第1回外国語教育系FD研修会 (EAP教育企画部主催)	令和7年7月25日	第1回EAPワークショップ	16名	
第2回外国語教育系FD研修会 (国際試験教育企画部主催)	令和7年9月10日・ 17日	前田広之・Ross Tulloch「英語読解問題作成セミナー: TOEIC Part 7 で学ぶ問題作成の視点と考え方」—実践編	12名	両日とも12名参加。オンライン開催。

国際基幹教育院 FD 活動 (GS 教育系・外国語教育系共催)	令和7年10月4日 11月21日	授業公開週間 Open Class Quarter	27名	イベント登録教員 37 名, 授業公開 教員 27 名, 開講授業数は延べ 119 件。
国際基幹教育院 FD 研修会／第 3 回外国 語教育系 FD 研修会	令和7年12月5日	中山裕木子講師(株式会社ユー・イングリッシュ 代表取締役)講演「英語教育と AI—上手な活用 方法を考える」	21名	オンライン開催。
国際基幹教育院 FD 研修会／第 4 回外国 語教育系 FD 研修会 (EAP 教育企画部主 催)	令和8年1月28日	Andrew Boon (東洋学園大学): Read It on the Internet, So It Must Be True: "Integrating Critical Thinking into the Language Classroom	16名	ハイブリッド開催。
第 5 回外国語教育系 FD 研修会 (EAP 教 育企画部主催)	令和8年2月2日	第 2 回 EAP ワークショップ	13名	
国際基幹教育院 FD 研修会／第 6 回外国 語教育系 FD 研修会	令和8年2月13日	阿部幸大 (筑波大学)「海外ジャーナルに挑戦 するために」	16名	ハイブリッド。教員16名に加え学 生10名参加。
第 7 回外国語教育系 FD 研修会 (初習言語 教育企画部主催)	令和8年2月16日	趙秀敏 (東北大学) 教育 DX に向けた東北大学初 修中国語ブレンディッドラーニングの取り組み—オ ンデマンド動画とスマホアプリによるオンライン授 業の導入と教育効果	23名	オンライン開催
国際基幹教育院 FD 研修会・シンポジウム 「AI 時代の情報メディア・リテラシー」(未来創 成教育環主催・国際基幹教育院共催)	令和8年3月25日	「初等教育におけるメディア・リテラシー」 佐藤和紀先生 (信州大学教育学部准教授) 「高等学校における DX:AI を利用した英語教育」 河内聡一郎先生 (金沢二水高等学校校長) 「大学教育における情報リテラシーと学生の AI 使 用」森祥寛先生 (金沢大学学術メディア創成センタ ー助教)	58名	オンライン開催

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	授業評価アンケートの結果や、各教育企画部における会議での議論・検討内容等を踏まえ、より一層の教育の質的向上を図ることを目的として計画された教育企画部の FD 活動が、予定通り実施された。具体的には、EAP 教育企画部、国際試験教育企画部、初習言語教育企画部、未来教育創成環教育企画部がそれぞれの教育課題や到達目標に応じた研修会、意見交換会、公開授業等を企画・実施し、教員間で教育実践や課題意識を共有する機会を設けた。これらの FD 活動では、授業改善に資する具体的な方法や、学生の学修成果を高めるための評価方法、さらに多様な学習者のニーズに対応した授業設計について検討が行われた。またアクティブラーニングの導入・充実、学生が主体的に考え、協働しながら学ぶことのできる学習環境の整備、ならびに生成 AI 時代に対応した教育内容・教育方法の開発についても議論が深められた。上記の多様な研修会および公開授業を通して、本学における外国語教育のさらなる深化と改善を目指すとともに、各教育企画部が相互に連携しながら、教育実践の質を継続的に高める取り組みを進めている。今後も、授業評価アンケート等から得られる学生の声や、教員間の実践的な知見を活用しながら、時代の変化に対応したカリキュラムの設計・開発に取り組み、学生の主体的・自律的な学びを支援する教育体制の充実を図っていく。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6—2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 学術メディア創成センター

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	データサイエンス基礎の本センターが担当している部分について、令和6年度担当内容についてメールやslack等を用いてお互いの授業について情報共有し即座に授業改善に役立てられたこと、令和7年度に向けて本センター教員全員で講習ができたことから、概ね評価できる。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☐ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☐ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☐ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☐ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☐ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。

	☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
--	---

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☐ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
データサイエンス基礎 授業実施説明会	令和8年3月19日	次年度データサイエンス基礎の授業実施に向けた研修会	7名	
学内シンポジウム:学術メディア創成センターによるソーシャルインパクト創出事業の取り組み	令和8年3月5日	ソーシャルインパクト創出事業の取り組みの一環として、多文化共修を目的とした授業実践例	50名	金沢大学FD委員会共催

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	データサイエンス基礎の授業のなかで、本センターが担当している部分について、研修会を実施し授業内容の確認、共通化を図った。メールやslack等で授業状況を共有することで、他の教員が即座に改善点を反映できる体制も整っている。その他、年度初めの全学FD研修会-新任教員説明会では講師を担い、ソーシャルインパクト事業に関連したシンポジウム(金沢大学FD委員会共催)内では多文化共修を念頭に置いた授業に関する講演を行った。毎月行っている教育DXサロンでは生成AI活用や高校の授業「情報」に関する知見共有など、学外を含めた教員のFD活動に貢献しており、概ね評価できる。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取り組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際日本研究教育センター

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	国際日本研究センターは、留学生や日本人学生のための質の高い教育や生活・学習サポートを提供するだけでなく、派遣・受入プログラムの運営、新しいプログラムの開発が求められている。特に令和6年度後半には、ソーシャルインパクト事業に採択されことにより、事業の核となる「国際共修」を推進すべく、令和7年度の取組に向けたFD活動として、各担当分野の教員が経験を基に活発な意見交換を重ねた。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☐ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。(総合日本語プログラム) ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。(総合日本語プログラム) ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。(総合日本語プログラム) ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
-----------------------	--

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(授業記録の活用(総合日本語プログラム))

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。(総合日本語プログラム) ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(評価の妥当性について、各科目で検証した(総合日本語プログラム))

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
多文化共修科目についてのFD	令和8年2月13日	新規開講科目「多文化共修」を担当するセンター所属教員全員が参加し、多文化共修(国際共修)についての定義や授業の進め方、および教育ツールの活用についての理解を確認した。	9名	自らが担当する科目についての学習到達目標と評価方法について考える機会を得た。その成果はシラバスにも反映されている。
国立大学における交換留学生受け入れに関する情報交換会	令和8年3月4日	千葉大学と金沢大学の留学生受け入れ実務担当者(教員2名および事務職員4名)が出席し、それぞれの大学における留学生受け入れの状況と課題について報告した後、今後の受け入れ体勢と教育について意見交換を行った。 *千葉大学国際教育センターからの依頼により実施 本情報交換会の詳細および資料についてはセンター内教員に共有し、意見交換を行った。	6名	ほぼ同規模の留学生受け入れを行っている大学同士の情報共有ができた。千葉大学の担当者からは、来年度以降もさらに課題を絞り込むなどして再度実施したい旨、連絡があった。

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	国際日本研究教育センターは、留学生や日本人学生のための質の高い教育や生活・学習サポートを提供するだけでなく、派遣・受入プログラムの運営、新しいプログラムの開発が求められている。令和7年度には、ソーシャルインパクト事業における「国際共修」推進の一環として、令和8年度開講予定の多文化共修科目(オムニバス形式)の担当教員全員によるFD研修会を実施した。シラバス・評価方法の確認および効果的な授業運営に関する活発な意見交換を通じて、教員間の連携を深め、組織的な教育改善に向けた基盤を整えることができた。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケートの集計結果をセンター内で共有・分析するなどし、科目担当者間での改善策の検討につなげる。令和7年度に実施した多文化共修科目FD研修会の成果を活かし、令和8年度開講の多文化共修科目において、シラバスや評価基準の一層の明確化・統一化を図る。留学生・日本人学生双方の学修成果を把握・分析するための評価方法を検討するとともに、担当教員間の定期的な情報共有の場を設け、継続的な授業改善と教員の教育能力向上に取り組む。

3 各部局等の BSD 活動

令和7年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部学務課

参考資料: 令和6年度に提出された自己評価及び令和7年度の改善に向けての取組み予定		
自己評価	令和6年度の自己評価	令和7年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和7年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和7年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 10回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和7年度第1回全学FD研修会	新任教員説明会<教育・学生編>	4月4日	2名	主催, 全体59名
令和7年度第2回全学FD研修会	大学院における分野横断型教育の意義と価値～ラボ・ローテーションを中心に考える～	7月16日	14名	主催, 全体58名
令和7年度第3回全学FD研修会	学士課程の共通教育に求められるコンセプトと設計～金沢大学共通教育改革を中心に～	10月21日	6名	主催, 全体130名
令和7年度第4回全学FD研修会	「FD活動報告書成果発表会」ー学類等における組織的FDの取組事例ー	12月5日	5名	主催, 全体41名
数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 北信越ブロック 第6回シンポジウム	数理・データサイエンス・AI教育に係る高大接続の取組み紹介	8月29日	4名	主催, 全体89名
数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 北信越ブロック 第7回シンポジウム	北陸観光DXIによるMDASH教育の深化	1月26日	4名	主催, 全体102名
大学コンソーシアム石川 令和7年度 第1回FD/SD研修	能登復興支援に関わる研究成果の社会実装	7月22日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和7年度 第2回FD/SD研修	学生と向き合うために、まず自分を整える: 大学教育に活かす漢方の実践	8月25日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和7年度 第3回FD/SD研修	学士課程の共通教育に求められるコンセプトと設計～金沢大学共通教育改革を中心に～	10月21日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和7年度 第4回FD/SD研修	大学に進学するヤングケアラーへの支援のあり方	11月6日	1名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和7年度BSD活動の自己評価及び総評並びに令和8年度の改善取組み予定

貴課での令和7年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組み予定を記載してください。

令和7年度の自己評価	総評	令和8年度の改善取組み予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。

3	本学主催のFD研修会やセミナー、及び外部機関が主催する研修会に参加し、教員のFD活動の支援並びに学生の学修環境の充実とともに、理解を深めた。	
---	---	--

【令和7年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

※BSDの定義

「**BSD** (バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2の3抜粋)

令和7年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部基幹教育支援課

参考資料: 令和6年度に提出された自己評価及び令和7年度の改善に向けての取組み予定		
自己評価	令和6年度の自己評価	令和7年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評	3	令和7年度も引き続き実施・参加する。

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和7年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和7年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和7年度前期 学生相談担当者研修会	なんでも相談室の基本方針, ハラスメント防止ハラスメント相談への対応, 相談をうけるときの基本的な態度, 共通教育のカリキュラムや履修登録の方法等の説明をオンデマンドで実施した。	オンデマ ンド	4名	主催(全体参加者数14名)

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

国際基幹教育院主催FD研修会に毎回1～5名程度が参加している。

○照会事項3 令和7年度BSD活動の自己評価及び総評並びに令和8年度の改善取組み予定

貴課での令和7年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組み予定を記載してください。

令和7年度の自己評価	総評	令和8年度の改善取組み予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	「学生相談担当者研修会」は、毎年相談員となるメンバーが変わるため、継続した開催が必要と思われる。	令和8年度も引き続き実施・参加する。

【令和7年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2の3抜粋)

令和7年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部学生支援課

参考資料: 令和6年度に提出された自己評価及び令和7年度の改善に向けての取組み予定		
自己評価	令和6年度の自己評価	令和7年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評	3	教職員のニーズを反映した講師・内容で、自死防止に関する研修会を継続して開催する。

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和7年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和7年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
学生・教職員の自死防止のための研修会	大学における自殺予防と支援ー臨床と災害支援の現場から	12月18日	4名	学生自死防止専門委員会主催、全学FD委員会共催、全体60名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

保健管理センターや障がい学生支援室、就職相談窓口の有機的な連携に事務職員も貢献し、対応状況を共有することでBSDにつなげている。

○照会事項3 令和7年度BSD活動の自己評価及び総評並びに令和8年度の改善取組み予定

貴課での令和7年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組み予定を記載してください。

令和7年度の自己評価	総評	令和8年度の改善取組み予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	令和6年能登半島地震、令和7年の集中豪雨発災後、災害後のメンタルヘルスの問題をテーマとして研修会を開催し、具体的なデータをもとに集団の健康課題への考え方を学び、学生支援の強化につながった。また、平素から複数窓口の連携が必要な問題のある学生に関し、事務職員も積極的に関与することがOJTに結びついている。	教職員のニーズを反映した講師・内容で、自死防止に関する研修会を継続して開催する。

【令和7年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2の3抜粋)

令和7年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部キャリア支援課

参考資料: 令和6年度に提出された自己評価及び令和7年度の改善に向けての取組み予定		
自己評価	令和6年度の自己評価	令和7年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和7年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和7年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 4 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
国立大学キャリア支援担当者情報交換会	各国立大学のキャリア支援担当者とのキャリア支援等に関する情報交換	8月22日	3名	大阪大学主催
筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター「障害者高等教育拠点」事業 第16回FD/SD研修会「視覚障害学生の就職と就活支援」	視覚障害学生の就職, キャリア支援	8月27日	1名	筑波技術大学主催
学生・教職員向け説明会～就労支援の選択肢を知る～	就労支援に関する社会資源, 具体的な就労支援内容や事例	8月29日	3名	ヴィストキャリア主催
大学等と企業との就職に関する情報交換会	大学と企業との就職支援に関する取組, 就職状況等に関するディスカッション	10月20日	2名	金沢市主催

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和7年度BSD活動の自己評価及び総評並びに令和8年度の改善取組み予定

貴課での令和7年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組み予定を記載してください。

令和7年度の自己評価	総評	令和8年度の改善取組み予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	各機関で実施している研修や情報交換会への参加を通して、職員の知識向上やスキルアップに努めている。また、研修等で得た情報については、課内で情報共有している。	

【令和7年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2の3抜粋)

令和7年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部入試課

参考資料: 令和6年度に提出された自己評価及び令和7年度の改善に向けての取組み予定		
自己評価	令和6年度の自己評価	令和7年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和7年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和7年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和8年度入学選抜試験(一般選抜)合格者判定資料等に関する説明会	主体性評価方法及び合格者判定資料等についての説明をオンデマンドで実施	1月20日～ 1月30日	6名	主催, 全体93名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

令和8年度入学選抜試験(一般選抜)事務担当者打ち合わせ会及び案内業務説明会を、令和6年度に引き続きオンデマンド形式で実施し、繁忙期においても担当者がいつでも繰り返し内容を確認可能とした。

○照会事項3 令和7年度BSD活動の自己評価及び総評並びに令和8年度の改善取組み予定

貴課での令和7年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組み予定を記載してください。

令和7年度の自己評価	総評	令和8年度の改善取組み予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	オンデマンドによる説明会のため、開催期間中、各自のペースで繰り返し視聴することが可能であり、令和8年度入学選抜試験を無事に実施することができた。	

【令和7年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2の3抜粋)

令和7年度BSD活動報告(様式)

課名 融合系事務部学生課

参考資料: 令和6年度に提出された自己評価及び令和7年度の改善に向けての取組み予定		
自己評価	令和6年度の自己評価	令和7年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評	3	引き続き、融合学域FD研修会、融合学域教員研究シーズ紹介、各学類ワークショップ、及び新学術創成研究科FD研修会等に参加する。 教員との貴重な情報共有の場であるため、事務職員の参加人数を増やす。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和7年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和7年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 22 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数 (概数)	備考
第25回融合学域FD研修会	「GPS-Academic(問題解決力測定テスト)の概要説明、前年度結果報告など」	令和7年7月31日	4名	全体25名
第26回融合学域FD研修会	「研究者倫理について」	令和7年9月4日	7名	全体47名
融合系の将来検討会	融合とは何か?融合学域設置の経緯、各教員の考え等について意見交換	令和7年5月22日	7名	全体40名
産学連携、研究推進に関する制度説明	共同研究制度改正等	令和7年6月12日	6名	全体50名
ハラスメント研修会	「ハラスメントの防止ーハラスメントのない大学を目指してー」	令和7年12月11日	6名	全体44名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介	令和8年1月8日	6名	全体55名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介	令和8年2月12日	6名	全体55名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介	令和8年3月12日	6名	全体49名
先導学類懇談会	教育課程、学生指導等について意見交換	令和7年8月29日	7名	全体20名
先導学類懇談会	教育課程、学生指導等について意見交換	令和7年10月15日	7名	全体19名
先導学類懇談会	教育課程、学生指導等について意見交換	令和7年10月31日	7名	全体19名
先導学類懇談会	教育課程、学生指導等について意見交換	令和7年11月19日	7名	全体20名
先導学類懇談会	教育課程、学生指導等について意見交換	令和8年1月13日	7名	全体21名
観光デザイン学類懇談会	教育課程、学生指導等について意見交換	令和7年4月18日	7名	全体18名
観光デザイン学類懇談会	教育課程、学生指導等について意見交換	令和7年7月23日	7名	全体21名
観光デザイン学類懇談会	教育課程、学生指導等について意見交換	令和7年9月8日	7名	全体20名
観光デザイン学類懇談会	教育課程、学生指導等について意見交換	令和7年10月22日	7名	全体22名
観光デザイン学類懇談会	教育課程、学生指導等について意見交換	令和7年12月22日	7名	全体21名
スマート創成科学類懇談会	教育課程、学生指導等について意見交換	令和7年6月30日	7名	全体22名

スマート創成科学類懇談会	教育課程、学生指導等について意見交換	令和7年10月23日	7名	全体19名
新学術創成研究科 融合科学共同専攻FD研修会	融合人材の育成について (JAISTと合同実施)	令和7年12月12日	1名	全体9名 他JAIST教員
新学術創成研究科 ナノ生命科学専攻FD研修会	教員のためのリスクマネジメント～ハラスメント の加害者とならないために～	令和8年3月13日	2名	全体12名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会（FD研修会を除く）の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和7年度BSD活動の自己評価及び総評並びに令和8年度の改善取組み予定

貴課での令和7年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組み予定を記載してください。

令和7年度の自己評価	総評	令和8年度の改善取組み予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	融合学域FD研修会、融合学域教員研究シーズ紹介、及び学類ワークショップに参加し、教員との情報共有を行った。 新学術創成研究科各専攻のFD研修会に参加し、JAIST教員も含めて、教員の研究内容や、各専攻における課題の共有を図ることができた。	引き続き、融合学域FD研修会、融合学域教員研究シーズ紹介、各学類ワークショップ、及び新学術創成研究科FD研修会等に参加する。 教員との貴重な情報共有の場であるため、事務職員の参加人数を増やす。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「**BSD**（バックアップ・スタッフ・ディベロップメント）」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。（「金沢大学におけるFD活動指針」第2の3抜粋）

令和7年度BSD活動報告(様式)

課名 人間社会系事務部学生課

参考資料: 令和6年度に提出された自己評価及び令和7年度の改善に向けての取組み予定		
自己評価	令和6年度の自己評価	令和7年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和7年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について, 令和7年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 3 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
障がいのある学生の合理的配慮に関する研修会	障がい学生支援について	4月28日	6名	
学生の自死防止のための研修会	大学における自殺予防と支援	12月18日	10名	
人間社会学域FD研修会	教員のためのリスクマネジメント ～ハラスメントの加害者にならないため に～	2月3日	3名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和7年度BSD活動の自己評価及び総評並びに令和8年度の改善取組み予定

貴課での令和7年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組み予定を記載してください。

令和7年度の自己評価	総評	令和8年度の改善取組み予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	課独自に研修を行うことは負担が大きいことから難しいものの、業務効率化及び学生系に関わるテーマの研修会を活用し、BSD活動を行うことが出来た。	

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2の3抜粋)

令和7年度BSD活動報告(様式)

課名 理工系事務部学生課

参考資料: 令和6年度に提出された自己評価及び令和7年度の改善に向けての取組み予定		
自己評価	令和6年度の自己評価	令和7年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和7年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和7年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 2 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
自然科学研究科 博士人材育成に係るFD研修	博士人材の獲得・育成	11月19日	5名	主催, 全体68名
理工学域・自然科学研究科 第17回FDシンポジウム	理工系PBL科目の実践とPBLを軸としたカリキュラム設計	3月11日	3名	主催, 全体75名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和7年度BSD活動の自己評価及び総評並びに令和8年度の改善取組み予定

貴課での令和7年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組み予定を記載してください。

令和7年度の自己評価	総評	令和8年度の改善取組み予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	FDシンポジウムでは、事前に教員からの質問を集めることで、東京都市大学でのPBL科目の実践例や授業設計例を実際の授業でどのように活用するかという具体的な内容を共有することができ、教員のFD活動を支援できた。また、博士人材育成に特化したFDにおいても、各専攻での具体的な事例を紹介するかたちとしたことで、実務に直結した研修とすることができた。	

【令和7年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2の3抜粋)

令和7年度BSD活動報告(様式)

課名 医薬保健系事務部学生課

参考資料: 令和6年度に提出された自己評価及び令和7年度の改善に向けての取組み予定		
自己評価	令和6年度の自己評価	令和7年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評	4	

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和7年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和7年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 7 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
第1回医学系FD「金沢大学医学類の使命」	金沢大学医学類の使命	オンデマンド	3名	
第2回医学系FD「医学類カリキュラムについて」	医学類カリキュラムについて	5月14日	3名	
第3回医学FD研修会「隠岐での実践, 総合診療医養成～ゲームチェンジャ～となるために～」	隠岐での実践, 総合診療医養成	6月6日	3名	
第4回医学FD研修会「Post-CC OSCEにおけるIRT導入～課題数削減と評価者の列間・課題間移動～」	Post-CC OSCEにおけるIRT導入	7月14日	3名	
第5回医学FD研修会「ハラスメントの防止に向けて」	ハラスメント防止に関する講習	9月12日	3名	
第6回医学FD研修会「チーム医療マインドの醸成に向けた多職種連携教育の展開」	多職種連携教育の実践	11月28日	3名	
学生の自死防止のための研修会(金沢大学学生自死防止専門委員会)	大学における自殺予防と支援ー臨床と災害支援の現場から	12月18日	3名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和7年度BSD活動の自己評価及び総評並びに令和8年度の改善取組み予定

貴課での令和7年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組み予定を記載してください。

令和7年度の自己評価	総評	令和8年度の改善取組み予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
4	令和5年度より設置の医療人材教育研究センターによるFD研修会と合同で医学系FD研修会を実施しており、事務職員が参加しやすい環境が整っている。	

【令和7年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学

におけるFD活動指針」第2の3抜粋)

令和7年度BSD活動報告(様式)

課名 医薬保健系事務部薬学・がん研支援課

参考資料: 令和6年度に提出された自己評価及び令和7年度の改善に向けての取組み予定		
自己評価	令和6年度の自己評価	令和7年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和7年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和7年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備 考
薬学4年制課程卒業生の薬剤師国家試験受験資格認定に関する勉強会	薬学4年制課程の卒業生が薬剤師国家試験受験資格を取得できる制度について、制度の概要や手続きに必要な知識の勉強会を行った。	9月25日	2名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和7年度BSD活動の自己評価及び総評並びに令和8年度の改善取組み予定

貴課での令和7年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組み予定を記載してください。

令和7年度の自己評価	総評	令和8年度の改善取組み予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	「研修」という形式にまでは至らないものの、日常業務のOJTによる教務システムや教員が利用するWebClassの使い方などの知識向上やスキルアップに努めている。また、専門部署や関係教員等にアドバイスを求め、その内容等の情報共有を課内で密に行っている。	

【令和7年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2の3抜粋)

令和7年度BSD活動報告(様式)

課名 医薬保健系事務部保健学支援課

参考資料: 令和6年度に提出された自己評価及び令和7年度の改善に向けての取組み予定		
自己評価	令和6年度の自己評価	令和7年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和7年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和7年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 3 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和7年度第1回保健学系FD研修会	障害者との接し方 ー障害者スポーツ指導の経験からー	令和7年8月6日(水)	3名	全体43名
令和7年度第2回保健学系FD研修会	ハラスメントの防止 ーハラスメントのない職場を目指してー	令和7年10月1日(水)	7名	全体71名
令和7年度第3回保健学系FD研修会	「生成AIの講義利用」について	令和7年12月3日(水)	4名	全体49名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和7年度BSD活動の自己評価及び総評並びに令和8年度の改善取組み予定

貴課での令和7年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組み予定を記載してください。

令和7年度の自己評価	総評	令和8年度の改善取組み予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	現在の学生の思考や行動、障害者ケア・こころの健康のサポート、ハラスメント防止、生成AIをテーマとした教員向けのFD研修会への参加を通じて、学生への支援のあり方について理解を深めることができた。	

【令和7年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2の3抜粋)

令和7年度BSD活動報告(様式)

課名 国際部留学企画課

参考資料: 令和6年度に提出された自己評価及び令和7年度の改善に向けての取組み予定		
自己評価	令和6年度の自己評価	令和7年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和7年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和7年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 5 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
入国管理行政・申請取次制度講習会	入国管理局業務の最新情勢と申請取次制度	7月18日	3名	主催, 全体62名
留学生受入れ事例セミナー	亜細亜大学ならではの留学生サポート体制、奨学金制度、受入後に発生する課題と解決方法など	8月5日	1名	Mediment主催
金沢大学教学マネジメントセンター R7年度第1回FD/SDラウンジ	Excelと生成AIを活用したデータ集計・可視化の方法を学ぶ	12月23日	1名	金沢大学教学マネジメントセンター主催
LGBTQ+対応研修	トランスジェンダーが抱える困難と人権	1月30日	3名	金沢大学ダイバーシティ推進機構
2025年度金沢大学 学生海外派遣プログラム担当・現地引率教職員等向け海外危機管理セミナー	学生海外派遣プログラム引率者が知っておくべき危機管理情報、事例	オンデマンド	1名	主催(コース管理者)

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和7年度BSD活動の自己評価及び総評並びに令和8年度の改善取組み予定

貴課での令和7年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組み予定を記載してください。

令和7年度の自己評価	総評	令和8年度の改善取組み予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	留学生の受入及び学生派遣に係る事例、生成AI、LGBTQなど多岐分野に渡る研修を受講することによって、幅広い知識を身に着けることができ、実際の業務に活かすこともできた。	

【令和7年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

※BSDの定義

「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。(「金沢大学におけるFD活動指針」第2の3抜粋)

3-1 照会事項 1 BSD 研修会の実施状況

(参考)

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
	令和7年度金沢大学初任者研修	事務・技術系の初任職員に対して、本学の基本的事項について講義、見学体験等の多様なプログラムを提供し、「金沢大学職員」としての基礎的な能力を身につけさせることにより、今後の大学事務執行の円滑化を図る。	17名	金沢大学
	令和7年度金沢大学初任者研修 (フォローアップ研修)	本研修は、以下の事項を目的として実施する。 ・主に本学の未来ビジョンを理解し、大学が直面する課題や将来の方向性について洞察を得ることで、本学職員として広い視野を養う。 ・自身の業務経験を振り返り、成長を自覚し、モチベーションを持続・向上させる。 ・先輩職員との交流を通じて仕事への不安や悩みを軽減し、中長期的なキャリア形成を考える機会とする。	14名	金沢大学
	令和7年度人事評価研修(評価者研修)	人事評価制度を有効に活用することにより、本学職員の能力開発、意欲向上に寄与するため、対象者に本制度の意義や適切な目標設定等について理解させるとともに、評価者に共通の尺度や評価眼を養成し、公正・公平な評価を行うためのスキルとフィードバックのためのスキルを習得させることを目的とする。	46名(オンライン)	金沢大学
	令和7年度部内研修「AI開発入門研修」	「Pythonとは何か」という初歩的な内容から、Pythonで機械学習を行うまでの流れを学ぶ。沢山の演習問題を通して、機械学習をどのように活用するのかの理解を深める。	17名	金沢大学
	令和7年度北陸地区国立大学法人等初任者研修	新たに採用された事務系・技術系職員に対し、国立大学法人等事務に関する基礎的知識を修得させ、事務能力の増進を図ることを目的とする。	17名	金沢大学
	令和7年度北陸地区国立大学法人等マネジメント研修	国立大学法人を取り巻く環境が大きく変化する中、大学の事務組織には、変化に即応し、課題を解決する能力が求められる。そのためには、管理職が組織の力を最大限に活用することが必要であることから、それらを実現するための、マネジメント能力の向上を図ることを目的とする。	13名	金沢大学
	令和7年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修	北陸地区国立大学法人等の中堅職員に対し、役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより、職務遂行能力の増進を図ることを目的とする。	12名	富山大学

3-1 照会事項 1 BSD 研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
	令和7年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修	北陸地区国立大学法人等の係長・専門職員としての心構え及び職務遂行に必要な基本的、一般的知識を修得させるとともに、係長・専門職員としての能力及び識見を確立させ、国立大学法人等の管理運営の重要な担い手としての資質向上を図ることを目的とする。	20名	’北陸先端科学技術大学院大学
	令和7年度北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修	北陸地区の国立大学法人、独立行政法人国立高等専門学校機構及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の機関（以下「国立大学法人等機関」という。）の管理職員に対し、立場と役割を認識し、能力及び識見を確立させ、職員としての資質向上を図ることを目的とする。	8名	福井大学
	第21・22回中部地区メンター養成研修	職場におけるメンター、メンタリングに関する基本的な知識とコミュニケーション・スキルを習得させる。	5名	人事院中部事務局
	第14回国立六大学事務職員研修会	本研修会は、千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学の国立六大学の事務職員が、国立六大学連携コンソーシアムの趣旨を踏まえ、その具体的な連携・協力の推進や、大学間の垣根を越えた職員同士のネットワークの構築などを目的として実施するものである。	4名	新潟大学
	石川県研修「行政クレーム対応研修」	行政クレームへの対処方法を学ぶとともに、円滑な県民応対に資するコミュニケーション能力の向上を図る。	4名	石川県自治研修センター
	石川県「コーチングスキル研修」	部下や後輩の育成にあたり、主体的に行動することができる職員を育成するためのコミュニケーション方法をはじめとしたコーチングのスキルについて習得する。	6名	石川県自治研修センター
	令和7年度東海・北陸地区国立大学法人等人事担当者（係長級以下）研修	この研修は、東海・北陸地区の国立大学法人、大学共同利用機関法人、独立行政法人国立高等専門学校機構及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の機関 以下「国立大学法人等機関」という。）の人事担当者 係長級以下）に対し、役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより、法人職員の資質の向上と職務遂行能力の増進を図ることを目的とする。	2名	名古屋工業大学
	令和7年度東海・北陸地区国立大学法人等会計事務職員研修会	東海・北陸地区国立大学法人等の事務職員に対して、国立大学法人会計基準等に関する知識を習得させ、かつ、国立大学法人等職員として必要となる見識を研修することにより、各職員の資質の向上を図ることを目的とする。	4名	愛知教育大学

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
	令和7年度国立大学法人等施設 担当職員研修会(初任クラス)	国立大学法人等の施設担当職員として自己の能力を十分に発揮できるよう、国立大学法人等の現況や動向などの概論について理解させるとともに、国立大学法人等の施設整備に係る多様な業務について、初任職員として必要な基礎的知識を習得させる。また、グループごとに課題テーマに対して全員で討議を行い、メンバーの相互コミュニケーションを通じてテーマに対する理解を深め、今後、業務に生かすことのできる人的ネットワークの構築を図る。	2名	国立大学協会
	令和7年度国立大学法人等施設 担当職員研修会(中堅クラス)	国立大学法人等の施設担当職員のうち、中堅職員を対象として、施設整備を巡る現状と課題についてその知識を深めるとともに、人的ネットワークを構築・活用し、将来の大学経営を担う人材育成することを目的として、施設担当者職員研修を実施する。	4名	国立大学法人 等施設担当部 課長会 一般社団法人 国立大学協会 東京地区支部 及び関東・甲信 越地区支部

4 資料編

4-1 令和7年度授業評価アンケート

4-1 令和7年度授業評価アンケート

4-1-1 令和7年度授業評価アンケート回答率

令和7年度授業評価アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。令和4年度から導入した新システムによる授業評価アンケート実施が4年目を迎え、各部署の授業評価アンケート回答率が大幅に改善された。今後も、この傾向を維持する必要がある。

令和7年度授業評価アンケート回答率概要

部局名	回答率	(参考) 令和6年度回答率
【学士課程】		
共通教育	98.7%	93.0%
融合学域	97.9%	91.7%
人間社会学域	97.6%	88.4%
理工学域	97.4%	63.6%
医薬保健学域	92.2%	61.1%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	78.2%	71.8%
自然科学研究科	90.8%	31.9%
医薬保健学総合研究科	90.8%	83.0%
新学術創成研究科	89.7%	89.8%
法学研究科	94.3%	—
【博士後期課程】		
人間社会環境研究科	79.3%	70.4%
医薬保健学総合研究科	93.3%	58.1%
新学術創成研究科	1000.0%	81.3%
【博士課程】		
医薬保健学総合研究科	8.6%	11.4%
先進予防医学研究科	58.8%	25.0%
【専門職学位課程】		
法学研究科	67.9%	63.9%
教職実践研究科	100.0%	100.0%

4－1 令和7年度授業評価アンケート

4－1－2 共通教育科目 GS 科目 1～6 群の回答結果比較

令和3年度から共通教育科目 GS 科目に新たに6群が加わり、1群から6群における共通設問「①授業内容の適切性」「②担当教員の説明の仕方」「③授業外学修時間」「④授業理解度」「⑤学修目標達成度」「⑥授業満足度」の6項目について比較を行った。「①授業内容の適切性」「⑤学修目標達成度」については2群及び5群の科目、「②担当教員の説明の仕方」「④授業理解度」については5群の科目、「③授業外学習時間」については4群の科目、「⑥授業満足度」については2群の科目が、他群に比べ、平均スコアが高い。

令和7年度		回答数	回答率	①授業内容の適切性 (－50～50の101段階の スコア平均)	②担当教員の説明の仕方 (－50～50の101段階の スコア平均)	③授業外学修時間 (－50～50の101段階の スコア平均)	④授業理解度 (－50～50の101段階の スコア平均)	⑤学修目標達成度 (－50～50の101段階の スコア平均)	⑥授業満足度 (－50～50の101段階の スコア平均)
共通教育科目 GS科目	1群	4,305	98.6%	29.1	25.3	3.5	23.4	23.9	24.4
	2群	7,121	98.4%	33.9	31.8	3.1	30.1	29.9	31.8
	3群	5,052	98.4%	32.5	29.6	2.8	28.2	28.4	30.1
	4群	5,581	98.0%	31.1	29.7	3.6	28.1	27.7	28.8
	5群	5,483	98.6%	33.9	31.9	3.5	30.7	29.9	30.8
	6群	6,998	98.2%	31.1	27.2	2.8	25.9	26.0	26.8

4-2 令和7年度卒業・修了者アンケート

4-2-1 令和7年度卒業・修了者アンケート回答率

令和7年度卒業・修了者アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。学士課程、大学院課程ともに、回答率が改善された部局が相当数見られるが、引き続き、継続的な改善充実が求められる。

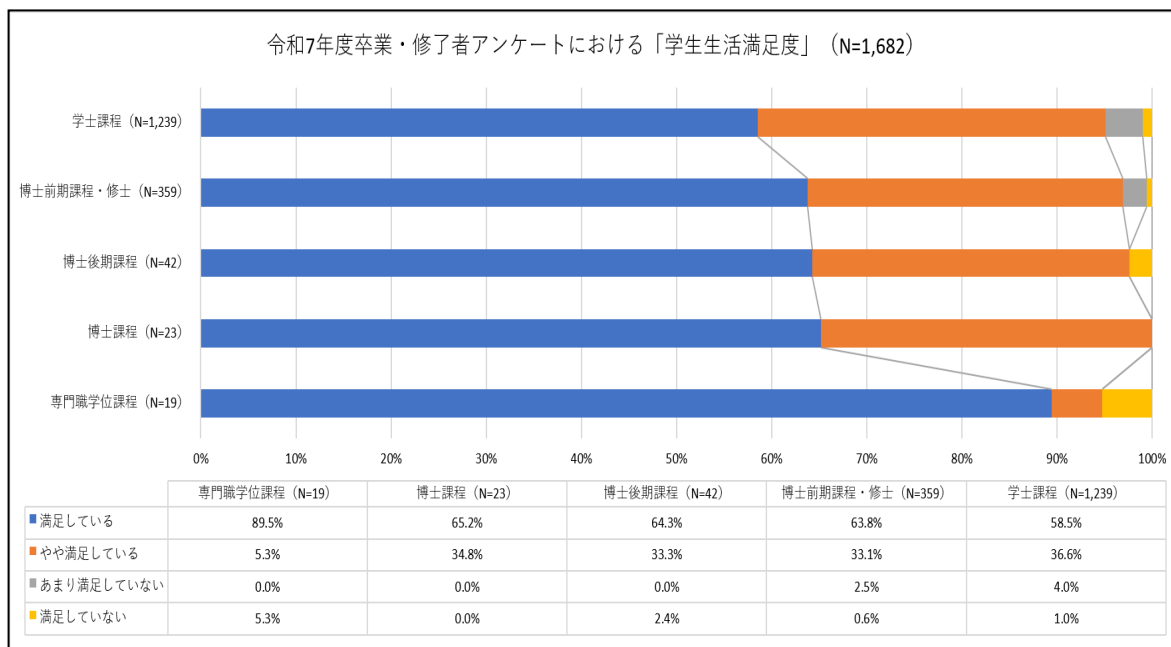
令和7年度卒業・修了者アンケート回答率概要

部局名	回答率	(参考)令和6年度回答率
【学士課程】		
融合学域	85.5%	86.0%
人間社会学域	75.2%	72.2%
理工学域	76.5%	55.1%
医薬保健学域	60.6%	61.4%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	68.6%	54.3%
自然科学研究科	63.5%	43.1%
医薬保健学総合研究科	47.1%	55.1%
新学術創成研究科	62.5%	68.8%
法学研究科	100.0%	100.0%
【博士後期課程】		
人間社会環境研究科	81.8%	0.0%
自然科学研究科	50.0%	25.8%
医薬保健学総合研究科	58.3%	82.8%
新学術創成研究科	100.0%	66.7%
【博士課程】		
医薬保健学総合研究科	59.4%	75.0%
先進予防医学研究科	66.7%	66.7%
【専門職学位課程】		
法学研究科	75.0%	90.9%
教職実践研究科	100.0%	100.0%

4-2 令和7年度卒業・修了者アンケート

4-2-2 令和7年度卒業・修了者アンケート結果による「学生生活満足度」

令和3年度から全学共通で4件法で設問している「学生生活満足度」の回答結果について、前年度同様、どの教育課程においても、満足度が概ね高い結果となっている。



4-3 令和7年度卒業・修了後アンケート

4-3 令和7年度卒業・修了後アンケート

4-3-1 令和7年度卒業・修了後アンケート回答者内訳

令和7年度卒業・修了後アンケートについて、前年度同様に、金沢大学IDを活用して実施した。「金沢大学における教育の内部質保証に関する指針」（令和6年2月9日、令和5年度第12回教育企画会議決定）に基づき、卒業・修了後3年の者を対象に毎年度実施している。今回は、令和4年度に卒業・修了した2,527名を対象に当該アンケートを実施した。令和8年3月12日～5月22日の回答期間において111件の有効回答（回答率4.4%）であった。その回答者内訳は下表のとおりである。

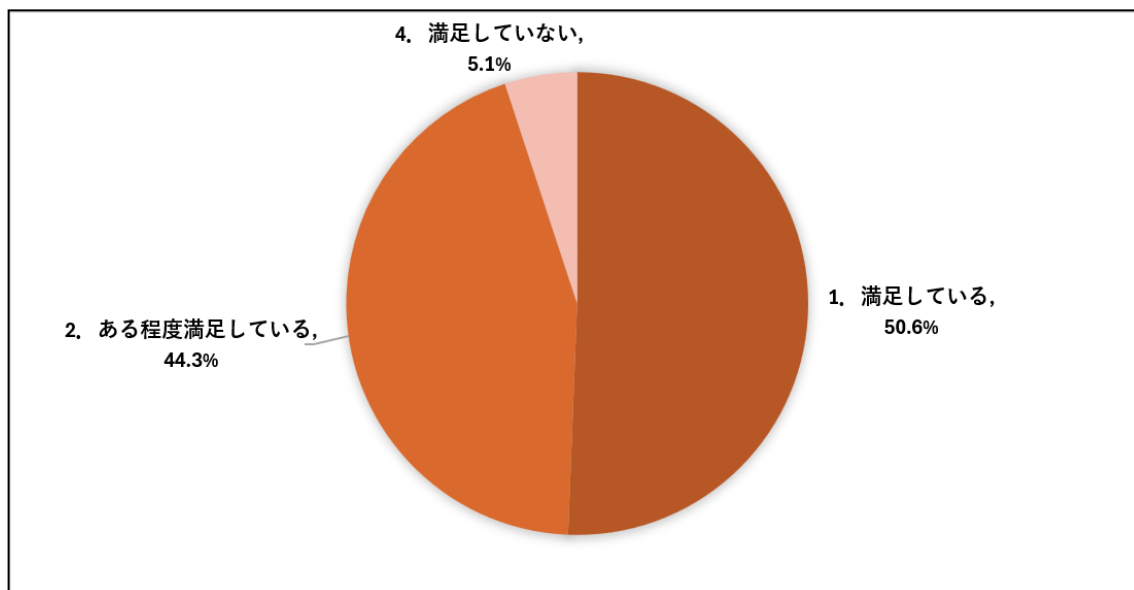
卒業・修了部局	回答者数
人間社会学域	26
理工学域	27
医薬保健学域	4
学士課程 小計	57
人間社会環境研究科	
博士前期課程	5
博士後期課程	6
法学研究科	
修士課程	2
自然科学研究科	
博士前期課程	19
博士後期課程	7
医薬保健学総合研究科	
修士課程	1
博士前期課程	4
博士後期課程	5
博士課程	1
先進予防医学研究科	
博士課程	1
新学術創成研究科	
博士前期課程	3
大学院課程 小計	54
総計	111

4-3-2 現在の職種（N=90）

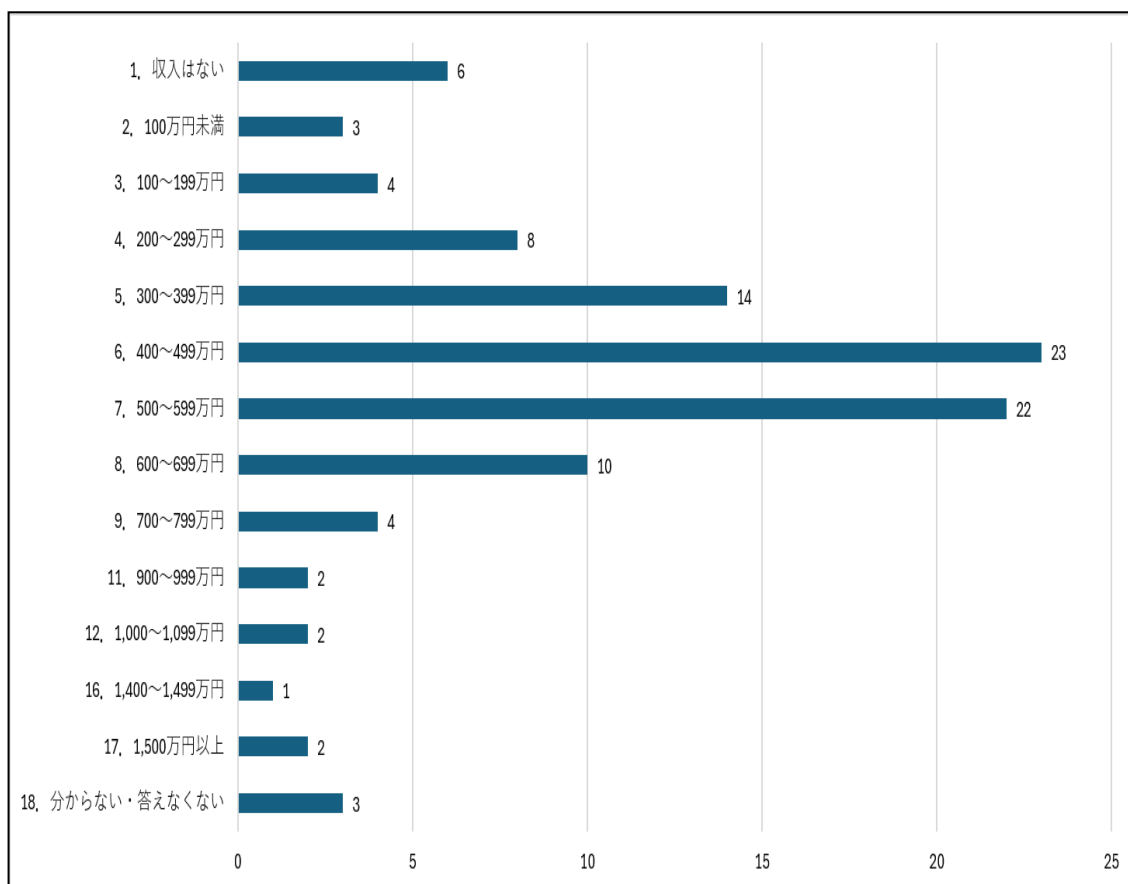
	1. 事務職	2. 経営・管理職	3. 技術職	5. 教育職	6. 研究職	7. 販売・サービス	8. 専門職・自由業	10. 農林漁業	総計
人間社会学域	8	2	2	4		4	1		21
理工学域	1		16	1	1		1	1	21
医薬保健学域					1		3		4
人間社会環境研究科									
博士前期課程	1	2			1				4
博士後期課程				3					3
法学研究科									
修士課程		1							1
自然科学研究科									
博士前期課程			10	2	5				17
博士後期課程	1		2	1	3				7
医薬保健学総合研究科									
修士課程									0
博士前期課程			1	1	1				3
博士後期課程			1	3	1				5
博士課程							1		1
先進予防医学研究科									
博士課程			1						1
新学術創成研究科									
博士前期課程				1	1				2
総計	11	5	33	16	14	4	6	1	90

4－3 令和7年度卒業・修了後アンケート

4－3－3 現在の職業満足度 (N=88)



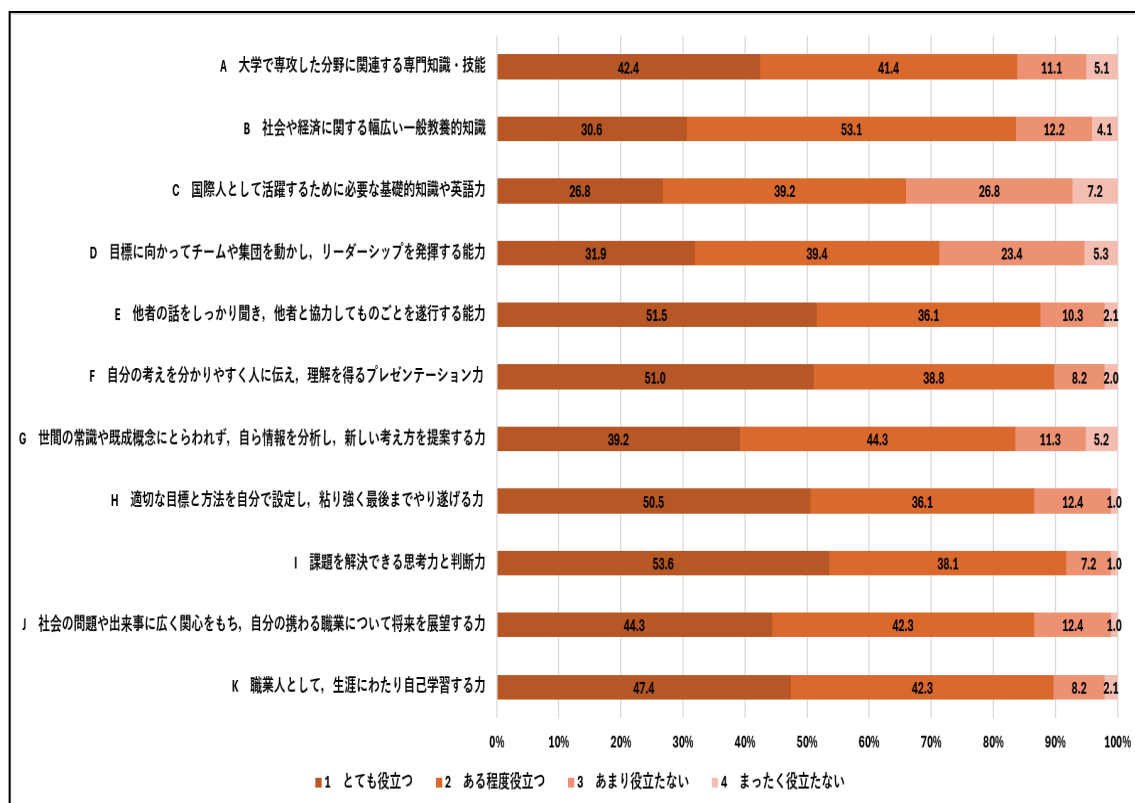
4－3－4 現在の個人年収 (N=104)



4-3 令和7年度卒業・修了後アンケート

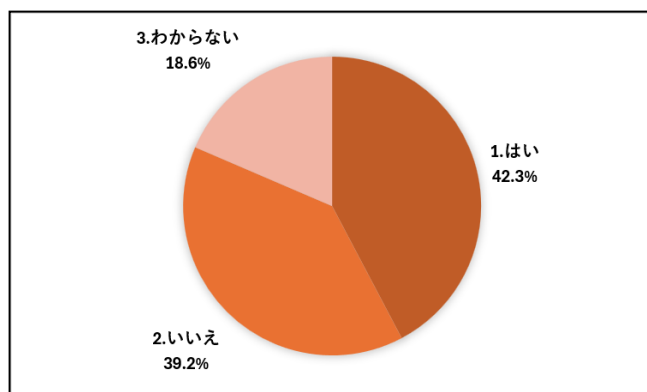
4-3-5 大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合い（N=99）

大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合いでは、「課題を解決できる思考力と判断力」「職業人として、生涯にわたり自己学習する力」「他者の話をしっかり聞き、他者と協力してものごとを遂行する能力」「自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーション力」「適切な目標と方法を自分で設定し、粘り強く最後までやり遂げる力」が特に高い結果となっている。



4-3-6 大学・大学院における学び直しの希望の有無（N=97）

問8の大学・大学院における学び直しについて、42.3%の割合で希望ありと答えており、例年以上に高い割合を示しており、社会人向けの学び直しの機会提供に関する情報発信を更に充実していく必要がある。



4－4 金沢大学 FD 委員会規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1031 号)

改正

(設置)

第 1 条 金沢大学教育企画会議に、国立大学法人金沢大学基幹会議規程第 22 条第 1 項の規定に基づき、金沢大学 FD 委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、本学及び本学の教員が、教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動を推進する事項について審議することを目的とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育方法等の調査・検討に関すること。
- (2) 研修会等の実施に関すること。
- (3) 各部局が実施する活動への支援に関すること。
- (4) その他全学的な連絡・調整に関すること。

(組織)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育担当理事が指名する副学長又は学長補佐 1 人
- (2) 融合学域を担当する教員から選出された者 1 人
- (3) 人間社会学域、理工学域及び医薬保健学域を担当する教員から選出された者 各 2 人
- (4) 各研究科を担当する教員から選出された者 各 1 人
- (5) 全学教育・国際共修機構基幹教育部門を担当する教員から選出された者 1 人
- (6) 全学教育・国際共修機構教学マネジメントセンターを担当する教員から選出された者 1 人
- (7) 学務部長
- (8) その他委員長が必要と認めた者 若干人

(任期)

第 5 条 前条第 1 号から第 6 号及び第 8 号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 6 条 委員会に委員長を置き、第 4 条第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会の会議を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

第7条 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(ワーキンググループ等)

第9条 委員会に、専門的事項を審議するため、ワーキンググループ等必要な下部組織を置くことができる。

(事務)

第10条 委員会の事務は、学務部学務課において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (抄)

この規程は、令和8年4月1日から施行する。

4-5 金沢大学におけるFD活動指針

平成21年3月9日	FD委員会承認
平成21年4月10日	教育企画会議承認
平成26年9月12日	教育企画会議改正
平成28年7月26日	FD委員会改正
平成29年3月10日	教育企画会議改正
令和3年6月4日	FD委員会改正
令和3年6月11日	教育企画会議改正
令和5年1月18日	FD委員会改正
令和5年3月10日	教育企画会議改正
令和8年3月6日	FD委員会改正
令和8年3月13日	教育企画会議改正

本学は、社会の信頼に応える学士課程並びに大学院課程教育を実現するために、社会的要請に的確に対応し、本学が掲げる教育研究上の目的に根ざした人材を育成することができるように、質の高い教育を実施する責務を負っている。

金沢大学学則第3条において、本学は、教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、自ら授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行うことを定めている。もとより、授業の内容及び方法の改善は、各教員や部局等において地道に積み重ねられてきたものであるが、今後は、それらの改善に向けての取組みを、計画・実践・評価・改善のサイクルの中に位置づけ、より組織的かつ継続的に行うことにより、実質的な改善へと繋げていかなければならない。

本指針に基づき、本学のFD及びSD活動がますます活発となり、一層本学の教育の質の向上及び学生支援の推進に繋がることを期待する。

(目的)

第1 この指針は、金沢大学におけるFD及びSD活動についての基本的事項を定め、授業の内容及び方法の改善、教職員による様々な学生支援及びそのための研究・教育に関する研修についての取組みを明らかにすることにより、本学の教職員及び部局等のFD及びSD活動を推進し、もって教育の質の向上を図り、学生支援の円滑な遂行を図ることを目的とする。

(定義)

第2 この指針において、「FD」(ファカルティ・ディベロップメント)とは、授業の内容及び方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための教員及び部局等の研究、研修等の自発的取組みをいう。

2 この指針において、「SD」(スタッフ・ディベロップメント)とは、教育研究活動等の

適切かつ効率的な運営を図るために必要な知識及び技能の習得並びに能力及び資質の向上を図るための教職員の研修等の自発的取組みをいう。

- 3 この指針において、「BSD（バックアップ・スタッフ・ディベロップメント）」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。
- 4 この指針において、「教職員」とは、本学の常勤及び非常勤の教職員をいう。
- 5 この指針において、「指導補助者（教員を除く。）」とは、ティーチング・アシスタント、高度ティーチング・アシスタント、スチューデント・アシスタントをいう。
- 6 この指針において、「部局等」とは、教職員個人を除き、学域・学類・研究科・センター等、FD活動に関して、組織的取組みを実施する主体をいう。

（教職員及び部局等の責務）

- 第3 本学の教員は、金沢大学学則第3条（自己点検評価及び研修等）及び金沢大学大学院学則第21条（授業の方法等）に基づき、個人として、積極的にFD活動に取り組むとともに、職務上必要に応じて、SD活動に取り組む。
- 2 本学の職員は、職務上必要に応じて、SD活動に取り組む。
- 3 部局等は、教員のFD活動を促進するために、組織的に授業の内容・方法の改善及び学生支援のための取組みや研修の計画を策定するとともに、その実施内容等を点検し、報告書を毎年度作成する。

（FD委員会の業務）

- 第4 FD委員会は、金沢大学FD委員会規程第3条に基づき、本学におけるFD及びBSD活動並びに本指針に関する事項を審議する。
- 2 FD委員会は、全学におけるFD活動に関する状況等を把握するとともに、それらの情報が全学的に共有されるよう努める。
- 3 FD委員会は、部局等の作成した報告書に基づき、当該年度の全学におけるFD活動に関する報告書（以下、「年度報告書」という。）を作成し、それを教育企画会議に報告する。

（FD委員会委員長による改善の措置等）

- 第5 FD委員会委員長は、部局等のFD活動の改善に必要と認めた場合、FD委員会の議に基づいて、改善のための適切な措置等を講ずるとともに、それを教育企画会議に報告する。

（年度報告書の公開）

- 第6 FD委員会委員長は、年度報告書を公表する。

（部局等の改善に向けての取組み）

- 第7 部局等は、自らFD活動の実施に努めるとともに、その活動内容等について、継続的に改善に努める。

- 2 部局等は、優れたFD活動を行っている教員への表彰や、研修会参加についての証明書発行等の、FD活動推進のための取組みを行うことができる。

(FD活動等への支援)

- 第8 教学マネジメントセンターは、FD、SD、BSD活動及び指導補助者（教員を除く。）への研修に対して、必要な支援を行う。

4－6 金沢大学における教育の内部質保証に関する指針

(令和6年2月9日 令和5年度第12回教育企画会議決定)

(令和8年3月30日 教育担当理事決裁)

1. 趣旨

本指針は、大学設置基準第1条第3項の規定に基づき、金沢大学が教育の状況を点検及び評価し、自ら改善及び改革を行う内部質保証を有効に機能させるために定める。

2. 目的

大学設置基準第2条の2及び第19条第1項並びに学校教育法施行規則第165条の2の規定に基づき、「入学者の受入れに関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」「卒業又は修了の認定に関する方針」(以下、「三つの方針」という。)に沿った教育の内部質保証体制を整え、教育課程の編成等や自己点検・評価、認証評価の結果を踏まえた不断の見直しを行うとともに、教育の実質化等による質向上を図る。

3. 方法

教育の内部質保証については、「教学マネジメント指針」(中央教育審議会大学分科会(令和2年1月22日))に沿って、「大学全体レベル」「学位プログラムレベル」「授業科目レベル」の3つのレベルに分けて捉える。

大学全体レベルについては、教育企画会議及びその下に設置された専門委員会が、教学マネジメントセンターの支援を受け、日常的な点検(モニタリング)及び総合的な点検・評価(レビュー)を行う。

学位プログラムレベルについては、三つの方針に則しつつ、あらかじめ定めた方法により、日常的な点検(モニタリング)を行うとともに、定期的に、学生が学修目標を確実に達成しているか、その上で改善が必要な事項は何かといった点も含め、様々な角度から掘り下げた分析を行うなど総合的な点検・評価(レビュー)を行うこととし、具体的な方法は次のとおりとする。なお、授業科目レベルについては、学位プログラムレベルに含め、日常的な点検(モニタリング)及び総合的な点検・評価(レビュー)を行う。

- (1) 学位プログラムの日常的な点検(モニタリング)として、各学位プログラムの責任者は、毎年度、当該学位プログラムの教育成果・学修成果に関する指標に基づき、日常的な点検を行い、教育担当理事・副学長に報告しなければならない。なお、本学においては、FD活動報告書を以て充てる。
- (2) 学位プログラムの総合的な点検・評価(レビュー)として、各学位プログラムの責任者

は、原則として7年に1回、毎年度点検（モニタリング）する教育成果・学修成果等について、学生が学修目標を確実に達成しているか、その上で改善が必要な事項は何かといった点も含め、様々な角度から掘り下げた分析を行い、教育担当理事・副学長に報告しなければならない。

- (3) 毎年度1回の日常的な点検（モニタリング）及び7年に1回の総合的な点検・評価（レビュー）の結果について、教育の内部質保証の推進責任者である教育担当理事・副学長は、教育企画会議の議を経て、内部質保証の統括責任者（学長）に報告する。報告を受けた内部質保証の統括責任者は、必要に応じて推進責任者に改善を指示し、推進責任者は教育企画会議に改善方針等を示し、改善活動を行う。

4. 教育成果・学修成果に関する各種調査データ

日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）において参照すべき各種調査データは、次のとおりとする。

- (1) 日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）を行う際には、表に掲げる各種調査データを参照しながら、点検・評価を行わなければならない。
- (2) 表に掲げる各種調査データのほか、必要に応じ、在学者、卒業・修了者、企業等から大学全体及び学位プログラム等に関する意見聴取を行い、点検・評価に資することが推奨される。
- (3) (1)及び(2)に関する各種調査データの提供及び分析等について、各学位プログラムの責任者からの依頼の下、教学マネジメントセンターが支援する。

5. 雑則

本指針に定めるもののほか、教育の内部質保証に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は令和6年2月9日から施行する。

附 則

この要領は令和8年4月1日から施行する。

表 教育成果・学修成果に関する各種調査データ一覧

調査名	指標	頻度	教学マネジメント レベル
新入生アンケート	志望理由、大学における学修に対する期待、入学者選抜に対する意見、希望進路、アドミッション・ポ	毎年度（入学時）	大学全体レベル 学位プログラムレベル

4－6 金沢大学における教育の内部質保証に関する指針

	リシー，入試広報活動，入学後の学修・学生生活		
授業評価アンケート	授業内容の適切性，担当教員の説明の仕方，授業外学修時間，授業理解度，学修目標達成度，授業満足度	毎年度（毎クォーターまたはセメスター）	授業科目レベル 学位プログラムレベル
学生生活実態調査（学士課程版・大学院課程版）	【学士課程版】 金沢大学＜グローバル＞スタンダードの達成度，住居・通学手段，経済状況，学修状況，学修環境・学生支援満足度，希望進路，課外活動，福利厚生施設への要望，その他要望事項 【大学院課程版】 金沢大学＜グローバル＞スタンダードの達成度，進学理由，住居・通学手段，経済状況，研究時間，研究環境，進路選択，キャリア支援，その他要望事項	毎年度	大学全体レベル 学位プログラムレベル
卒業・修了者アンケート	ディプロマ・ポリシー達成度，学修及び学生生活の満足度，その他必要な事項	毎年度	大学全体レベル 学位プログラムレベル
卒業・修了後アンケート	在学中に身につけるべき能力の就職後の活用度，職業満足度，年収，その他必要な事項	毎年度（原則として，卒業・修了後3年の者を対象）	大学全体レベル 学位プログラムレベル
就業先アンケート	在学中に身に付けるべき能力の実装度及び期待度，就職活動に対する対応度，その他必要な事項	2年に1回	大学全体レベル 学位プログラムレベル

4－7 金沢大学履修規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1079 号)

改正

(趣旨)

第 1 条 この規程は、金沢大学学則第 49 条第 3 項の規定に基づき、授業科目の履修について必要な事項を定めるものとする。

(授業科目と履修方法)

第 2 条 授業科目は、共通教育科目(「金沢大学<グローバル>スタンダード」を基軸とした、学士課程教育の基盤をなす授業科目をいう。)及び専門教育科目(学域に係る専門の学芸を教授することを目的とする授業科目をいう。)に区分する。

2 履修方法については、全学教育・国際共修機構及び各学域において別に定める。

第 3 条 共通教育科目は、「導入科目」、「G S 科目」、「G S 言語科目」、「基礎科目」、「初習言語科目」及び「自由履修科目」に区分する。

2 専門教育科目は、「学域 G S 科目」、「学域 G S 言語科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」に区分する。

(基幹教育特設プログラム)

第 4 条 特定の分野の学修を目的として、共通教育科目及び各学類が提供する専門教育科目から編成する教育プログラム(以下「基幹教育特設プログラム」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 基幹教育特設プログラムにおいて、所定の単位を修得した者には、共通教育委員会の議を経て、全学教育・国際共修機構長が修了を認定する。

3 前 2 項の教育課程等については、全学教育・国際共修機構において別に定める。

(副専攻)

第 5 条 学生が所属する学域、学類並びにコース及び専攻に係る分野以外の分野又は課題に関する教育課程(以下「副専攻」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 副専攻において、所定の単位を修得した者には、当該学生が所属する学域の教育研究会議の議を経て、学域長が修了を認定する。

3 前 2 項の教育課程等については、各学域において別に定める。

(先導 STEAM 人材育成プログラム)

第 5 条の 2 幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的として、「先導 STEAM 人材育成プログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 先導 STEAM 人材育成プログラムを修了した者には、修了証を交付する。

3 先導 STEAM 人材育成プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(データサイエンス特別プログラム)

第5条の3 数理・データサイエンス・AI 活用のための基礎的知識を有する人材を育成するため「データサイエンス特別プログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 データサイエンス特別プログラムを修了した者には、修了証を交付する。

3 データサイエンス特別プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(防災・復興人材特別プログラム)

第5条の4 地域の復旧・復興に貢献できる高度人材及び社会の防災・減災に貢献できる人材を育成するため「防災・復興人材特別プログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 防災・復興人材特別プログラムを修了した者には、修了証を交付する。

3 防災・復興人材特別プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(多文化ダイナミクスプログラム)

第5条の5 多文化共修を通じて、国内外の地域が抱える課題の発見、分析及び解決策の提案に取り組み、地域の文化を保護・保全しつつ、産業・地域振興の資源として活用しながら、多様な文化的背景を持つ者と協働して、地域の健全な発展に貢献する人材を育成する「多文化ダイナミクスプログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 多文化ダイナミクスプログラムを修了した者には、修了証を交付する。

3 多文化ダイナミクスプログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(多文化共修プログラム)

第5条の6 多様な背景を持つ学生が、文化、経験、価値観、専門性等に基づく多様な視点を生かして共に学修し、協働的に課題に取り組む力を育成するため、「多文化共修プログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 多文化共修プログラムを修了した者には、修了証を交付する。

3 多文化共修プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(教育職員免許状の取得に関する授業科目)

第6条 教育職員免許状を取得しようとする者は、別に定める「教科に関する専門的事項」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「各教科の指導法」、「大学が独自に設定する科目」及び「特別支援教育に関する科目」の単位を修得しなければならない。

(受講者の抽選・選抜)

第7条 一部の授業科目については、選抜試験又は抽選等で受講者を選定することがある。

2 前項の授業科目及び受講者の適正人数は、全学教育・国際共修機構及び各学域において指示するものとする。

(履修手続)

第8条 学生は、履修を希望する授業科目について、別に定める履修登録期間に履修登録手続により学域長又は全学教育・国際共修機構長に願い出、許可を受けなければならない。

2 学生は、履修登録期間後に履修を希望する授業科目の確認を行い、変更する場合は確認・変更期間内に手続を行わなければならない。

3 履修登録手続をしていない授業科目については、履修することができない。履修登録手続に不備又は誤りがあった場合も同様とする。

4 やむを得ない理由により、所定の期間内に履修登録手続を行うことができない場合は、その理由を付して学域長又は全学教育・国際共修機構長に届け出なければならない。

(履修登録の制限)

第9条 各学期又は各クォーターに履修登録できる単位数の上限は、各学域及び全学教育・国際共修機構で別に定める。

(履修許可の取消し)

第10条 履修を許可された後においても、本規程に違反して履修登録したことが判明した場合には履修の許可を取り消すことがある。

(単位認定対象資格)

第11条 次に掲げる各号のいずれかに該当する学生は、単位認定を受ける資格がないものとする。

(1) 当該授業科目の履修登録をしていない者

(2) 授業出席回数が全学教育・国際共修機構及び各学域で定める出席すべき授業回数に満たない者

(3) 休学期間が当該授業科目の開講期間と重なる者

(不正行為)

第12条 試験等における不正行為については、金沢大学学生懲戒規程の定めるところによる。

(単位確定時期)

第13条 各学期及び各クォーターにおける開講授業科目の単位確定時期は別に定める。

ただし、卒業者については学位授与の日をもって単位確定の時期とする。

(成績の評価)

第14条 授業科目の成績は、次の各号に掲げる基準によるものとする。

- | 評語 | 英訳(証明書) | 評語判定 | 学修達成度 |
|--------|---------------|------|-------------|
| (1) S | AA | 合格 | 90%以上 |
| (2) A | A | 合格 | 80%以上 90%未満 |
| (3) B | B | 合格 | 70%以上 80%未満 |
| (4) C | C | 合格 | 60%以上 70%未満 |
| (5) 合 | P: Pass | 合格 | 60%以上 |
| (6) 認定 | CF: Certified | 合格 | 60%以上 |
| (7) 不可 | | 不合格 | 60%未満 |
| (8) 否 | | 不合格 | 60%未満 |
| (9) 放棄 | | 不合格 | |
- 2 「合」及び「否」の評語は、一定水準の成績達成を目的とした授業科目において使用するものとする。
- 3 「認定」の評語は、本学の開講科目以外の授業科目及び外部試験等の結果により、評価する授業科目において使用するものとする。ただし、単位互換協定書その他により定めがある場合は、この限りでない。
- 4 単位認定を保留とする場合の基準及び保留後の成績評価方法については、全学教育・国際共修機構及び各学域において別に定める。
- 5 成績通知には、第1項の評語を用いる。
- 6 成績証明書には、判定が合格となった授業科目のみ記載し、第1項の評語を用いる。ただし、認定は「認」と表示する。

(総合成績評価)

第15条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

評語GP

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| (1) S | 4点 |
| (2) A | 3点 |
| (3) B | 2点 |
| (4) C | 1点 |
| (5) 合 | 対象外 |
| (6) 認定 | 対象外 |
| (7) 不可 | 0点 |
| (8) 否 | 対象外 |
| (9) 放棄 | 0点 (第14条第2項に規定する評語を用いる科目については対象外) |
- 2 単位認定が保留となった授業科目のGPは、0点とする。

3 GPA を算出する基準は、次のとおりとする。

$$\text{GPA} = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$$

4 成績証明書には、GPA は明記しない。

5 GPA における保留授業科目は、履修登録した授業科目の単位数の総和に含める。

6 再履修の取扱いについては、全学教育・国際共修機構及び各学域において別に定める。

7 GPA 対象外授業科目は、次のとおりとする。

(1) 共通教育科目

「導入科目」，「いしかわシティカレッジの他大学提供科目」，「放送大学の授業科目」，「入学前の既修得単位を「認定」の評語で単位認定した授業科目」及び「外部試験によって「認定」の評語で単位認定した授業科目」

(2) 前号以外の共通教育科目については、各学域において別に定める。

(3) 専門教育科目については、各学域において別に定める。

(成績評価の疑義申し立て)

第 16 条 成績の評価に対する疑義申し立てについては、「成績評価への疑義申し出に対する対応についての申し合わせ」による。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行し、平成 20 年度入学者から適用する。

附 則

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行し、平成 21 年度入学者から適用する。

附 則

この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行し、平成 28 年度入学生から適用する。

2 平成 28 年 3 月 31 日に在学する者については、なお従前の例による。ただし、第 4 条第 2 項に定める共通教育特設プログラムの修了認定は、国際基幹教育院長が行うものとする。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月12日に施行し、令和6年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和8年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和8年7月10日から施行し、令和8年4月1日から適用する。ただし、第5条の6の改正規定は、令和8年度入学者から適用する。

4-8

金沢大学シラバス様式

〇〇学域 〇〇学類

科目名[英文名] / Course Title			
担当教員名[ローマ字表記] / Instructor			
科目ナンバー / Numbering			
時間割番号 / Course Number		科目区分 / Subject distinguished	
講義形態 / Lecture Form		開講学域等 / Faculty	
適正人数 / Number of Proper		開講学期 / Semester	
曜日・時限 / Day・Period		単位数 / Number of Credits	
授業形態 / Class Format		60単位上限 Class to a maximum of 60 credits	
対象学生 / Target students			
キーワード / KeyWord			
講義室情報 / Lecture room information			
開放科目 / Open account			
備考 / Note			
授業の主題 / Topic			
学習目標 (到達目標) / Learning Goal(Target)			
授業概要 / Outline			
講義スケジュール / Lecture Schedule			
評価方法と割合 / Grading 【評価方法 / Grading Method】 ※成績評価：次項の項目及び割合で総合評価し、次のとおり判定する。 「S (達成度90%~100%)」, 「A (同80%~90%未満)」, 「B (同70%~80%未満)」, 「C (同60%~70%未満)」を合格とし, 「不可 (同60%未満)」を不合格とする。(標準評価方法) 【評価の割合 / Grading Rate】 【ルーブリック / Rubric】 【ルーブリック備考 / Rubric note】			
授業時間外の学習に関する指示 / Learning outside of class hours 【予習に関する指示 / Preparation】 【予習に関する教材 / Materials on preparatory studies】 【復習に関する指示 / Homework】 【復習に関する教材 / Materials on homework】			
教科書・参考書 / Books 【教科書 / Textbooks】 【参考書 / Reference Books】 【教科書・参考書補足 / Teaching Materials Note】			
オフィスアワー等 (学口からの質問への対応口法等) / Consultation Time / Contact information			
履修条件 / Prerequisites 【適正人数 / Class Size】 【受講者調整方法 / Method for adjusting class size】 【その他履修上の注意事項や学習上の助言 / Others】			
特記事項 / Special Note 【カリキュラムの中の位置づけ / Position of Curriculum】 【特記事項 / Special note】			

4-9

令和7年度 F D 委員会

事務担当：学務部学務課学務企画係

任期2025. 4. 1～2026. 3. 31

部 局 等	職 名	氏 名
〔委員長〕	学長補佐	合田 篤子
融合学域	教授	金間 大介
人間社会学域	教授	轟 亮
人間社会学域	教授	江藤 望
理工学域	教授	長尾 秀実
理工学域	教授	仁宮 一章
医薬保健学域	教授	吉田 栄人
医薬保健学域	教授	杉本 直俊
新学術創成研究科	教授	坂本 二郎
人間社会環境研究科	教授	入江 浩司
自然科学研究科	准教授	阪田 義隆
医薬保健学総合研究科	教授	太田 邦雄
先進予防医学研究科	准教授	平安 恒幸
法学研究科	教授	合田 篤子
教職実践研究科	教授	大谷 実
国際基幹教育院	准教授	渡辺 敦子
教学マネジメントセンター	教授	林 透
事務局学務部	学務部長	松本 佳子



令和7年度
金沢大学FD活動報告書
令和8年9月発行

編集・発行 金沢大学FD委員会
〒920-1192 金沢市角間町
E-mail : kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp (学務部学務課)